

傅山 (1607—1684)，明末清初医家、文学家、思想家、初名鼎臣，字青竹，后改字青主，别字公它，取它山之石可以攻玉之意。山西阳曲人。



傅 山 传

傅山（1607～1684），明末清初医家、文学家、思想家。初名鼎臣，字青竹，后改字青主，别字公它，取它山之石可以攻玉之意。山西阳曲人。幼习举业，年十四补博士弟子员；后来傅山目睹明朝日渐腐败，战乱频繁，疫病流行，民不聊生，便学习医药，欲以医救国；明崇祯九年（1636年）为提学袁继咸被诬下狱事伏阙讼冤，声闻天下。明亡后，遂隐居于土穴中，衣朱衣，号朱衣道人，又有真山、浊翁、石道人等别名，坚不仕清。他在山中曾有《风闻叶润苍先生举义》一诗云：“铁脊铜肝杖不糜，山东留得好男儿。橐装倡散天祚俸，敲角高鸣日月悲。咳唾千夫来虎豹，风云万里泣熊羆。山中不诵无衣赋，遥伏黄冠拜义旗！”康熙年间皇帝下诏举行博学鸿词科举考试，傅青主被强拉到北京，但他故意服食过量大黄造成腹泻以逃避；后来康熙皇帝授予他中书舍人的官职，仍托老病辞归。傅青主终生拒绝与清朝合作，终老林泉。

他博通经史诸子和佛学之道，在哲学上公开以“异端”自命。其用佛学解释《庄子》，用训诂诠注《墨子》和《公孙龙子》等，且时有新义阐发；并将诸子和六经并列，提倡“经子不分”，打破儒家正统之见，开创清代子学研究风气。他反对宋、明代学者注经的态度和方法，认为他们“只在注脚中讨分晓，此之谓钻故纸，此之谓蠹鱼”，并指责道学家为“奴儒”，为“风痹死尸”。他做学问主张用批判的方法，冷静客观的态度去辨别汲取。提倡独立思考，不泥于前人所见。

傅青主兼工诗文、书画、金石、书法、绘画、诗词、音韵

训诂之学，又精医学，擅长内、妇、幼诸科，尤其在妇产科学方面贡献更大，且家有秘方，故求医者盈门。在治学方面，他认为作为一名医生，要精通医理。治病就象打仗一样，必须针对变化着的疾病和病情来灵活运用方药。医生治病，处方用药，是关系到生命的大事，一定要谨慎小心，深思熟虑，方可开列处方。傅山还非常注意收集来自民间的一些单方、验方，以丰富其医疗知识。他开的处方，在保证疗效的基础上，力争花钱少，奏效大，不花钱，也治病。前人曾有评论云：“青主之字，不如其画，画不如其医，医不如其人。”

傅山的许多医学著述或者由他人托名神传、仙授而刊行于世，或者以抄本形式传承流散于民间，其传世医书主要有《傅青主女科》、《傅青主男科》、《傅氏幼科》、《大小诸症方论》（1673年）等，对后世均有重要影响。

特别是《傅青主女科》，更是清代主要传世之妇产科专著，流传颇广。一说《傅青主女科》节自陈士铎《辨证录》等医书，系托名著作，但从其遗墨《医学手稿》可知，此即为《傅青主女科》“调经”部分。据顾炎武序（1673年）称“予友傅青主先生手著《女科》一卷、《小儿科》一卷、《男科杂症》一卷”，可见以上医书确为傅氏所著。

傅氏女科，继承了清朝以前历代医学家关于妇产科学的学说，并结合自己的临床经验，提出了很多有独特风格的学术见解。他把所有妇产科疾病，分列在调经、种子、崩漏、带下、妊娠、小产、临产、产后及生化编等九门项下，内容涉及整个妇产科领域。他的很多见解，至今仍对现代临证用药有极大的指导意义和参考价值。

同时，《傅青主男科》也具有很大影响，是我国第一部以男科命名的专著，全书涉及男科遗精、滑精、淋、浊、阳强、

阳痿、肾子痛、偏坠等 8 个病种，12 首方剂。尤其是他在书中对痰证做了精辟的论述，首先提出要察明病程的久暂，以确定痰证发生的病源。初病之痰，如伤风咳嗽吐痰，虽病位在上焦，而“痰原在胃中而不在肺”，只要“去其胃中之痰，而肺金自然清肃”；已病之痰，责之于脾，治法侧重健脾祛湿，其次根据痰色的白与黄而论治，黄痰为火已退，白痰属火正炽，火正炽者用寒凉之品，将退者用祛逐之味；久病之痰因于肾，“非肾水泛上为痰，即肾火沸腾为痰”，治当“补肾以祛逐之”。

重视疾病的病程阶段变化，重视对初病的治疗，是《傅青主男科》辨证论治的主要精神之一。凡能见微知著，进而防微杜渐，预安未受邪之地者，才称得上是医中之上工。

学苑出版社医药编辑室

付国英

2006 年 4 月 26 日

目 录

傅青主男科

男科卷上	(3)
伤寒门	(3)
初病说	(3)
伤风	(3)
伤寒	(3)
外感	(4)
伤食	(4)
疟疾	(4)
伤暑	(5)
大满	(5)
发汗	(6)
寒热真假辨	(6)
乍寒乍热辨	(7)
真热证	(7)
真寒证	(7)
假热证	(8)
假寒证	(9)
真热假寒	(9)
真寒假热	(10)
上热下寒	(10)
循衣撮空	(10)

阴虚双蛾	(11)
结胸	(11)
扶正散邪汤	(11)
火证门	(12)
泻火汤总方	(12)
火证	(12)
火越	(13)
燥证	(13)
治火丹神方	(13)
消食病	(13)
痿证	(14)
痿证	(14)
郁结门	(15)
开郁	(15)
关格	(15)
虚癆门	(16)
癆证虚损辨	(16)
内伤发热	(17)
未成癆而将成癆	(17)
阳虚下陷	(17)
阴虚下陷	(18)
阴亏火动，夜热昼寒	(18)
阴寒无火	(19)
过劳	(19)
日重夜轻	(20)
夜重日轻	(20)
阴邪兼阳邪	(21)
气血两虚	(21)

气虚胃虚	(22)
气虚饮食不消	(22)
血虚面色黄瘦	(22)
肺脾双亏	(23)
肝肾两虚	(23)
心肾不交	(24)
精滑梦遗	(25)
夜梦遗精	(26)
遗精健忘	(26)
倒饱中满	(26)
久虚缓补	(27)
补气	(27)
补血	(28)
出汗	(28)
辨证	(28)
痰嗽门	(29)
初病之痰	(29)
已病之痰	(30)
久病之痰	(30)
滞痰	(31)
湿痰	(31)
寒痰	(31)
热痰	(32)
老痰	(32)
顽痰	(32)
水泛为痰	(32)
中气又中痰	(33)
湿嗽	(33)

久嗽	(34)
肺嗽兼补肾	(34)
喘证门	(35)
气治法	(35)
气喘	(35)
实喘	(36)
虚喘	(37)
气短似喘	(37)
抬肩大喘	(38)
肾寒气喘	(38)
肾火扶肝上冲	(39)
假热气喘吐痰	(39)
喘嗽	(40)
贞元饮	(40)
吐血门	(40)
阳证吐血	(40)
大怒吐血	(41)
吐血	(41)
吐白血	(42)
血不归经	(42)
三黑神奇散	(43)
呕吐门	(43)
脾胃证辨	(43)
反胃大吐	(44)
寒邪犯肾大吐	(44)
呕吐	(45)
火吐	(45)
寒吐	(45)

胃吐	(45)
反胃	(46)
胃寒	(46)
肾寒吐泻，心寒胃弱	(47)
臌证门	(48)
水臌	(48)
气臌	(48)
虫臌	(49)
血臌	(49)
水证门	(50)
水肿	(50)
呃逆	(50)
水结膀胱	(51)
湿症门	(51)
黄证	(51)
痒症	(52)
伤湿	(52)
脚气	(52)
男科卷下	(55)
泄泻门	(55)
泻甚	(55)
水泻	(55)
火泻	(55)
水泻	(56)
泄泻吞酸	(56)
痢疾门	(57)
火邪内伤辨	(57)

痢疾	(57)
血痢	(58)
寒痢	(58)
大小便门	(59)
大便不通	(59)
实证大便不通	(60)
虚症大便不通	(60)
小便不通	(60)
大小便不通	(61)
厥症门	(62)
寒厥	(62)
热厥	(62)
尸厥	(63)
厥证	(63)
气虚猝倒	(63)
阴虚猝倒	(64)
阳虚猝倒	(64)
肾虚猝倒	(65)
大怒猝倒	(65)
中风不语	(66)
口眼歪斜	(66)
半身不遂	(67)
半身不遂，口眼歪邪	(68)
痛证	(68)
癲狂门	(69)
癲狂	(69)
发狂见鬼	(69)
发狂不见鬼	(70)

狂症	(70)
寒狂	(71)
怔忡惊悸门	(71)
怔忡不寐	(71)
心惊不安，夜卧不睡	(71)
恐怕	(72)
神气不宁	(73)
腰腿肩臂手足疼痛门	(74)
满身皆痛	(74)
腰痛	(74)
腰痛	(74)
腰痛	(74)
腰腿筋骨痛	(75)
腰痛足亦痛	(75)
腿痛	(75)
两臂肩膊痛	(76)
手足痛	(76)
胸背、手足、颈项、腰膝痛	(76)
背骨痛	(77)
腰痛兼头痛	(77)
心腹痛门	(78)
心痛辨	(78)
热痛	(78)
寒痛	(78)
久病心痛	(78)
久病心痛	(79)
腹痛	(79)
腹痛	(79)

冷气心腹痛	(80)
胃气痛	(80)
麻木门	(81)
手麻木	(81)
手麻	(81)
手足麻木	(82)
木	(82)
腿麻木	(82)
两手麻木，困倦嗜卧	(82)
浑身麻木	(82)
麻木痛	(83)
足弱	(83)
筋缩	(83)
胁痛门	(84)
两胁有块	(84)
左胁痛	(84)
右胁痛	(85)
左右胁俱痛	(85)
两胁走注	(85)
胁痛身热	(85)
胁痛	(85)
胁痛咳嗽	(86)
浊淋门	(86)
二浊五淋辨	(86)
淋证	(86)
浊证	(87)
肾病门	(87)
阳强不倒	(87)

阳痿不举	(87)
尿血又便血	(88)
疝气	(88)
肾子痛方	(88)
偏坠	(89)
杂方门	(89)
病在上而求诸下	(89)
病在下而求诸上	(90)
疮毒	(90)
头面上疮	(90)
身上手足之疮疽	(91)
统治诸疮	(91)
黄水疮	(91)
手汗	(91)
饮砒毒	(92)
补肾	(92)
嚏喷法	(92)
破伤风	(92)
疯狗咬伤	(93)
小儿科	(93)
色	(93)
脉	(93)
三关	(94)
不食乳	(94)
脐不干	(95)
山根	(95)
发热	(95)
感冒风寒	(96)

惊风	(96)
惊风	(97)
痢疾	(97)
泄泻	(98)
寒泻	(98)
吐	(98)
咳嗽	(98)
疳证	(98)
口疳流水口烂神方	(99)
疳证泻痢眼障神方	(99)
疟疾	(99)
便虫	(100)
积虫	(100)
痘证回毒或疔肿方	(100)
痘疹坏证已黑	(100)
急慢风	(101)
治火丹神方	(101)

傅青主女科

女科上卷	(105)
带下	(105)
白带下	(105)
青带下	(106)
黄带下	(107)
黑带下	(108)
赤带下	(109)

血崩	(111)
血崩昏暗	(111)
年老血崩	(112)
少妇血崩	(112)
交感出血	(113)
郁结血崩	(114)
闪跌血崩	(115)
血海太热血崩	(115)
鬼胎	(117)
妇人鬼胎	(117)
室女鬼胎	(119)
调经	(120)
经水先期	(120)
经水后期	(121)
经水先后无定期	(122)
经水数月一行	(123)
年老经水复行	(123)
经水忽来忽断时疼时止	(124)
经水未来腹先痛	(125)
行经后少腹疼痛	(125)
经前腹痛吐血	(126)
经水将来脐下先疼痛	(127)
经水过多	(128)
经前泄水	(129)
经前大便下血	(129)
年未老经水断	(131)
种子	(132)
身瘦不孕	(132)

胸滿不思食不孕.....	(133)
下部冰冷不受孕.....	(134)
胸滿少食不孕.....	(135)
少腹急迫不孕.....	(136)
嫉妒不孕.....	(137)
肥胖不孕.....	(138)
骨蒸夜熱不孕.....	(139)
腰酸腹脹不受孕.....	(140)
便澀腹脹足浮腫不孕.....	(141)
女科下卷	(143)
妊娠	(143)
妊娠惡阻.....	(143)
妊娠浮腫.....	(144)
妊娠少腹痛.....	(145)
妊娠口干咽痛.....	(146)
妊娠吐瀉腹疼.....	(147)
妊娠子懸脇疼.....	(148)
妊娠跌損.....	(149)
妊娠小便下血病名胎漏.....	(149)
妊娠子鳴.....	(150)
妊娠腰腹疼渴汗燥狂.....	(151)
妊娠中惡.....	(152)
妊娠多怒墮胎.....	(153)
小產	(154)
行房不慎小產.....	(154)
跌閃小產.....	(155)
大便干結小產.....	(156)

畏寒腹痛小产.....	(156)
大怒小产.....	(157)
难产.....	(158)
血虚难产.....	(158)
交骨不开难产.....	(159)
脚手先下难产.....	(160)
气逆难产.....	(161)
子死产门难产.....	(162)
子死腹中难产.....	(162)
正产.....	(163)
正产胞衣不下.....	(163)
正产气虚血晕.....	(165)
正产血晕不语.....	(166)
正产败血攻心晕狂.....	(167)
正产肠下.....	(167)
产后.....	(168)
产后少腹疼.....	(168)
产后气喘.....	(170)
产后恶寒身颤.....	(171)
产后恶心呕吐.....	(171)
产后血崩.....	(172)
产后手伤胞胎淋漓不止.....	(173)
产后四肢浮肿.....	(174)
产后肝疼.....	(175)
产后气血两虚乳汁不下.....	(176)
产后郁结乳汁不通.....	(176)

傅青主
田助科

男 科 卷 上

伤 寒 门

初病说

凡病初起之时，用药原易奏功。无如^①世人看不清证，用药错乱，往往致变证^②蜂起。苟看病情，用药当，何变证之有？

【注释】

- ① 无如：无论如何，意即无奈。
- ② 变证：疾病由简单变复杂，从轻变重的证候变化。

伤 风^①

凡人初伤风，必然头痛身痛，咳嗽痰多，鼻流清水，切其脉必浮。

方用：荆芥、防风、柴胡、黄芩、半夏、甘草各等分，水煎服。一剂即止，不必再剂也^②。

【注释】

- ① 伤风：伤于风邪而发病，称伤风感冒。临床表现有“风寒”或“风热”等不同类型。
- ② 前人对这一篇加有批语：“古方书皆曰中风，今曰伤风。”

伤 寒^①

凡伤寒初起，鼻塞目痛，项强^②头痛，切其脉必浮紧。

方用：桂枝、干葛、陈皮、甘草各等分，水煎服。一剂即愈。

【注释】

① 伤寒：1. 病名或证候名。广义的伤寒是外感发热病的总称；狭义的伤寒是属于太阳表证的一个证型，主要症状有发热、恶寒、无汗、头项强痛、脉浮紧等，与现代医学所称的“伤寒”不同。2. 病因。指伤于寒邪。

② 项强：指头部后项的肌肉筋脉牵引不适的症状。

外 感

凡人外感，必然发热。

方用：柴胡、黄芩、荆芥、半夏、甘草各等分，水煎服。

四时不正之气，来犯人身，必然由皮毛而入营卫，故用柴胡、荆芥，先散皮毛之邪。邪既先散，安得入内？又有半夏以祛痰，使邪不得挟痰以作祟；黄芩以清火，使邪不得挟火以作殃；甘草调药以和中，是以邪散而无伤于正气也。若内伤之发热，则不可用此方^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“外感之发热，卫气外闭也；内伤之发热，营气内损也。外感伤于皮毛，内伤热在骨髓，治法不同。内伤发热方见下。”这里指出外感发热和内伤发热的证候和治法是不同的。

伤 食

凡伤食，必心中饱闷，见食则恶，食之转痛也。

方用：白术、茯苓、枳壳各一钱，谷芽、麦芽各二钱，山楂二十个，神曲五钱，半夏一钱，甘草五分，砂仁三粒，水煎服。一剂快，二剂愈。

疰 疾

方用遇仙丹：生军六两，槟榔、三棱、莪术、黑丑、白丑

各三两，木香二两，甘草一两，水丸^①。遇发日清晨，温水化三、四丸，寻^②以温米饮^③补之。忌生冷、鱼腥、荞面^④。孕妇勿服^⑤。

【注释】

① 水丸：水泛丸，即将各药研末，用水调制为丸。

② 寻：旋即；不久。

③ 温米饮：温热的米汤。

④ 荞面：荞麦磨研成的粉状。即荞麦面。

⑤ 前人对这一篇加有批语：“此方丸之大小未曾定分两，愚酌以一钱为准，南方之人以及老弱久疟，尤宜减半。”

伤 暑

人感此证，必然头晕、口渴、恶热，甚则痰多、身热、气喘。

方用：人参一钱，白术五钱，茯苓三钱，甘草一钱，青蒿一两，香薷三钱，陈皮一钱，水煎服。一剂愈。

大 满^①

此邪在上焦，壅塞^②而不得散也。

方用：瓜蒌一个（捣碎），枳壳、天花粉各三钱，梔子二钱，陈皮三钱，厚朴一钱五分，半夏、甘草各一钱，水煎服。

此方之妙，全在用瓜蒌，能去胸膈之食，而消上焦之痰；况又佐以枳壳、花粉，同是消中圣药；又有厚朴、半夏，以消胃口之痰；尤妙在甘草，使群药留中^③而不速下，则邪气不能久存而散矣。

【注释】

① 大满：为表邪入里、内陷心胸与痰饮相结而不得消散的病证。

② 壅塞：堵塞，阻塞。

③ 留中：指有意使药物停留中焦胃脘部。

发 汗

凡人邪居腠理^①，必须用汗药以泄之。

方用：荆芥、防风、甘草、桔梗、苏叶各一钱，白术五钱，云苓三钱，陈皮五分，水煎服。

此方妙在君白术，盖人之脾胃健，而后皮毛腠理始得开合自如。白术健脾去湿，而邪已难存，况有荆、防、苏梗以表邪之乎^②！

【注释】

① 腠理：皮肤、肌肉、脏腑的纹理。此处指皮肤与肌肉交接的地方，又称“皮腠”。

② 前人对这一篇加有批语：“此方本玉屏风加减。”

寒热真假辨

真热证：口干极而呼水，舌燥极而开裂，生刺喉痛，日夜不已，大热烙手而无汗也。

真寒证：手足寒久而不回，色变青紫，身战不已，口噤^①出声而不可禁也。

假热证：口虽渴而不甚，舌虽干而不燥，即燥而无芒刺^②、纹裂也。

假寒证：手足冰冷，而时有温和，厥逆^③身战亦未太甚，而有时而定，有时而搐^④是也。

【注释】

① 口噤：指牙关紧闭、口不能张的症状。

② 芒刺：草木上生长的刺。此处是指舌苔隆起如刺状，是热极的征象。

③ 厥逆：四肢厥冷。

④ 搐：指肘臂伸缩抽动的症状，俗称“抽风”。

乍寒乍热辨

病有洒淅恶寒^①而后发热者，盖阴脉^②不足，阳往从之^③，阳脉^④不足，阴往乘之^⑤。何谓阳不足？寸脉微，名曰阳不足，阴气上人阳中^⑥，则恶寒也。何谓阴不足？尺脉弱，名曰阴不足，阳气下陷阴中^⑦则发热也。凡治寒热，用柴胡升阳气，使不下陷阴中，则不热也；用黄芩降阴气，使不升入阳中，则不寒也^⑧。

【注释】

① 洒淅恶寒：形容病人恶风寒时，好像冷水喷洒在身上，或被雨水淋透的感觉。

② 阴脉：（阴经）指经脉中的阴经，其中包括手足三阴经、任脉、冲脉、阴维脉、阴跷脉等。

③ 阳往从之：指阴气不足，阳邪跟随侵入阴分。从，跟随。

④ 阳脉：（阳经）指经脉中的阳经，其中包括手足三阳经、督脉、阳维脉、阳跷脉等。

⑤ 阴往乘之：指阳气不足，阴邪追随侵入阳分。乘，追逐。

⑥ 阴气上人阳中：根据中医“上为阳，下为阴”的理论，人体上部为阳气分野，阴气入阳中，即阴邪侵入阳分。

⑦ 阳气下陷阴中：指阳邪侵入阴分。

⑧ 前人对这一篇加有批语：“玩此可知治疟有用小柴胡汤之法。”

真热证

方用：麻黄、黄连、黄芩、石膏、知母、半夏各一钱，当归五钱，枳壳二钱，甘草一钱，水煎服。一剂轻，二剂愈。

真寒证

方用：附子三钱，肉桂、干姜各一钱，白术五钱，人参一

两，水煎服，急救之。

此乃真中寒邪，肾火避出躯壳^①之外，而阴邪之气，直犯心宫，心君不守^②，肝气无依^③，乃发战发噤，手足现青色。然则用桂、附、干姜逐其寒邪足矣，何用参、术？即用，何至多加？盖元阳^④飞越，祇一线之气未绝，纯^⑤用桂、附、干姜一派辛辣之药，邪虽外逐，而正气垂绝^⑥，若不多加参、术，何以反^⑦正气于若存若亡^⑧之际哉？

【注释】

① 肾火避出躯壳：指阴寒内盛，致阴阳分离，肾阳外脱。

② 心君不守：心火不能守位。心主火，心火离散，导致心阳衰竭，血脉不行，故称心君不守。

③ 肝气无依：肝气无处依附。肝气依附于肝血，现心不行血，肝亦无血可藏，故肝气无依。

④ 元阳：即“肾阳”，又有“真阳”“真火”“命门之火”等名称。肾阳寓于命门之中，为先天之真火，是肾脏生理功能的动力，也是人体热能的源泉。

⑤ 纯：民国本作“祇”。

⑥ 垂绝：指接近于亡失。垂，接近。绝，断绝。

⑦ 反：通“返”。指挽回。

⑧ 若存若亡：似有似无。意思是将近断绝。

假热证

方用：黄连、当归、白芍、半夏各三钱，茯苓、柴胡、梔子各二钱，枳壳一钱，菖蒲三分，水煎服。

此方妙在用黄连入心宫，佐以梔子，提刀直入，无邪不散；柴胡、白芍又塞敌运粮之道；半夏、枳壳斩杀余党。中原^①即定，四隅^②不战而归。然火势居中，非用之得法，则贼势弥张^③，依然复入。又加菖蒲之辛热，乘热饮之，则热喜

热，不致相反而更相济^④也。

【注释】

- ① 中原：此处意指首要、关键之处。
- ② 四隅：四角。意为次要之处。隅，角落。
- ③ 弥张：更盛。此处意为发展、蔓延。
- ④ 相济：相互补益。

假寒证

方用：肉桂、附子各一钱，人参三钱，白术五钱，猪胆汁半个，苦菜^①汁十三匙，水三杯，煎一杯，冷服。

将药并器放冷水中，激^②凉入胆、菜汁调匀，一气服之。方用全是热药，倘服不如式^③，必然虚火上冲，将药呕出。必热药凉服，已足顺其性，况下行又有二汁之苦，以骗其假道之防也哉。

【注释】

- ① 苦菜：为菊科植物苦苣菜的全草。
- ② 激：急速。
- ③ 不如式：不依照正确的方法。

真热假寒

此证身外冰冷，身内火炽，发寒发热，战栗^①不已，乃真热反现假寒之象以欺人也。法当用三黄汤加石膏、生姜，乘热饮之，再用井水以扑其心，至二、三十次，内热自止，外之战栗亦若失矣。后用元参、麦冬、白芍各二两煎汤，任其恣饮，后不再甚也。

【注释】

- ① 战栗：症名，指因恶寒而发抖。

真寒假热

此证下部冰冷，上部大热，渴欲饮水，下喉即吐，乃真寒反现假热之形以欺人也。法当用八味汤^①，大剂探冷^②与服；再令人以手擦其足心，如火之热，不热不已，以大热为度。用吴萸一两，附子一钱，麝香三分，以少许白面入之，打糊作膏贴足心。少顷^③必睡，醒来下部热，而上之火息矣。

【注释】

① 八味汤：即金匱肾气丸做汤剂。

② 探冷：探测药液至凉时。

③ 少顷：一会儿。

上热下寒

此证上焦^①火盛，吐痰如涌泉，赤喉痛，上身不欲盖衣，而下身冰冷，此上假热而下真寒也。

方用：附子一枚^②，熟地半斤，山萸四两，麦冬一两，茯苓三两，五味子一两，丹皮三两，泽泻三两，肉桂一两，水十碗，煎三碗，探冷与服。其二渣再用水三碗，煎一碗，一气服之，立刻安静。此上病下治之法也。

【注释】

① 上焦：一般是指胸膈以上部位，包括心、肺在内。

② 枚：光绪本作“个”。

循衣撮空^①

此证非大实则大虚，当审其因、察其脉、参其症而分黑白矣。实而便秘者，大承气汤；虚而便滑者，独参汤；厥逆者加附子。

【注释】

① 循衣撮空：指神志昏迷的病人，用手摸弄衣被及两手伸向空间像要拿东西样的症状。

阴虚双蛾^①

方用：附子一钱，盐水炒，每用一片含口中，后以六味地黄汤大剂饮之。

附外治法：引火下行。用附子一个为末，醋调贴涌泉穴。或用吴萸一两，白面五钱，水调贴涌泉穴，急针少商穴，则咽喉有一线之路矣。

【注释】

① 双蛾：指咽喉双侧扁桃体红肿充血，表面有黄白色脓样分泌物，形如蚕蛾的病症。即急性扁桃腺炎。

结 胸

此伤寒之变证也。伤寒邪火正炽，不可急于饮食，饮食而成此者。

方用：瓜蒌一个（捶碎），甘草一钱，水煎服，勿迟。

瓜蒌乃结胸之圣药，常人服之，必至心如遗落^①，病人服之，不畏其虚乎？不知结胸之证，是食在胸中，非大黄、枳壳、槟榔、厚朴所能祛逐，必得瓜蒌始能推荡^②开脾，少加甘草以和之，不至十分猛烈也。

【注释】

① 心如遗落：形容心下空虚的感觉。遗落，丢失。

② 推荡：推动涤除。

扶正散邪汤

人参、半夏、甘草各一钱，白术、茯苓、柴胡各三钱，水

煎服。

此方专治正气虚而邪气入之者，如头痛、发热，右寸脉大于左寸口者，急以此方投之，无不全愈。

火 证 门

泻火汤总方

梔子、丹皮各三钱，白芍五钱，元参二钱，甘草一钱，水煎服。心火加黄连一钱，胃火加生石膏三钱，肾火加黄柏、知母各一钱，肺火加黄芩一钱，大肠火加地榆一钱，小肠火加天冬、麦冬各一钱，膀胱火加泽泻三钱。

治火何独治肝经？盖肝属木，最易生火；肝火散，则诸经之火俱散。但散火必须用下泄之药，而使火之有出路也则得矣。

火 证

真火证^①，初起必大渴引饮，身有斑点，或身热如焚，或发狂乱语。

方用：石膏、知母、升麻、半夏、甘草各三钱，元参、麦冬各一两，竹叶一百片，水煎服。一剂少止，三剂愈^②。

【注释】

① 真火证：即实火证，指火邪极盛引起的实证、热证。

② 前人对这一篇加有批语：“大寒之证，亦有发斑者，但看其渴与不渴。若是发斑不渴，少饮即吐，饮虽沸汤，不觉其热，此大寒证，不可与此。”

火 越^①

此乃胃火与肝火共腾而外越，不为丹毒^②，即为痧疹^③，非它火也。

方用：元参一两，干葛三两，升麻、青蒿、黄芪各三钱，水煎服。

此方妙在用青蒿，肝胃之火俱平，又佐以群药重剂，而火安有不减者乎？治小儿亦效。

【注释】

① 火越：指火邪炽盛向外发泄的病症。越，散发，发扬。

② 丹毒：是一种急性的皮肤热毒病症，以患部皮肤红如涂丹故名。患处皮肤发热、发红、痛，并且有发热恶寒等全身症状。

③ 痧疹：皮肤上发出红色小点，形状像粟米，抚摸时感到粗糙的一种病症。大多由风热郁肺引起。

燥 证

此证初起，喉干口渴，干燥不吐痰，干咳嗽不已，面色日红，不畏风吹者是也。

方用：麦冬、元参各五钱，桔梗三钱，花粉、甘草各一钱，陈皮三分，百部八分，水煎服。

治火丹^①神方

丝瓜子、元参各一两，柴胡、升麻各一钱，当归五钱，水煎服。小儿服之亦效。

【注释】

① 火丹：即丹毒。

消食病^①

此火盛之证，大渴引饮，呼水自救^②，朝食即饥，或夜食

不止。

方用：元参一两，麦冬五钱，生地三钱，竹叶三十片，菊花、白芥子、丹皮各二钱，陈皮五分，水煎服。

【注释】

① 消食病：即消渴病，以口渴多饮、消谷善饥、多尿等为主要症状。该病分上、中、下三个证型。消食病指中消。

② 呼水自救：患者不断喊叫要饮水，以解口渴。

痿 证^①

不能起床，已成废人者，此乃火盛内炽，肾水熬干。治法宜降胃火而补肾水。

方用降补汤：熟地、元参、麦冬各一两，甘菊花、生地、沙参、地骨皮各五钱，车前子二钱，人参三钱，水煎服。

【注释】

① 痿证：指肢体筋脉弛缓无力，渐至肌肉萎缩而不能随意运动的一种病证。

痿 证

人有两足无力，不能起立，而口又健饭^①，少饥即头面皆热，咳嗽不已，此亦痿证。

方用起痿至神汤：熟地、元参、山药、菊花各一两，当归、白芍、人参各五钱，神曲二钱，白芥子三钱，水煎服。三十剂而愈^②。

【注释】

① 健饭：食欲旺盛，饭量大。

② 傅氏对痿证列出了二个证候。前面系胃火炽盛、津液干枯而痿，伤在胃和肾；后者是肺脾亏虚、气血不足咳嗽痰阻引起经脉失养而痿，伤在肺、脾。傅氏对两个证候进行了较准确的辨证论治。

郁 结 门

开 郁

如人头痛身热，伤风咳嗽，或心不爽^①，而郁气蕴^②于中怀^③；或气不舒，而怒气留于胁下，断不可用补药。

方用：当归三钱，白芍五钱，半夏二钱，枳壳、薄荷、白术、丹皮、甘草各一钱，水煎服。头痛加川芎一钱；目痛加蒺藜一钱，菊花一钱；鼻塞加苏叶一钱；喉痛加桔梗二钱；肩背痛加枳壳、羌活；两手痛加姜黄或桂枝一钱；腹痛不可按者，加大黄二钱；按之而不痛者，加肉桂一钱，余不必加。

【注释】

① 心不爽：指情绪不好，心情郁闷。

② 蕴：积聚，郁结。

③ 中怀：指胸中。

关 格^①

怒气伤肝，而肝气^②冲于胃口之间，肾气^③不得上行，肺气^④不得下行，而成此证。以开郁^⑤为主。

方用：荆芥、柴胡、川郁金、茯苓、苏子、白芥子、花粉各一钱，白芍三钱，甘草五分，水煎服。

又方：用阴阳水^⑥各一碗，加盐一撮，打百余下，起泡，饮之即吐而愈。凡上焦有疾，欲吐而不能吐者，饮之立吐。

【注释】

① 关格：病名。“格”是格拒；“关”是关闭。上见吐逆叫“格”；下见二便不通叫“关”。在上由于三焦之气不流通，寒遏胸中，饮食不下，故格拒；在下由于热结下焦，津液干枯，气化障碍，故关闭。“关格者，大小

便不通也。大便不通，谓之‘内关’；小便不通，谓之‘外格’；二便俱不通，为关格也。”

② 肝气：病证名称。指肝本脏的精气。常见症状为两胁气胀疼痛、胸闷不舒，兼症较多见的是一些消化功能紊乱的症状。

③ 肾气：肾精化生之气，指肾脏的功能活动，如生长、发育及性机能的活动。

④ 肺气：指肺的功能活动，也包括呼吸的气体。

⑤ 开郁：是治疗因情志抑郁而引起气滞的方法。

⑥ 阴阳水：生熟水。即生水与开水混合。

虚 癆 门

癆证虚损辨

二证外相似而治法不同。虚损者，阴阳两虚；劳^①证者，阴虚阳亢^②也。故虚损者可用温补，若劳证则忌温补而用清补也。两证辨法不必凭脉，但看人着复衣^③，此着单衣者为劳证；人着单衣，此着复衣者为虚损。劳证骨蒸^④而热，虚损营卫虚而热也^⑤。

【注释】

① 劳：与“癆”通。下同。

② 阴虚阳亢：阴虚指精血或津液的亏虚。一般在正常状态下，阴和阳是相对平衡的，相互制约而协调。阴气亏损，阳气失去制约，就会产生亢盛的病理变化，出现病理性功能亢进，称为“阳亢”。因此，阴虚会引起阳气亢盛，阳亢则能使阴液耗损，两者互为因果。临床表现如潮热、颧红、盗汗、五心烦热、咳血、消瘦或失眠、烦躁易怒，或遗精、性欲亢进，舌红而干、脉细数等。

③ 复衣：两件以上衣服。

④ 骨蒸：形容其发热自骨髓中透发而出，多因阴虚内热所致。

⑤ 傅氏以复衣畏冷者为虚损，着单衣为癆证，这样论断恐怕不妥。因为临床诊断应该根据证候，并做到望、闻、问、切相结合和认真分析，才能作出正确的判断。

内伤发热

方用：当归、柴胡、陈皮、梔子、甘草各一钱，白芍、花粉各二钱，水煎服。

凡肝木^①郁者，此方一剂即快。人病发热，有内伤外感，必先散其邪气，邪退而后补正，则正不为邪所伤也。但外感内伤，不可用一方也。外感发热方见前。

【注释】

① 肝木：五脏合五行，肝属木，故名。

未成癆而将成癆

方用：熟地一两，地骨皮、人参、麦冬各五钱，白芥子、山药各三钱，白术一钱，五味子三分，水煎服。

凡人右寸脉大于左寸脉^①，即内伤之证，不论左右关、尺脉何如，以此方投之效验。

【注释】

① 右寸脉大于左寸脉：右寸脉候肺，故右寸脉大无力为肺气虚损的证候。

阳虚下陷

凡人饥饱劳役，内伤正气，以致气乃下行，脾胃不能克化^①，饮食不能运动^②，往往变成劳瘵^③。盖疑饮食不进为脾胃之病，肉黍^④之积，轻则砂仁、枳壳、山楂、麦芽之品，重则芒硝、大黄、牵牛、巴豆之类，纷然杂进，必致膨闷而渐成劳矣。若先以升提之药治之，何致成劳？

方用：人参、柴胡、陈皮、甘草各一钱，升麻三分，黄芪、白术各三钱，水煎服。

【注释】

① 克化：消化。指脾胃消磨水谷的功能。

② 运动：运化，指饮食变化为精微物质而转输全身的功能。

③ 劳瘵：病症名。见《三因极一病证方论》。一作癆瘵。又有劳极、传尸劳、尸注等名。《济生方·劳瘵》：“夫劳瘵一证，为人之大患。凡患此病者，传变不一，积年染症，甚至灭门。”说明本病病程长，又互相传染。证见恶寒潮热、咳嗽、咯血、饮食减少、肌肉消瘦、疲乏无力、自汗盗汗、舌红少苔、脉细数。可见于结核病。

④ 黍：粘黄米，也叫黍子。这里泛指粮食。

阴虚下陷^①

凡人阴虚脾泄，岁久^②不止，或食而不化，或化而溏泄。

方用：熟地一两，山药、山萸、白术各五钱，茯苓三钱，升麻三分，肉桂、五味子、车前子各一钱，水煎晚服。

此方纯是补阴之药，且有升麻以提阴中之气，又有温湿之品以暖命门而健脾土，何至溏泄哉^③？

【注释】

① 阴虚下陷：指脾胃不能将水谷精微化生为气血，以致下泄，久而不止的病症。

② 岁久：时间长久。岁，时间。

③ 前人对这一篇加有批语：“此证每至腿脚发肿，稍多饮食即便蛔虫，乃脾阴虚陷已极，方宜加入干姜、乌梅。”

阴亏火动，夜热昼寒

此肾水虚兼感寒，或肾水亏竭，夜热昼寒。若认作阳证治之，则口渴而热益炽，必致消尽阴水，吐痰如絮^①，咳嗽不已，声哑声嘶^②，变成劳瘵。法当峻^③补其阴，而阴水足而火

焰消，骨髓清泰^④矣。

方用：熟地、元参各一两，山萸、地骨皮、芡实各五钱，五味子、麦冬、沙参、白芥子各三钱，桑叶十四片，水煎服。此方治阴虚火动者神效。

【注释】

① 絮：弹过的棉花。此处指痰白粘稠如棉絮状。

② 声嘶：民国本无“声”字。

③ 峻：大。峻补，大补。

④ 清泰：清静，安宁。

阴寒无火

方用：肉桂、柴胡各一钱，熟地一两，附子、白术、人参各三钱，水煎服。

二方治阴之中，即有以治阳；治阳之中，即藏于补阴^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“此两方似六味、八味地黄，而上方之白芥、桑叶，下方之柴胡，其妙用有过于地黄丸之丹、泽者，用者不可以意加减也。”

过劳

凡人过劳，脉必浮大不伦^①，若不安闲作息^②，必有吐血之证。法当滋补。

方用：熟地、黄芪、白芍、白术各五两，山萸四两，人参、茯苓、五味子、麦冬各三两，神曲一两，砂仁、陈皮各五钱，当归半斤，蜜丸，早晚滚开水送下五钱。

【注释】

① 不伦：脉搏紊乱不齐。伦，条理，顺序。

② 作息：此指休息。

日重夜轻^①

病重于日间，而发寒发热较夜尤重，此证必须从天未明而先截之。

方用：人参、枳壳、青皮、陈皮、半夏、甘草各一钱，黄芪、白术各五钱，当归、柴胡各三钱，干姜五分，水煎服。

又方：熟地一两，人参、陈皮、白芥子、甘草各一钱，白术五钱，柴胡二钱，水煎服。

【注释】

① 日重夜轻：指病情白天重，夜晚轻。这里指寒热白天为甚，至晚上较轻的病症。此为阳气不足的证候。

夜重日轻

病重于夜间，而发热发寒，或寒少热多，或热多寒少，一到天明，便觉清爽，一到黄昏，即觉沉重，此阴气虚甚也。

方用：熟地一两，山萸四钱，当归、白芍、柴胡、麦冬、生何首乌、白芥子各三钱，鳖甲五钱，五味子、陈皮各一钱，水煎服。

此方妙在用鳖甲乃至阴^①之物，逢阴则入，遇阳则转^②；生何首乌直入阴经，亦攻邪气；白芥子去痰，又不耗真阴^③之气，有不奏功者乎？必须将黄昏时服，则阴气固，而邪气不敢入矣。

【注释】

① 至阴：阴之最甚者。至，最，极。

② 转：回避，躲避。

③ 真阴：即肾阴，又有“肾水”、“元阴”、“真水”等名称。肾阴指本脏的阴液，（包括肾脏所藏的精，）是肾阳活动的物质基础，与肾阳相对而言。

阴邪兼阳邪^①

此证亦发于夜间，亦发寒发热，无异纯阴邪气^②之证，但少少^③烦躁耳，不若阴证之常静也。法当于补阴之中，少加阳药一二味，使阳长阴消^④，自奏功如响^⑤矣。

方用：熟地二两，山萸四钱，鳖甲、茯苓各五钱，当归、白术、白芥子、麦冬、五味子、生何首乌各三钱，人参、柴胡各二钱，陈皮一钱，水煎服。

【注释】

① 阴邪兼阳邪：指阴阳俱虚，外邪内犯阴分及阳分。

② 纯阴邪气：指阴虚而邪气犯于阴分的症状。

③ 少少：稍微。

④ 阳长阴消：阳气（正气）恢复，阴分之邪消退。

⑤ 奏功如响：意即迅速获得成功。

气血两虚

饮食不进，形容枯槁^①，补其气，血益燥；补其血，气益馁^②；助胃气而盗汗难止，补血脉而胸膈阻滞，法当气血同治。

方用：人参、白术、川芎、谷芽各一钱，麦冬五钱，甘草八分，当归、茯苓各二钱，熟地、白芍各三钱，神曲、陈皮各五分，水煎服。

此治气血两补，与八珍汤同功，而胜于八珍者，妙在补中有调和之法耳。

【注释】

① 枯槁：消瘦比较严重，并且干枯无光泽。

② 馁：饥饿。引申为不足，虚怯。

气虚胃虚

人有病久而气虚者，必身体羸^①弱，饮食不进，或大便溏泄，小便艰涩。

方用：人参一两，白术五钱，茯苓三钱，甘草、陈皮、车前子、泽泻各一钱，水煎服。

此方用人参为君者，开其胃气。盖胃为肾之关^②，关门不开，则上之饮食不能进，下之糟粕不能化。必用人参以养胃土，茯苓、车前以分消水气。如服此不效，兼服八味丸，最能实大肠而利膀胱也。

【注释】

① 羸：瘦，弱。

② 胃为肾之关：“关”可以理解为水液出入的关口。《素问·水热穴论》说：“肾者，胃之关也。”此是指胃气虚弱、胃口不开将引起二便失调、水液代谢障碍诸症。

气虚饮食不消

饮食入胃，必须气充足，始能消化而生津液。今饮食不消，气虚也。

方用：人参二钱，黄芪、白术、茯苓、甘草各三钱，神曲、麦冬、陈皮各五分，山楂三个，水煎服。伤面食加莱菔子；有痰加半夏、白芥子各一钱；咳嗽加苏子一钱，桔梗二钱；伤风加柴胡二钱；夜卧不安加炒枣仁二钱；胸中微痛加枳壳五分。方内纯是开胃之品，又恐饮食难消，后加消导之品，则饮食化而津液生矣。

血虚面色黄瘦

出汗，盗汗，夜卧常醒，不能润色^①以养筋是也。血虚自

当补血，舍四物汤又何求耶？今不用四物汤。

用：熟地一两，麦冬、枸杞各三钱，当归五钱，茜草一钱，桑叶十片，水煎服。

此方妙在用桑叶以补阴而生血，又妙在加茜草，则血得治而益生，况又济^②之归、地、麦冬大剂，以共生^③乎！

【注释】

① 不能润色：指血亏虚不能滋润肌肤，而致肤色萎黄。

② 济：辅助，接济。

③ 共生：这里意为共同生养血液。

肺脾双亏

咳嗽不已，吐泻不已，以肺脾受伤也。人以咳嗽宜治肺，吐泻宜治脾。殊不知咳嗽由于脾气之衰，斡旋^①之令不行，则上为咳嗽矣；吐泻由于肺气之弱，清肃^②之令不行，始上吐而下泻矣。

方用：人参一钱五分，麦冬、茯苓各二钱，车前子、甘草各一钱，柴胡、神曲、薏仁各五分，水煎服。

此治脾治肺之药，合而用之，咳嗽吐泻之病各愈，所谓一方而两用之也。

【注释】

① 斡旋：转动，旋转，此处指脾气的运动敷布。

② 清肃：指肺气的清降功能。

肝肾两虚

肾水亏不能滋肝，则肝木抑郁而不舒，必有两胁饱满之证；肝木不能生肾中之火，则肾水日寒，必有腰背难于俯仰之证。此证必须肝肾同补。

方用：熟地一两，山萸、当归、白芍各五钱，柴胡二钱，

肉桂一钱，水煎服。

熟地、山萸，补肾之药；归、芍、柴、桂，补肝之品。即云平补，似乎用药不宜有重轻，今补肝之药多于补肾者何？盖肾为肝之母^①，肝又为命门之母^②，岂有木旺而不生命门之火^③哉？

【注释】

① 肾为肝之母：按照五行学说，肾属水，肝属木，水生木，故肾为肝之母。

② 肝又为命门之母：其论特殊。意思是养肝可达补命门之火的目的，实为乙癸同源、母子相生之义。

③ 命门之火：即肾阳，是生命本元之火，寓于肾阴之中，是性功能和生殖能力的根本，还能温养五脏六腑，对人身体的生长、发育、衰老有密切关系。脏腑有命门之火的温养，尤其是脾胃需要有命门火的温煦，才能发挥正常的运化功能。

心肾不交

肾，水脏也；心，火脏也；是心肾两经为仇敌矣，似不可牵连而合治之也。不知心肾相克^①而实相须^②，肾无心之火则水寒，心无肾之水则火炽。心必得肾水以滋润，肾必得心火以温暖。如人惊惕不安^③，梦遗精泄，皆心肾不交^④之故。人以惊惕为心之病，我以为肾之病；人以梦泄为肾之病，我以为心之病，非颠倒也，实有至理焉。人果细心思之，自然明白。

方用：熟地、白术各五两，山萸、人参、茯神、枣仁（炒）、麦冬、柏子仁各三两，远志、菖蒲、五味子各一两，山药三钱，芡实五钱，蜜丸，每早、晚温水送下五钱。

此方之妙，治肾之药少于治心之味。盖心君宁静，肾气自安，何至心动？此治肾正所以治心，治心即所以治肾也，所谓心肾相依。

【注释】

① 相克：即相互约制、排斥或克服。五行学说借相克的关系来说明事物有相互拮抗的一面。具体是：木克土、土克水、水克火、火克金、金克木。相克本属正常范围内的制约，但近人已习惯把它与“相乘”混同，例如病理上的木乘土，已通称为“木克土”。

② 相须：两种性能相类的药物同用，能互相增强作用，叫做相须。如知母和黄柏。

③ 惊惕不安：提心吊胆，情绪不安宁。

④ 心肾不交：指心阳与肾阴的生理关系失常的病变。心居上焦，肾居下焦。正常情况下，心与肾相互协调，相互制约，彼此交通，保持动态平衡。如肾阴不足或心火扰动，两者失去协调关系，称为心肾不交，主要症状有心烦、失眠、多梦、怔忡、心悸、遗精等，多见于神经官能症及慢性虚弱病人。

精滑梦遗

此证人以为肾虚也。不独肾病也，心病也。宜心肾兼治。

方用：熟地半斤，山药、肉桂、鹿茸、炒枣仁、远志、杜仲、柏子仁、破故纸、五味子各一两，山萸、白术各四两，人参、茯苓、麦冬、白芍、巴戟、肉苁蓉各三两，紫河车一副，砂仁五钱，附子一钱，蜜丸。早晚白开水送下五钱。

此方用熟地、山药、山萸之类，补肾也；巴戟、肉苁蓉、附子、鹿茸，补肾中之火也，可以已矣。而又必加人参、茯苓、柏子仁、麦冬、远志、枣仁者何也？盖肾火虚由于心火虚也，使补肾火不补心火，则反增上焦枯渴，故欲补肾火，必须补心火，则水火相济^①也。

【注释】

① 水火相济：心属火，肾属水，水火两者相互制约、相互作用，以维持生理的动态平衡，称为“水火相济”。

夜梦遗精

此证由于肾水耗竭，上不能通于心，中不能润于肝，下不生于脾，以致玉关^①不闭，无梦且遗。法当补肾而少佐以益心、肝、脾之品。

方用：熟地一两，山萸四钱，茯苓、白芍、生枣仁、当归、苡仁各三钱，白术五钱，茯神二钱，五味子、白芥子各一钱，肉桂、黄连各五分，水煎服。一剂止，十剂不犯。

【注释】

① 玉关：即精关，男子精室的门户。

遗精健忘

遗精，下病^①也；健忘，上病^②也；何以合治之而咸当^③乎？盖遗精虽是肾水之虚，而实本于君火之弱，今补其心君，则玉关不必闭而自闭矣，所谓一举而两得矣。

方用：人参、芡实、麦冬、生枣仁、当归、山萸各三两，莲须二两，熟地五两，山药四两，柏子仁（去油）、远志、菖蒲、五味子各一两，蜜丸。每日服五钱，白水送下。

【注释】

① 下病：指肾病。

② 上病：指心病。

③ 咸当：都，皆。

倒饱^①中满^②

气虚不能食，食则倒满。

方用：人参、莱菔子、甘草各一钱，白术二钱，茯苓、山药各三钱，芡实、薏仁^③各五钱，陈皮三分，水煎服。下喉虽则微胀，入腹渐觉爽快。

【注释】

① 倒饱：为食后吐食、呃逆之症。倒，倒食。

② 中满：指脘腹胀满。

③ 薏仁：光绪本作“薏苡仁”。

久虚缓补

久虚之人，气息奄奄^①，无不曰宜急治矣。不知气血大虚，骤加大补之剂，力量难任，必致胃口转膨胀，不如缓缓清补之也。

方用：当归、茯苓、山药各一钱，白芍二钱，白术、枣仁各五分，人参、陈皮、麦芽、炮姜、甘草各三分，水煎服。

此方妙在以白芍为君，引参、茯入肝为佐，小小使令徐徐奏功。使脾气^②渐实，胃口渐开，然后再用纯补之剂，先宜缓补之也^③。

【注释】

① 气息奄奄：气息微弱欲绝之状。

② 脾气：主要指脾的运化功能，也包括脾的升清和统摄周身血液的功能。

③ 前人对这一篇加有批语：“如久饿之人，骤投以饭则饱死，须以薄粥徐徐饮之，同是一理。”（光绪本无此条批语）

补 气

右手脉大，气分^①之劳也。

方用补气丸：人参、黄芪、白芍各三两，茯苓四两，白术半斤，陈皮、五味子、白芥子、远志各一两，麦冬二两，炙甘草八分，蜜丸。早服五钱，白水下。

【注释】

① 气分：这里指气的范围及其病症。

补 血

左手脉大，血分之劳也。

方用补血丸：熟地、白芍各半斤，山萸、当归各四两，枣仁、麦冬、白芥子、五味子各一两，砂仁、肉桂各五钱，蜜丸。晚服一两，白水下。如身热，去肉桂，加地骨皮五钱。

出 汗

人有病不宜汗多，若过出汗，恐其亡阳^①，不可不用药以敛之。

方用：人参、黄芪、当归各一两，桑叶各五片，麦冬三钱，炒枣仁一钱，水煎服。

【注释】

① 亡阳：由于大汗不止，或吐泻过剧，或其他原因耗伤阳气，以致阳气突然衰竭，而出现大汗淋漓，症见汗出如珠而微粘、畏寒、手足冷、呼吸微弱、面色苍白，甚则口唇青紫、脉微欲绝或浮数而空等，类似于休克现象。

癆 证

癆证既成，最难治者，必有虫生之，以食人之气血也。若徒补其气血，而不入杀虫之药，则饮食入胃，祇荫^①虫而不生气血。若但杀虫而不补气血，则五脏俱受伤，又何有生理^②哉？惟于大补之中，加杀虫之药，则元气^③既全，真阳未散，虫死而身安矣。

方用：熟地、地栗粉、何首乌各半斤，鳖甲、山药各一斤，神曲、麦冬各五两，桑叶半斤，人参、白薇各三两，熟地为丸。每日白开水送下五钱，半年虫从大便出矣。

【注释】

① 荫：荫蔽，福荫。此处指对……有利。

② 生理：生机。

③ 元气：包括元阴之气和元阳之气，乃先天之精所化生，赖后天摄入之营养不断滋生。可以体会为人体生化动力的源泉。

痰嗽门

古人所立治痰之法，皆是治痰之标，而不能治其本也。如二陈汤，上、中、下、久、暂之痰皆治之，而其实无实效也。今立三方，痰病总不出其范围也^①。

【注释】

① 傅氏所谓古人治痰“皆是治痰之标，而不能治其本也”的说法并不恰当。因为早在元朝时期，著名医学家朱丹溪对疾病的证治就有独到见解。他说：“治痰法，实脾土、燥脾湿是治其本。”另外，明代王纶在《明医杂著》中云：“痰原于肾，动于脾，客于肺。”可见古人治痰的方法，并不都是治痰之标。

初病之痰

伤风咳嗽，吐痰是也。

方用：陈皮、半夏、花粉、茯苓、苏子、甘草各一钱，水煎服。二剂而痰可消矣。

此去上焦之痰。上焦之痰原在胃中而不在肺，去其胃中之痰，而肺金自然清肃，又何至火之上升哉^①？

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“此症医治不善，极易成劳。缘痰嗽皆责之于肺，伤风痰嗽是风伤肺也。若发散燥痰太过，则肺不敛，必嗽愈甚，而上咯血丝，久则肺伤而肾炽。若寒凉滋润太过，则肺不舒必痰愈多，而气喘声痿，久则金冷而水寒。此方无此二弊，愿病者勿以小病而忽之也。”

这里指出：最初的伤风咳嗽、吐痰也应引起重视，不要因医治不善而造成劳证。并强调指出：病人自己也不要把它当成小病而忽视治疗。

已病之痰

必观其色白与黄而辨之，黄者火已退也，白者火正炽也。正炽者用寒凉之品，将退者用祛逐之味，今一方而俱治之。方用：白术、白芥子各三钱，茯苓五钱，陈皮、甘草各一钱，枳壳五分，水煎服。有火加梔子，无火不必加。此方健脾去湿，治痰之在中焦者也。

又方：白术、茯苓、薏仁各五钱，人参五分，陈皮一钱，天花粉二钱，益智仁三分，水煎服。有火加黄芩一钱；无火加干姜一钱，甘草二分；此方健脾去湿而不耗气，二剂而痰自消也。

久病之痰

久病痰多，切不可作脾湿生痰论之。盖久病不愈，未有不因肾水亏损者也。非肾水泛上之痰，即肾火沸腾^①为痰，当补肾以祛逐之。

方用：熟地、薏仁各一两，山药、山萸、麦冬、芡实各五钱，五味子、茯苓各三钱，益智仁二钱，车前子一钱，水煎服。

此治水泛为痰之圣药也。若火沸腾为痰，加肉桂一钱，补肾去湿而化痰。水入肾宫，自变为真精而不化痰矣。此治下焦之痰也。

又方：六味地黄汤加麦冬、五味子，实有奇功。无火加桂、附。

【注释】

① 肾火沸腾：指肾阳偏亢，火盛煎熬津液，迫津上腾。

滞 痰^①

夫痰之滞，乃气之滞也。苟不补气，而惟去其痰，未见痰去而病消也。

方用：人参、陈皮、花粉、白芥子各一钱，白术二钱，茯苓三钱，苏子八分，白蔻仁二粒，水煎服。

【注释】

① 滞痰：指痰阻留胸膈、停滞不化的病症。可见有胸膈痞满隐痛、痰涎咯不出、涕唾稠粘等症状。

湿 痰

治痰之法，不可徒去其湿，必以补气为先，而佐以化痰之品，乃克^①有效。

方用：人参一两，茯苓、半夏、神曲各三钱，苡仁五钱，陈皮、甘草各一钱，水煎服。

盖^②此方之中用神曲，人多不识，谓神曲乃消食之味，绝^③非化痰之品。不知痰之稍聚稠粘，甚不易化，惟用神曲以发之，则积聚稠粘开矣；继之以半夏、陈皮，可以奏功。然虽有陈、半消痰，使不多用人参，则痰难消。今有人参以助气，又有苡仁、茯苓健脾去湿，而痰焉有不消者乎？

【注释】

① 克：能够。乃克有效，才能有效。

② 盖：光绪本无“盖”字。

③ 绝：光绪本无“绝”字。

寒 痰

人有气虚而痰寒者，即用前方加肉桂三钱、干姜五分足之矣。

热 痰

人有气虚而痰热者。

方用：当归三钱，白芍、麦冬、茯苓各二钱，白芥子、甘草、花粉、陈皮各一钱，神曲三分，水煎服。

老 痰^①

凡痰在胸膈而不化者，谓之老痰。

方用：柴胡、茯苓、甘草、陈皮、丹皮、花粉各一钱，白芍、苡仁各三钱，白芥子五钱，水煎服。

此方妙在白芥子为君，苡仁、白芍为臣，柴胡、花粉为佐，使老痰无处可藏，十剂而老痰可化矣。

【注释】

① 老痰：指病邪阻留胸膈，痰结成粘块，日久不化的病症。可见于痰多咳喘、胸膈满闷等症。

顽 痰^①

痰成而塞咽喉者，谓之顽痰。

方用：贝母、半夏、茯苓各三钱，白术五钱，神曲二钱，甘草、桔梗、白矾、炙紫菀各一钱，水煎服。

此方妙在贝母、半夏同用，一燥一湿，使痰无处逃避；又有白矾消块，梗、菀去邪，甘草调中，有不奏功者乎？

【注释】

① 顽痰：经久难愈的痰症。指痰阻咽部，不容易咳吐之症。

水泛为痰^①

肾中之水，有火则安，无火则泛。倘人过于入房^②，则水

去而火亦去，久之则水虚而火亦虚，水无可藏之地，必泛上为痰矣。治之法，欲抑水之下降，必先使火之下温。当于补肾之中，加大热之药，使水足以制火，火足以暖水，则水火有既济之道^①，自不上泛为痰矣。

方用：熟地二两，山萸五钱，肉桂二钱，牛膝三钱，五味子一钱，水煎服。一剂而痰下行矣，二剂而痰自消矣。

【注释】

① 水泛为痰：指肾阳不足，水不化气，上泛于肺而形成的痰症。可见痰白清稀，病程较长，且有肾阳不足等证候。

② 入房：指性生活。

③ 既济之道：意指水火相互制约、相互依存，以维持人体生理功能的动态平衡的规律。

中气又中痰

中气中痰^①，虽若中之异，而实中于气之虚也。气虚自然多痰，痰多必然耗气，虽分而实合也。

方用：人参、甘草各一两，半夏、南星、茯苓各三钱，附子一钱，水煎服。

人参原是气分之神剂，而亦消痰之妙药。半夏、南星虽逐痰之神品，而亦扶风之正药。附子、甘草，一仁一勇，相济而成。

【注释】

① 中气中痰：指由气虚痰阻而引起的类中风病症。可见有猝然昏仆、不省人事、痰涎壅盛，或见口眼歪斜、言语不利、半身不遂等症。

湿 嗽

秋伤于湿^①，若用乌梅、栗壳等味，断乎不效。

方用：陈皮、当归、甘草、枳壳、桔梗各一钱，白术二钱，水煎服。三剂帖^②然矣。

冬嗽皆秋伤于湿也，岂可拘于受寒乎？

【注释】

① 秋伤于湿：语出《素问·阴阳应象大论》。以六气运行来划分，大暑至白露，为湿气主令，故初秋主湿，秋分之后方为燥气主令。

② 帖：安定。意为病症消除，身体平复。

久 嗽

方用：人参五钱，益智仁五分，白芍、枣仁各三钱，五味子、白芥子各一钱，水煎服。二剂后，服六味地黄丸。

方用：瓜蒌仁（去油）、乌梅各五钱，薄荷、甘草各五分，人参（童便浸）、五味子（酒蒸）、寒水石（火煨）、杏仁、硼砂各一钱，贝母三两，胡桃仁二钱（去油），蜜丸樱桃大，净绵包之，口中噙化^①。虚癆未曾失血、脉未数者，皆用之。无论老少神效，十粒见功，二十粒愈。

又方用：人参、当归、细茶各一钱，水煎，连渣嚼尽，一、二剂即愈。

【注释】

① 噙化：含在口中溶化。

肺嗽兼补肾

肺嗽之证，本是肺虚，其补肺也明矣，奈何兼补肾乎？盖肺经之气，夜必归于肾，若肺金为心火所伤，必求救于其子^①，子若力量不足，将何以救其母哉？

方用：熟地、麦冬各一两，山萸四钱，元参五钱，苏子、牛膝各一钱，沙参、天冬各二钱，紫菀五分，水煎服。

【注释】

① 必求救于其子：必定求救于肺金之子肾。按五行学说，金生水，故肺金为母，肾水为子。

喘 证 门

气治法

气虚气实，不可不平^①之也。气实者非气实^②，乃正气虚而邪气实也。法当用补正之药，而加祛逐之品，则正气足而邪气消矣。

方用：人参、白术、麻黄、半夏、甘草各一钱，柴胡二钱，白芍三钱，水煎服。

推而广之，治气非一条也。气陷，补中益气汤可用；气衰，六君子汤可采；气寒，人参白术附子汤可施；气虚，则用四君子汤；气郁，则用归脾汤；气热^③用生脉散；气喘用独参汤；气动^④用二陈汤加人参；气壅塞用射干汤；气逆用逍遥散。

气虚则羸弱，气实则壮盛，气虚用前方，实者下方。白术、柴胡、甘草、梔子各一钱，茯苓三钱，白芍二钱，陈皮、枳壳各五分，山楂十个，水煎服。

【注释】

① 平，通“辨”。

② 气实者非气实：邪气壅盛的患者并不是正气充实。

③ 气热：指元气耗伤，气虚又有热象的症候。

④ 气动：指喘急较重的症候。

气 喘

凡人气喘而上者，人以为气有余也，殊不知气盛当作气虚看，有余当作不足看。若认作肺气之盛，而用苏叶、桔梗、百

部、豆根之类，去生远矣。

方用：人参三两，牛膝三钱，熟地、麦冬各五钱，山萸四钱，胡桃三个，枸杞、五味子各一钱，生姜五片，水煎服。

此方不治肺，而正所以治肺也。或疑人参乃健脾土^①之药，既宜补肾，不宜多用人参。不知肾水大虚，一时不能遽生，非急补其气，则元阳一线^②，必且断绝。况人参少用则泛上，多用即下行。妙在用人参三两，使下达病原，补气以生肾水。方中熟地、山萸之类，同气相求，直入命门，又何患其多哉？若病重之人，尤宜多加。但喘有初起之喘，有久病之喘，初起之喘多实邪，久病之喘多气虚，实邪喘者必抬肩，气虚喘者微微气息耳。此方治久病之喘，若初起之喘，四磨^③、四七汤^④，一剂即止喘，不独肺气虚而肾水竭也。

【注释】

① 土：光绪本无“土”字。

② 元阳一线：一线真阳。意为阳气十分微弱，呼吸非常困难。

③ 四磨：即四磨汤。出自《济生方》，由人参、槟榔、沉香、乌梅四味药组成。

④ 四七汤：出《太平惠民和剂局方》，由半夏、厚朴、茯苓、紫苏、生姜、大枣等药组成。

实 喘^①

方用：黄芩二钱，柴胡、甘草各五分，麦冬三钱，苏叶、乌药、半夏、山豆根各一钱，水煎服。一剂喘定，不必再剂也。

凡实喘证，气大急，喉中必作声^②，肩必抬，似重而实轻也。

【注释】

① 实喘：因邪气壅盛于肺，证候以痰为主，多因六淫外袭，痰火郁

热，水饮凌肺，使肺气壅阻，引起气喘，一般起病较急，呼吸急促，气粗有力，多见于支气管喘息症。

② 喉中必作声：指喘息时，喉中必定有哮喘音。

虚喘^①

大抵此等证，气少息^②，喉无声，肩不抬也。乃肾气大虚，脾气又复将绝，故奔冲而上^③，欲绝不绝也。

方用救绝汤：人参、熟地各一两，山萸三钱，牛膝、五味子、白芥子各一钱，麦冬五钱，水煎服。

【注释】

① 虚喘：虚喘多是肺肾两虚，尤以肾不纳气为主。临床表现有呼吸短促，动则喘甚。肺虚者津液亏损，常见口干渴、面色潮红、烦热、自汗、咽喉不利、舌红干少苔或剥苔、脉细而弱，多见于肺结核等。肾虚者，有偏于阴虚或偏于阳虚者，多见于各种心功能不全的病变。

② 气少息：指呼吸之气细弱无力。

③ 奔冲而上：指元气不能固摄，气脱于上的症状。

气短^①似喘

此证似喘而实非喘也。若作实喘治之，立死。盖气短乃肾气虚耗，气冲上焦，壅塞于肺经，此不足之证也。

方用：人参二两，熟地一两，山萸、牛膝、补骨脂、枸杞各三钱，麦冬五钱，胡桃三个（去皮），五味子二钱，水煎服。三剂气平喘定。

此方妙在用人参之多，能下达气原，挽回于无何有^②之乡。又纯是补肺补肾之品，子母相生^③，水气自旺，则火气自安于故宅^④，不上冲于喉门^⑤矣。

【注释】

① 气短：气少。呼吸无力而浅表、急促的症状，病人自感气的交换

不足，由气虚引起。

② 无何有：没有什么事物存在。意为元气欲绝。无何：没有什么。

③ 子母相生：指肺肾两脏相互滋生。

④ 故宅：原来的居室。肾火之宅在于肾和命门。

⑤ 喉门：咽喉部。

抬肩大喘

人忽感风邪，寒入于肺，以致喘急、肩抬、气逆^①，痰吐不出，身不能卧。

方用：柴胡、茯苓、麦冬、桔梗各二钱，黄芩、当归、甘草、半夏、射干各一钱，水煎服。

此方妙在用柴胡、射干、桔梗以发舒肺金之气，半夏以去痰，黄芩以去火。盖感寒邪，内必变为热证，故用黄芩以清解之。然徒以用黄芩，虽曰消火，转^②足以遏抑其火，而火未必伏也。有射干、桔梗、柴胡一派辛散之品，则足以消火减邪矣。

【注释】

① 气逆：脏腑之气上逆。指气上逆而不顺的病理。

② 转：转背，转瞬。意思是暂短的时间。

肾寒气喘

人有气喘不能卧、吐痰如涌泉者，舌不燥而喘不止，一卧即喘，此非外感之寒邪，乃肾中之寒气也。盖肾中无火，则水无所养，乃泛上而为痰。方用六味地黄汤加桂、附，大剂饮之。盖人之卧，必肾气与肺气相安，而后河车之路^①，平安而无奔越也。

【注释】

① 河车之路：出处不详。意指气机上下通行的道路。

肾火扶肝上冲

凡人肾火，逆扶肝气而上冲，以致作喘，甚有吐红粉痰者，此又肾火炎上，以烧肺金^①，肺热不能克肝^②，而龙雷之火^③升腾矣。

方用：沙参、地骨皮各一两，麦冬五钱，丹皮三钱，甘草三分，桔梗五分，白芍五钱，白芥子二钱，水煎服。

此方妙在地骨皮清骨中之火^④，沙参、丹皮以养阴，白芍平肝，麦冬清肝，甘草、桔梗引入肺经，则痰消而喘定矣。

【注释】

① 肺金：五脏合五行，肺属金，故名。

② 肺热不能克肝：肺受热邪而不能制约肝气。按五行学说，肝木受克于肺金。

③ 龙雷之火：心肾之火。龙火，指肾火；雷火，指心火。

④ 骨中之火：指骨蒸发热。骨蒸一症，其发热似从骨髓中透发而出，故称之为骨中之火。

假热气喘吐痰

人有假热^①气喘吐痰者，人以为热而非热也，乃下元^②寒极，逼其火而上喘也。此最危急之证，苟不急救其肾水与命门之火，则一线之微，必然断绝。

方用：熟地四两，山药、麦冬各三两，五味子、牛膝各一两，附子、肉桂各一钱，水煎冷服。一剂而愈。

【注释】

① 假热：指上部出现假热的现象。如颧红如妆或口鼻出血，或口燥齿浮等症状。这是因为真阳浮越所致。

② 下元：指肾脏。

喘 嗽

人有喘而且嗽者，人以为气虚而有风痰也，谁知是气虚不能归源于肾，而肝木挟之作祟乎。法当峻补其肾，少助以引火之品，则气自归源于肾，而喘嗽俱止。

方用：人参一两，熟地二两，麦冬五钱，茯苓三钱，牛膝、枸杞、白术、五味子、菟丝子各一钱，水煎服。连服五剂，必有大功。倘以四磨、四七汤治之，则不效矣。

贞元饮

此方专治喘而脉微涩者。熟地三两，当归七钱，甘草一钱，水煎服。妇人多此证。

吐血门

阳证吐血

人有感暑伤气，忽然吐血盈盈，人以为阴虚也，不知阴虚吐血与阳虚^①不同。阴虚吐血人安静无躁动；阳虚^②必大热作渴，欲饮冷水，舌必有刺；阴虚口不渴而舌苔滑也。法当清胃火，不必止血也。

方用：人参、当归、香薷、石膏各三钱，荆芥一钱，青蒿五钱，水煎服。

此方乃阳证吐血之神剂也。方中虽有解暑之味，然补正多于解暑，去香薷一味，实可同治。但此方只可用一、二剂，即改六味地黄汤。

【注释】

①② 虚：疑“证”字之误。

大怒吐血

其吐也，或倾盆而出，或冲口而来，一时昏晕，死在顷刻。以止血治之，则气闷不安；以补血治之，则胸满不受；有变证蜂起而死者，不可不治之得法也。

方用解血平气汤：白芍、当归各二两，炒荆芥、黑梔各三钱，红花二钱，柴胡八分，甘草一钱，水煎服。一剂而气平舒，二剂而血止息，三剂而病大愈。

此证盖怒伤肝，不能平其气，以致吐血。若不先舒其气，而遽止血，则愈激动肝火之气，必气愈旺而血愈吐矣。方中白芍平肝又舒气，荆芥、柴胡引血归经，当归、红花生新去旧，安有不愈者哉？

吐血

此证人非以为火盛，即以为阴亏。用凉药以泻火，乃火愈退而血愈多；用滋阴之味、止血之品仍不效，谁知是血不归经乎？治法当用补气之药，而佐以引血归经之味，不止血而血自止矣。

方用：人参五钱，当归一两，丹皮（炒）、黑芥穗各三钱，水煎服。一剂而止。

此方妙在不专补血，而反去补气以补血，尤妙在不去止血，而去行血以止血。盖血逢寒则凝，逢散则归经，救死于呼吸之际^①，大有神功^②。

【注释】

① 呼吸之际：比喻顷刻之间，好像一呼一吸那么短暂。

② 前人对这一篇加有批语：“大凡吐血，多系不归经之血。因何腑何脏而发，脏腑之血，吐则即死，此自然之理也。”这里指出：一般来讲，病人吐血，大多是属于血不归经。如果是脏腑引起的吐血，将会危及生命。

吐白血

血未有不红者，何以名白血？不知久病之人，吐痰皆白沫，乃白血也。白沫何以名白血？以其状似蟹涎^①，无败痰存其中，实血非痰也。若将所吐白沫露于星光下，一夜必变红矣。此沫出于肾，而肾火沸腾于咽喉，不得不吐者也。虽是白沫，而实肾中之精，岂特血而已哉？苟不速治，则白沫变为绿痰，无可如何矣。

方用：熟地、麦冬各一两，山药、山萸、茯苓各五钱，丹皮、泽泻各二钱，五味子一钱，水煎，日日服之^②。

【注释】

① 蟹涎：螃蟹的唾沫。

② 前人对这一篇加有批语：“火盛阴亏两层，世间误杀止奚千百^③。寒凉滋阴之药，轻则凝结而成病根，重则经阻而成干血。此论此方，发菩提心^④，作当头棒喝^⑤也。”这是强调吐白沫证候的严重性，并提醒医生辨证施治，不要错误用药。

③ 奚止千百：何止千百人。

④ 菩提心：菩萨心肠。意慈悲善良之心。

⑤ 当头棒喝：比喻警告，提醒，使之觉醒。

血不归经

凡人血不归经，或上或下，或四肢毛窍各处出血。循行经络，外行于皮毛，中行于脏腑，内行于筋骨，上行于头目两手，下行于二便^①，一剂周身无非血路。一不归经，斯^②各处妄行，有孔则钻，有洞则泄，甚则呕吐。或见于皮毛，或出于

齿缝，或渗于脐腹，或露于二便，皆宜顺其性以引之归经。

方用：熟地、生地各五钱，当归、白芍、麦冬各三钱，荆芥、川芎、甘草、茜草根各一钱，水煎服。

此方即四物汤加减，妙在用茜草引血归经。

【注释】

① 二便：这里指外生殖器及肛门，也称二阴。

② 斯：则，乃。

三黑神奇散

丹皮（炒黑）七分，黑梔五分，真蒲黄（炒黑）一钱二分，川芎（酒洗）、贝母各一钱，生地（酒洗）一钱，水二樽^①，童便、藕汁各半樽，煎服。此方治吐血神效无比，二剂止。

六味地黄汤加麦冬、五味子，最能补肾滋肝。木得其养，则血有可藏之经，而不外泄，血证最宜服之。

【注释】

① 樽：装酒的器具。

呕 吐 门

脾胃证辨

人有能食而不能化者，乃胃不病而脾病也，当补脾。而补脾尤宜补肾中之火，盖肾火能生脾土^①也。不能食，食之而安然者，乃脾不病而胃病也，不可补肾中之火，当补心火^②，盖心火能生胃土也。世人一见不饮食，动曰脾胃虚也，殊不知胃之虚寒责之心，脾之虚寒责之肾也，不可不辨。

【注释】

① 脾土：脾的代称。脾在五行属土，故称。

② 心火：心的代称。心在五行属火，故称。

反胃大吐

大吐之证，舌有芒刺，双目红肿，人以为热也，谁知是肾水之亏乎。盖脾胃必借肾水以滋润，肾水一亏，致脾胃之火沸腾而上，以致目红肿而舌芒刺也。但此证时躁时静，时欲饮水，及水到又不欲饮，即强之饮亦不甚快。此乃上假热而下真寒也，宜六味地黄汤加桂、附，水煎服。

外治法：先以手擦其足心，使之极热，然后用附子一个煎汤，用鹅翎^①扫之，随干随扫，少顷即不吐矣。后以六味地黄汤大剂饮之，即安然也。或逍遥散加黄连，亦立止也。无如世医以杂药投之，而成噎膈^②矣。

方用：熟地二两，山萸、元参各一两，当归五钱，五味子二钱，牛膝、白芥子各三钱，水煎服。

盖肾水不足，则大肠必干而细，饮食入胃，难以下行，故反而上吐矣。

【注释】

① 鹅翎：鹅翅膀或尾巴上的长羽毛。

② 噎膈：病名。吞咽有梗阻的感觉谓之“噎”；胸膈阻塞、饮食不下，谓之“膈”。可见于胃癌、食道癌、食道狭窄和食道痉挛等病。

寒邪犯肾大吐

寒入肾宫，将脾胃之水^①挟之尽出，手足厥逆，小腹痛不可忍，以热物熨之少快，否则寒冷难支。人多以为胃病，其实肾病也。

方用：附子一个，白术四两，肉桂一钱，干姜三钱，人参

三两，水煎服。此药下喉便觉吐定，煎渣再服，安然如故。

【注释】

① 脾胃之水：指胃内容纳的水分、食物等。

呕 吐

世人皆以呕吐为胃虚，谁知由于肾虚乎。故治吐不效，未窥见病之根也。

方用：人参、芡实各三钱，白术、薏仁各五钱，砂仁五粒，吴萸五分，水煎服。

火 吐

此证若降火，则火由脾而入于大肠，必变为便血之证，法宜清火止吐。

方用：茯苓一两，人参二两，砂仁五^①粒，黄连三钱，水煎服。

【注释】

① 五：光绪本作“三”。

寒 吐

此证若降寒，则又引入肾而流于膀胱，必变为遗尿之证，法宜散寒止吐。

方用：白术二两，人参五钱，附子、干姜各一钱，丁香五分，水煎服。

此方散寒而用补脾之品，则寒不能上越，而亦不得下行，势不能不从脐出也。

胃 吐

此证由于脾虚，脾^①气不得下行，自必上反而吐，补脾则

胃安。

方用：人参、茯苓各三钱，白术五钱，甘草、肉桂、神曲、半夏各一钱，砂仁三粒，水煎服。

此方治胃病，以补脾者何也？盖胃为脾之关，关门之沸腾，由于关中之溃乱^②。欲使关外之安静，必先使关中之安宁。况方中砂仁、半夏、神曲等味，全是止吐之品，有不奏功者乎？此脾胃两补之法也。

【注释】

① 脾：疑为“胃”字之说。胃气：指胃肠为主的消化功能。胃气主降，在消化功能上主要和脾互相配合，脾胃有相互表里的关系。

② 溃乱：散乱。这里比喻脾虚气机散乱无统。

反 胃^①

人有食入而即出者，乃肾水虚不能润喉，故喉燥而即出也。

方用：熟地二两，山萸、茯苓、麦冬各五钱，山药一两，泽泻、丹皮各三钱，五味子一钱，水煎服。

此证又有食久而反出者，乃肾火虚不能温脾，故脾寒而反出也。

方用：熟地二两，山萸一两，山药六钱，泽泻二钱，茯苓、丹皮、附子、肉桂各三钱，水煎服^②。

【注释】

① 反胃：病症名，亦称翻胃。指饮食进入胃中，间隔一段时间又吐出，或朝食暮吐，或暮食朝吐。

② 前人对这一篇作有批语：“此即八味地黄丸。也可用生地、桂枝。”

胃 寒

心肾兼补，治脾胃两虚者固效。若单胃之虚寒，自宜独治

心之为妙。

方用：人参、远志各一两，白术、茯苓、莲子、白芍各三两，菖蒲、良姜、枣仁各五钱，半夏、附子、白芥子各三钱，山药四钱，蜜丸。每日白开水送下五钱^①。

【注释】

① 傅氏在本篇中提出补心火来治疗胃寒。这是因为心属火，脾胃属土，脾胃得火则生。

肾寒吐泻，心寒胃弱

此证由于心寒胃弱，呕吐不已，食久而出是也。下痢不止^①，五更时痛泻三、五次者是也。人以为脾胃之寒，服脾胃之药而不效者何也？盖胃为肾之关，而脾为肾之海^②。胃气弱，不补命门之火，则心包寒甚，何以生胃土而消谷食？脾气弱，不补命门之火，则下焦^③虚冷，何以化饮食而生精华？故补脾胃莫急于补肾也。

方用：熟地、茯苓、人参各三两，山萸二两，山药四两，附子、肉桂、五味子各一两，吴萸五钱，蜜丸。每日空心白开水送下五钱^④。

【注释】

① 止：光绪本作“己”。

② 脾为肾之海：提法独特。意脾为精血生化之源，肾精赖其滋养，二者关系密切。

③ 下焦：三焦之一。三焦的下部，一般是指下腹腔自胃下口至二阴部分。

④ 从上面几种病症的治疗方法可以看出，傅氏治疗脾胃病症，多从肾来考虑，这是他治疗脾胃病的特点，值得我们临床学习参考。

臌 证 门

水 臌^①

此证满身皆水，按之如泥^②者是。若不急治，水流四肢，不得从膀胱出，则为死证矣。

方用决流汤：黑丑、甘遂各二钱，肉桂三分，车前子一两，水煎服。一剂水流斗余，二剂全愈。断勿与三剂也，与三剂反杀之矣。

盖二丑、甘遂最善利水，又加肉桂、车前子引水以入膀胱，利水而不走气^③，不使牛、遂之过猛也。二剂之后，须改五苓散，调理二剂；再用六君子汤补脾可也；忌食盐，犯之则不救矣^④。

【注释】

① 水臌：病症名，指水湿停聚引起的臌胀，症见腹部鼓大胀满，并见全身浮肿，小便困难。

② 按之如泥：指肿胀的肌肤按下去凹陷不起。

③ 不走气：意思是不损正气。

④ 前人对这一篇加有批语：“诸脏证最忌宽中，市医多用五皮饮，描头画角，百无一效。”

气 臌^①

此证气虚作肿，似水而实非水也，但按之不如泥耳。必先从脚面上肿起，后渐肿至身上，于是头面皆肿者有之。此之谓气臌，宜于健脾行气之中加引水之品。若以治水臌治之，是速之死也。

方用：白术、茯苓、薏仁各一两，甘草、肉桂各一分，枳

壳五分，人参、神曲、车前子、萝卜子各一钱，山药五钱，水煎服。初服若觉有碍^②，久之自有大功，三十剂而愈矣。亦忌食盐、秋石^③。

【注释】

① 气臌：病症名。膨胀类型之一。指气机郁结所致的膨胀。症见胸腹膨胀，中空无物，外皮绷紧，叩之有声等。

② 碍：妨碍，阻碍。

③ 秋石：中药名。为人中白与食盐加工而成。

虫 臌^①

此证小腹痛，四肢浮肿而未甚，面色红而有白点，如虫食之状，是之谓虫臌。

方用消虫神奇丹：当归、鳖甲、地栗粉各一两，雷丸、神曲、茯苓、白矾各三钱，车前子五钱，水煎服。一剂下虫无数，二剂虫尽臌消，不必三剂。但病好必用六君子汤去甘草调理。

【注释】

① 虫臌：病名，又名虫胀。由毒结肠胃而生虫所致。症见腹部胀大作痛、四肢浮肿不甚，面有白点或红纹，如虫蚀之象，喜食茶叶、盐、泥土之类的东西。本症多见于肠道寄生虫病。

血 臌^①

此证或因跌闪而瘀血不散，或忧郁而结血不行，或风邪而蓄血^②不散，留在腹中，致成血臌。饮食入胃，不变精血，反去助邪，久则胀，胀或臌矣。倘以治水法逐之，而证非水，徒伤元气；以治气法治之，而又非气，徒增饱满。

方用逐瘀汤：水蛭（此物最难死，火烧经年，入水犹生，必须炒黄为末方妥）、雷丸、红花、枳壳、白芍、牛膝各三钱，当归二两，桃仁四十粒，水煎服。一剂血尽而愈，切勿与二

剂，当改四物汤调理，于补血内加白术、茯苓、人参，补元气而利水，自然全愈，否则恐成干血之证。辨血臌惟腹胀如臌，而四肢手足并无臌意也。

【注释】

① 血臌：病名，因气血瘀滞、水湿受阻而成。症见腹部臌大、青筋暴露、身或手足有红色斑痕、大便呈黑色或出血、小便短赤或出血等。本病可见于门脉性肝硬变、血吸虫性肝硬变等。

② 蓄血：病症名。指外感邪热入里，与血相搏，而致瘀热蓄结于内的病症。

水 证 门

水 肿

此证土不能克水也。

方用：牵牛、甘遂各三钱，水煎服。

此证治法最多，独此方奇妙，其次鸡屎醴^①亦效。鸡屎醴治血臌尤效。

【注释】

① 鸡屎醴：白色的鸡粪，亦称“鸡屎白”。用法：待干后炒香冲酒服。鸡屎醴方出《内经·素问》，是中医最古老的处方之一，疗效较确切，但药性猛烈，须谨慎对待。

呃 逆^①

此证乃水气凌心包也。心包为水气所凌，呃逆不止，号召五脏之气，救水气^②之犯心也，治法当利湿分水。

方用：茯神、薏仁各一两，苍术、白术、人参各三钱，芡实、丁香各五钱，法制半夏，陈皮各一钱，吴萸三分，水煎服。

【注释】

① 呃逆：病症名。是气逆上冲，喉间呃呃作声，连续不断的症状。

② 水气：这里指水肿。

水结膀胱

此证目突^①口张，足肿气喘，人以为不治之证。不知膀胱与肾相为表里，膀胱之开合，肾司其权^②，特通其肾气而膀胱自通矣。

方用通肾消水汤：熟地、山药、薏仁各一两，山萸一钱五分，茯神五钱，肉桂、牛膝各一钱，车前子三钱，水煎服。

【注释】

① 目突：指眼睑浮肿。

② 膀胱之开合，肾司其权：膀胱的开合、排尿功能，有赖于肾的气化作用，所以称“肾司开阖”。阖，通“合”。

湿 症 门

黄 证^①

此证外感之湿易治，内伤之湿难疗。外感者利水则愈，若内伤之湿，泻水则气消^②，发汗则精泄，必健脾行气而后可也。

方用：白术、茯苓、苡仁各一两，茵陈、黑梔各三钱，陈皮五分，水煎服。此方治内感之湿，不治外感之湿，若欲多服，去梔子。

【注释】

① 黄证：即“黄疸”。以身黄、目黄、小便黄为主要症状的病症。

② 气消：指正气耗散。

痺^① 症

此证虽因风寒湿而来，亦因元气之虚，邪始得乘虚而入，倘攻邪而不补正，则难愈矣。今于补正之中，佐以去风寒湿之品，而疸如失矣。

方用：白术五钱，人参三钱，茯苓一两，柴胡、附子、半夏各一钱，陈皮五分，水煎服^②。

【注释】

① 痺：这里指风在手足的病。似指现在所说的风瘫、痹症。

② 前人对这一篇作了批语：“《经》云：风寒湿三者合而成痹，此条原本痺字当作痹字之误。”

伤 湿

此证恶湿，身重足肿，小便短赤。

方用：泽泻、猪苓各三钱，肉桂五分，茯苓、白术各五钱，柴胡、半夏、车前子各一钱，水煎服。一剂愈。

脚 气^①

今人以五苓散去湿，亦是正理，然不升其气，而湿未必尽去也，必须提气而水乃散也。

方用：黄芪一两，人参、白术各三钱，防风、肉桂、柴胡各一钱，苡仁、芡实、白芍各五钱，半夏二钱，陈皮五分，水煎服。

此方去湿之圣药。防风用于黄芪之中，已足提气而去湿，又助以柴胡舒气，则气自升腾。气升则水散，白术、茯苓、苡仁、芡实俱是去湿之品，有不神效者乎？

【注释】

① 脚气：因湿邪侵犯于两足而成。症见腿脚麻木酸痛，软弱无力，或挛急，或肿或痿等；重则攻心，神志恍惚。

男 科 卷 下

泄 泻 门

泻 甚

一日五、六十回，倾肠而出^①，完谷不化，粪门^②肿痛，如火之热，苟无以救之，必致立亡。

方用截泻汤：苡仁、白芍各二钱，山药、车前子各一两，黄连、茯苓各五钱，泽泻、甘草各二钱，肉桂三分，人参三钱，水煎服。

【注释】

① 倾肠而出：意泻下急暴，如从肠中倒出。倾，倒出。

② 粪门：肛门。

水 泻

方用：白术一两，车前子五钱，水煎服。此方补肾健脾，利水去湿，治泻神效。

火 泻

完谷不化，饮食下喉即出，日夜数十次，甚至百次，人皆知为热也，然而热之生也何故？生于肾中之水衰不能制火，使胃土关门^①，不守于上下，所以直进而直出也。论其势之急迫，似乎宜治其标，然治其标^②而不能使火之骤降，必须急补

肾中之水，使火有可居之地，而后不至上腾也。

方用：熟地、白芍各三两，山萸、茯苓、甘草、车前子各一两，肉桂三分，水煎服。此方补肾之药，非止泻之品，然而止泻之妙，捷如桴鼓矣^③，世人安知此也。

【注释】

① 关门：指食物出入的关口门户。

② 标：标和本是相对而言。治病是通过辨别病症的主次、本末、轻重、缓急来决定治疗的准则。标本有多重含义：从人体与致病因素来说，人体的正气是本，致病的邪气是标；从疾病本身来说，病因是本，症状是标；从疾病的所在来说，在内为本，在外为标。

③ 捷如桴鼓：比喻疗效迅速，好像鼓槌敲鼓一样迅速。桴，鼓槌。

水 泻

此乃纯是下清水，非言下痢也。痢无止法，岂泻水亦无止法乎？故人患水泻者，急宜止遏。

方用：白术五钱，茯苓三钱，吴萸五分，车前子、五味子各一钱，水煎服。

泄泻吞酸

泄泻，寒也；吞酸，火也。似乎寒热殊而治法异矣，不知吞酸虽热，由于肝气之郁结；泄泻虽寒，由于肝木克脾。苟用一方以治水^①郁，又一方以培脾土，土必大崩，木必大彫^②矣。不若一方而两治之为愈也。

方用：白芍五钱，柴胡、车前子各一钱，茯苓三钱，神曲、陈皮、甘草各五分，水煎服。此方妙在白芍以舒肝木之郁，木郁一舒，上不克胃，下不克脾，又有茯苓、车前以分消水湿之气，则水尽从小便出，而何有余水以吞酸，刺^③汁^④。

【注释】

① 水：光绪本作“木”字，此版本有误。

② 彫：衰落，衰败。

③ 刺：疑“剩”字之误。

④ 前人对泄泻一证加有批语：“泄泻之证，皆由于膀胱不能化气，胃中所纳水谷不得分消，直由大肠而出。故以利小便为主，与伤寒下利、自利大相悬殊，须察之。”

痢 疾 门

火邪内伤辨

火邪之血^①，色必鲜红，脉必洪缓，口必渴而饮冷水，小便必涩而赤浊。内伤之血，色不鲜而紫暗，或微红淡白，脉必细而迟，或浮涩而空，口不渴，即渴而喜饮热汤，小便不赤而涩，即赤而不热不浊。此诀也。

【注释】

① 血：此处指便血。

痢 疾

此证感湿热而成，红白相见，如脓如血，至危至急者也。苟用凉药止血，热药攻邪，俱非善治之法。

方用：白芍、当归各二两，枳壳、槟榔各二钱，滑石三钱，广木香、莱菔子、甘草各一钱，水煎服。一、二剂收功。此方妙在用归、芍至二两之多，则肝血有余，不去克脾土，自然大肠有传送之功，加之枳壳、槟榔，俱逐秽去积之品，尤能于补中用攻，而滑石、甘草、木香，调达于迟速之间，不疾不徐，使瘀滞尽下也。其余些小痢疾，减半用之，无不奏功。此

方不论红、白痢疾，痛与不痛，服之皆神效。

又方：当归一两，黄芩七分（酒洗），苍术、厚朴、大腹皮、陈皮各一钱，水二碗，煎一碗，顿服^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“痢疾以调达气血为主，痢门以芍药汤为总方，芍药汤偏于凉，用之每不得效。此诸方虽不离归、芍、木香，却分证而和芩、连，不用大黄，可云尽善尽美。”指出治疗痢疾应以调理气血为主，以芍药汤为总的处方，在分类证候中根据病症加用黄芩、黄连，以达到最好的治疗效果。

血 痢^①

凡血痢腹痛者，火也。

方用：归尾、白芍各一两，黄连三钱，枳壳、木香、莱菔子各二钱，水煎服。

【注释】

① 血痢：痢疾证候类型之一。如果湿热毒邪盛于血分，伤及肠络，下痢纯血的叫“血痢”或“赤痢”。

寒 痢^①

凡痢腹不痛者，寒也。

方用：白芍、当归各三钱，枳壳、槟榔、甘草、莱菔子各一钱，水煎服。

前方治壮实之人，火邪挟湿者；此方治寒痢，腹不痛者。更有内伤劳倦^②，与中气虚寒之人脾不摄血^③而成血痢者，当用理中汤加木香、肉桂；或用补中益气汤加熟地、炒干姜治之而始愈也^④。

【注释】

① 寒痢：病症名，又叫“冷痢”。因为贪凉，过食生冷不洁食物，寒

气凝滞，脾阳受损所致。症见痢下色白、或赤白夹杂、质稀气腥、苔白脉迟等。

② 内伤劳倦：内伤，指七情不节、饮食饥饱、房事过度，而致内损脏器的病症（包括劳倦在内）。劳倦，劳即劳损，倦即倦怠，泛指一些虚损症的致病因素。

③ 脾不摄血：脾气虚弱，失去统摄血液的功能。

④ 傅氏认为寒痢的人腹不痛，根据临床观察，本人认为欠妥。因为寒湿凝滞肠中，气机阻滞，也会引起腹痛，不过略轻些罢了。

大小便门

大便不通

此证人以为大肠燥也，谁知是肺气燥乎？盖肺燥则清肃之气^①不能下行于大肠，而肾经之水仅足自顾，又何能旁流以润润^②哉？

方用：熟地、元参各三两，升麻三钱，火麻仁一钱，牛乳一碗，水二碗，煎六分，将牛乳同调服之。一、二剂必大便矣。此方不在润大肠而在补肾及清肺^③。夫大肠居于下流，最难独治，必须从肾以润之，从肺以清之。启其上窍，则下窍自然流动通利^④矣。此下证上治之法也^⑤。

【注释】

① 清肃之气：指肺气。肺气宜清净肃杀，如秋令之气，否则将上逆为患。

② 润：山间水沟，此处比喻大肠。

③ 及清肺：光绪本作“大补肺”。

④ 启其上窍，则下窍自然流动通利：意思是上面的肺气畅达，那么下面的大肠自然能通利。

⑤ 前人对这一篇加有批语：“此方之妙在升麻一味，能化板为灵。启

其上窍则下窍自流，每以笔管汲砚池水比之，指按管则得水，指启则水落砚上，浅而易明。岳^⑥尝诊小便不通，以青龙汤之姜、细、味主之，亦此意也。此方比大承气和平，然阳明燥粪非大承气不可，此方当归重用，温润而不猛也。”

从这里可以看出傅氏是用增液润燥的药物来治疗虚性便秘，这是完全正确的。但他却忽视了肠胃积热是便秘的一个重要原因，这在临床上经常见到，而对积热引起的便秘则应当清泻积热才对。

⑥ 岳：指清末医学家郭钟岳。

实证大便不通

方用：大黄五钱，归尾一两，升麻五分，蜂蜜半杯，水煎服。

此方大黄泄利，当归以润之，仍以为君，虽泄而不至十分猛烈，不致有亡阴^①之弊，况有升麻以提之，则泄中有留，又何必过虑哉？

【注释】

① 亡阴：阴液大量耗伤所出现的一种病理状态，可见皮肤干燥、身体枯槁、眼窝深陷、精神烦躁、甚则昏迷谵妄等症。

虚症大便不通

人有病后大便秘者。

方用：熟地、元参、当归各一两，川芎五钱，桃仁十粒，红花、大黄各三钱^①，火麻仁一钱，蜂蜜半杯，水煎服。

【注释】

① 钱：民国本和光绪本均作“分”。

小便不通

膀胱之气化^①不行，即小便不通，似宜治膀胱也，然而治

法全不在膀胱。

方用：人参、茯苓、莲子各三钱，白果二钱，甘草、肉桂、车前子、王不留行各一钱，水煎服。

此方妙在用人参、肉桂，盖膀胱必得气化而出，气化者何？心包络^②之气也。既用参、桂而气化行矣，尤妙在用白果，人多不识此意，白果通任督之脉，走膀胱而引群药；况车前子、王不留行，尽下泄之品，服之而前阴有不利者乎？

又方：熟地一两，山萸四钱，山药、丹皮、泽泻、肉桂、车前子各一钱，水煎服。

此方不去通小便而专治肾水，肾中有水，而膀胱之气自然行矣。盖膀胱之开合，肾司其权^③也^④。

【注释】

① 气化：气的运行变化。膀胱气化，即膀胱的排泄功能。

② 心包络：简称“心包”，它为心脏的外膜附有络脉，主要起保护心脏的作用。

③ 膀胱之开合，肾司其权：膀胱的开合排尿功能，主要依赖于肾气的作用。

④ 前人对这一篇加有批语：“此方从八味地黄悟出。”

大小便不通

方用：头发烧灰研末，用三指一捻，入热水半碗，饮之立通。

又方：蜜一茶杯，皮硝^①一两，黄酒一茶杯，大黄一钱，温服神效。

【注释】

① 皮硝：又名朴硝、芒硝。味咸、苦，性寒。功能润燥软坚，泻热导滞，用于实热积滞、大便燥结等病症。外用可治目赤肿痛、口疮等。

厥 症 门

寒 厥^①

此证手足必青紫，饮水必吐，腹必痛，喜火熨之。

方用：人参三钱，白术一两，附子、肉桂、吴萸各一钱，水煎服。

【注释】

① 寒厥：厥证之一。因阳气虚微而引起的厥证。《素问·厥论》：“阳气衰于下，则为寒厥，……。”因内脏虚寒者，症见神倦恶寒、下利清谷等；因寒凝血脉者，则四肢厥冷、关节疼痛等。

热 厥^①

此证手足虽寒而不青紫，饮水不吐，火熨之腹必痛，一时手足厥逆，痛不可忍。人以为四肢之风证也，谁知是心中热蒸，外不能泻，故四肢手足则寒，而胸腹皮热如火。

方用：柴胡三钱，当归、黄连、炒梔各二钱，荆芥、半夏、枳壳各一钱，水煎服。二剂愈。

又方：白芍一两，黑梔三钱，陈皮、柴胡各一钱，花粉二钱，水煎服。以白芍为君，取入肝而平木也^②。

【注释】

① 热厥：厥证之一。指因邪热过盛，津液受伤，影响阳气的正常流通，不能透达四肢而见四肢厥冷的病症。多伴有口渴、烦躁、胸腹灼热、便秘等症状。

② 前人对这一篇加有批语：“此证热在于肝，前方之柴胡、当归，后方之白芍皆肝药也。”

尸厥^①

此证一时猝倒，不省人事，乃气虚而痰迷心也。补气化痰而已。

方用：人参、半夏、南星各三钱，白术五钱，附子五分，白芥子一钱，水煎服。

又方：苍术三两^②，水煎，灌之必吐，吐后则愈。盖苍术阳药，善能祛风，故有奇效。凡见鬼^③者用之更效。

【注释】

① 尸厥：指突然昏倒不省人事，状如昏死，患者常呼吸微弱，脉搏极微细，乍看好像死了一样。

② 两：光绪本作“钱”，此处应是“钱”字。

③ 见鬼：指患者处于精神恍惚状态时出现的幻视、幻觉症状。

厥证

人有忽然发厥，闭目撒手，喉中有声，有一日死者，有二、三日死者，此厥多犯神明^①，然亦素有痰气而发也。治法宜攻痰而开心窍。

方用起迷丹：人参、半夏各五钱，菖蒲二钱，菟丝子一两，茯苓三钱，皂荚、生姜各一钱，甘草三分，水煎服。

【注释】

① 神明：指精神。是人体生命活动的重要组成部分，它和五脏中的“心”有密切关系，《素问·灵兰秘典论》曰：“心者……神明出焉。”

气虚猝倒

人有猝然昏倒，迷而不悟，喉中有痰，人以为风^①也，谁知是气虚乎。若作风治，无不死者。此证盖因平日不慎女色^②，精亏以致气衰，又加不慎起居，而有似乎风者，其实非

风也。

方用：人参、黄芪、白术各一两，茯苓五钱，菖蒲、附子各一钱，半夏二钱，白芥子三钱，水煎服。

此方补气而不治风，消痰而不耗气，一剂神定，二剂痰清，三剂全愈。

【注释】

① 风：此处指中风。

② 不慎女色：不戒色欲。指性生活过度。

阴虚猝倒

此证有肾中之水虚而不上交于心者，又有肝气燥^①不能生心之火者，此皆阴虚而能令人猝倒者也。

方用再甦丹：熟地二两，山萸、元参、麦冬、五味子各一两，柴胡、菖蒲各一钱，茯苓五钱，白芥子三钱，水煎服。

此方补肾水、滋肺气、安心通窍、泻火消痰实有神功，十剂全愈^②。

【注释】

① 肝气燥：指肝阴不足、肝阳上亢的证候。主要症状有头晕目眩、耳鸣、眼干、面红、烦躁、失眠等，多见于高血压症。肝为刚脏，喜柔润，忌刚烈。肝阴不足，每致肝燥而阳亢。

② 前人对这一篇加有批语：“此证切实为阴虚者，当此人身本瘦，面色以下青黑（黑：光绪本作“黯”），倒时喘微，目不能瞑（瞑：闭上眼睛。）。”这里指出了阴虚猝倒的病症。

阳虚猝倒

人有心中火虚^①不能下交于肾而猝倒者，阳虚也。

方用：人参、白术、生枣仁各一两，茯神五钱，附子、甘草各一钱，生半夏三钱，水煎服。药下喉，则痰静而气出矣，

连服数剂，则安然如故。

此证又有胃热不能安心之火而猝倒者，亦阳虚也。

方用：人参、元参各一两，石膏、花粉各五钱，麦冬三钱，菖蒲一钱，水煎服。一剂心定，二剂火清，三剂全愈^②。

【注释】

① 心中火虚：指心阳虚弱。

② 前人对这一篇加有批语：“此证切实为阳虚者，当此人素有眩暈，面色红明，倒时额鼻有微汗，阴囊欲举，胃热必口有秽气，板齿^③燥。”指出了阳虚猝倒的症状。

③ 板齿：门牙。

肾虚猝倒

人有口渴索饮，眼红气喘，心脉洪大，舌不能言，不可作气虚治。此乃肾虚之极，不能上滋于心，心火亢极，自焚闷乱，遂致身倒，有如中风者。法当补肾，而佐以清火之药。

方用水火两治汤：熟地、当归、元参各一两，麦冬、生地、山萸、茯神各五钱，黄连、白芥子、五味子各三钱，水煎。连服数剂而愈。

大怒猝倒

人大怒跳跃，忽然卧地，两臂抽掇^①，唇口歪斜，左目紧闭，此乃肝火血虚，内热生风^②之证。当用八珍汤加丹皮、钩藤、山梔。若小便自遗，左关脉弦洪而数，此肝火血燥，当用六味汤钩藤、五味子、麦冬、川芎、当归；愈后须改用补中益气汤加山梔、丹皮、钩藤多服。如妇人得此证，则逍遥散加钩藤及六味汤，便是治法。

【注释】

① 抽掇：肌肉不随意收缩的症状，多见于四肢和颜面，意同抽搐。

② 内热生风：指阴虚热炽，煎熬营阴，经脉失濡而动风的证候。可出现动摇、眩晕、抽搐等症。

中风不语

人有跌倒昏迷，或自卧而跌下床者，此皆气虚而痰邪犯人之也。

方用三生引：人参一两，生半夏、生南星各三钱，生附子一个，水煎灌之。

此证又有因肾虚而得之者。夫肾主藏精，主下焦地道^①之生身，冲任二脉系焉。二脉与肾之大络同出于肾之下，起于胞之中，其冲脉因称胞络，为经脉之海，遂名海焉。其冲脉之上行者，渗诸阳，灌诸精；下行者，渗诸阴，灌诸络，而温肌肉，别络结于跗^②。因肾虚而肾络与胞内绝，不通于上则暗^③，肾脉不上循喉咙，挟舌本则不能言，二络不通于下，则痿厥^④矣。

方用地黄饮子：熟地、巴戟、山萸、茯苓、麦冬、肉苁蓉各一两，附子、菖蒲、五味子各五钱，石斛六钱，肉桂三钱，薄荷、姜、枣，水煎服。

【注释】

① 地道：原指女子月经之通道，此处指男精女血的通路。

② 别络结于跗：有络脉连结于足背。跗：足背。

③ 暗：哑，不能说话。

④ 痿厥：指四肢痿废，不能活动。痿，同“废”。

口眼歪斜^①

此证人多治木治金固是，而不知胃土之为尤切，当治胃土，且有经脉之分。《经》云：“足阳明之经，急则口目为僻^②，眦急^③不能视，此胃土之经歪邪也。”又云：“足阳明之脉，挟口环唇，口歪唇邪，此胃土之脉为歪邪也。”二者治法，

皆常用黄芪、当归、人参、白芍、甘草、桂枝、升麻、葛根、秦艽、白芷、防风、黄柏、苏木、红花、水酒各半，煎微热服。如初起有外感者，加葱白三茎同煎，取微汗自愈。

此证又有心中虚极，不能运于口耳之间，轻则歪邪，重则不语。

方用：人参、茯苓、菖蒲、白芍各三钱，白术五钱，甘草一钱，半夏、肉桂各二钱，当归一两，水煎服。二剂愈。

又治法：令一人抱住身子，又一人抱住歪邪之耳轮^④，再令一人手摩其歪邪之处，至数百下，使面上火热而后已，少顷口眼如故矣，最神效。

【注释】

① 邪：与“斜”通。下同。

② 僻：不正歪斜。

③ 毗急：眼角筋肉拘急。眦：眼角。

④ 耳轮：即“耳廓”，指外耳道以外的全部耳壳的统称。

半身不遂

此证宜于心胃而调理之。盖心为天真神机开发之本^①，胃是谷府，充大真气^②之标。标本相得，则心膈间之膻中气海^③所留宗气^④盈溢，分布五脏三焦，上下中外，无不周偏^⑤。若标本相失，不能致其气于气海，而宗气散矣。故分布不周于经脉则偏估^⑥，不周于五脏则痞。即此言之，未有不因真气不固而病者也。法宜黄芪为君，参、归、白芍为臣，防风、桂枝、钩藤、竹沥、姜、韭、葛、梨、乳汁为佐，治之而愈。若杂投之乌、附、羌活之类，以涸营而耗卫，如此死者，医杀人也^⑦。

【注释】

① 心为天真神机开发之本：天真是指先天禀赋之气，是生命发生之本。神机，生命的表现和机转。意为心是生命发生和生命表现的根本。但

中医素以肾或命门为人生之本，此说特殊。

② 真气：即正气。《灵枢·刺节真邪》篇：“真气者，气受于天，与谷气并而充身者也。”

③ 膻中气海：指胸部两乳之间正中部位，为宗气所聚之处。《灵枢·海论》：“膻中者为气之海。”

④ 宗气：是饮食水谷所化生的营卫之气和吸收的大气相合而积于胸中之气。

⑤ 偏：疑“徧”字之误。”“徧”同“遍”。

⑥ 偏枯：又名偏风，亦称半身不遂。症见一侧上下肢偏废不用，或兼疼痛，久则患肢肌肉枯瘦，神志无异常变化。

⑦ 前人对此篇加有批语：“此证由于血不行而又中风，若用驱风之品，偏枯则终不起矣。故当以养血为主，治风先治血，血行风自灭，此为的论。”

半身不遂，口眼歪邪

方用：人参、当归、白术各五钱，黄芪一两，半夏、干葛各三钱，甘草一钱，红花二钱，桂枝一钱五分，水二樽，姜三片，枣二枚，煎服。此证人多用风药治之，殊不见功，此药调理气血，故无不效。

痫 证^①

此证忽然卧地，作牛马猪羊之声，吐痰如涌泉者，痰迷心窍^②也。盖因寒而成，感寒而发也。

方用：人参、山药、半夏各三钱，白术一两，茯神、苡仁各五钱，肉桂、附子各一钱，水煎服。

又方：人参、茯苓各一两，白术五钱，半夏、南星、附子、柴胡各一钱，菖蒲三分，水煎服。此本治寒狂^③之方，治痫亦效。

【注释】

① 痫证：又称“癫痫”，俗名“羊痫风”，是一种发作性的、神志异常的疾病。发作时突然昏倒，口吐涎沫，两眼上视，四肢抽搐，或发出如猪羊的叫声，醒来后除了感觉疲乏外，无任何不适。这种病往往会不定时的发作。

② 痰迷心窍：又称痰蒙心包，是因痰浊阻遏心神而引起意识障碍。主要症状有意识模糊、喉中痰声、胸闷，重则昏迷不醒等。多见于乙脑、流脑、中风昏迷以及癫痫等。

③ 寒狂：因寒邪内郁引起的狂症。

癫 狂 门

癫 狂^①

此证多生于脾胃之虚寒，饮食入胃，不变精而变痰，痰迷心窍，遂成癫狂。苟徒治痰而不补气，未有不死者也。

方用：人参、白芥子各五钱，白术一两，半夏三钱，陈皮、干姜、肉桂各一钱，甘草、菖蒲各五分，水煎服。

如女人得此证，去肉桂加白芍、柴胡、黑梔，治之亦最神效^②。

【注释】

① 癫狂：是精神错乱的疾病。癫，表现为抑郁状态，情感淡漠，语言错乱，属虚症；狂，表现为兴奋状态，喧扰不宁，哭笑无常，属实证。癫病经久，痰郁化火，可以出现狂证；狂病既久，郁火渐得宣泄而痰气留滞，亦能出现癫证，故常癫狂并称。

② 前人对这一篇加有批语：“男子补气，女子补血。”

发狂见鬼^①

此证气虚而中痰也，宜固其正气，而佐以化痰之品。

方用：人參、白朮各一兩，半夏、南星各三錢，附子一錢，水煎服。

【注釋】

① 發狂見鬼：指癲狂患者出現幻視，產生看見鬼怪等幻覺。

發狂不見鬼^①

此是內熱之證。

方用：人參、白芍、半夏各三錢，南星、黃連各二錢，陳皮、甘草、白芥子各一錢，水煎服。

【注釋】

① 發狂不見鬼：指癲狂患者不出現如見鬼怪的幻覺。

狂 症^①

此證有因寒得之者，一時之狂也，可用白虎湯以瀉火。更有終年而不愈者，或拿刀殺人，或罵親戚，不認兒女，見水大喜，見食大惡，此乃心氣之虛，而熱邪乘之，痰氣侵之也。

方用化狂丹：人參、白朮、茯神各一兩，附子一分，半夏、菟絲子各三錢，菖蒲、甘草各一錢，水煎服。一劑狂定。此方妙在補心脾胃三經而化其痰，不去瀉水，蓋瀉火則心氣益蕩^②，而痰涎益盛，狂何以止乎？尤妙微用附子，引補心消痰之品直入心中，則氣易補而痰易消，又何用瀉火之多事哉^③？

【注釋】

① 狂症：表現為興奮狀態，喧擾不寧，衣被不斂，打人罵人，歌笑不休，病屬實症。

② 蕩：民國本作“湯”。

③ 前人对这一篇加有批语：“此证因寒得之，何以用白虎汤？盖寒邪外逼，里热不泻而扰心胃，如冬伤于寒，春必病温是也。”这里指出治疗狂证用白虎汤的道理。

寒 狂^①

凡发狂骂人，未渴索饮，与水不饮者，寒证之狂也。此必气郁不舒，怒气未泄，其人必性情过于柔弱，不能自振^②者耳。宜补气消痰。

方用：人参、茯神各一两，白术五钱，菖蒲三分，半夏、南星、附子，柴胡各一钱，水煎服。药下喉，睡熟醒来，病如失也。

【注释】

① 寒狂：因寒邪内郁引起的狂证。

② 自振：指患者中气不足，不能自行振奋恢复。振，奋起，振作。

怔忡惊悸门

怔忡^①不寐

此证心经血虚也。

方用：人参、当归、茯神各三钱，丹皮、麦冬各二钱，甘草、菖蒲、五味子各一钱，生枣仁、熟枣仁各五钱，水煎服。

此方妙在用生、熟枣仁，生使其日间不卧，熟使其夜间不醒，又以补心之药为佐，而怔忡安矣。

【注释】

① 怔忡：是持续性心跳剧烈的一种症状。刘完素《素问玄机原病式》中曰：“心胸燥补，谓之怔忡。”此与心悸大致相同，但病情较重。一般说，心悸多属功能性，怔忡多属器质性。临床上常是心悸、怔忡并称。

心惊^①不安，夜卧不睡

此心病而实肾病也，宜心肾兼治。

方用：人参、茯苓、茯神、熟地、山萸、当归各三两，远志二两，菖蒲三钱，黄连、肉桂、砂仁各五钱，生枣仁、白芥子各一两，麦冬三两，蜜丸。每日下五钱，汤酒俱可。此方治心惊不安与不寐耳。用人参、当归、茯神、麦冬足矣，即为起火不寐，亦不过用黄连足矣，何以反用熟地、山萸补肾之药，又加肉桂以助火？不知人之心惊，乃肾气不入于心也；不寐乃心气不归于肾也。今用熟地、山萸补肾，则肾气可通于心。肉桂以补命门之火，则肾气既温，相火^②有救。君火^③相得，自然上下同心^④、君臣合德^⑤矣。然补肾固是，而亦有肝气不上于心而成此证者，如果有之，宜再加白芍二两，兼补肝木，斯心泰然^⑥矣。

【注释】

① 心惊：指心中恐惧。

② 相火：与“君火”相对而言。二火相互配合，以温养脏腑，推动功能活动。一般认为，命门、肝、胆、三焦均内有相火，而相火的根源主要发自命门。

③ 君火：封建名词，指心火。因心是所谓的“君主之官”，故名。

④ 上下同心：指心肾相交。君，指心；臣，指肾。

⑤ 君臣合德：指心肾相交。君，指心；臣，指肾。

⑥ 泰然：安详从容。

恐 怕

人夜卧交睫^①，则梦争斗负败，恐怖之状，难以形容。人以为心病，谁知是肝病乎？盖肝藏魂^②，肝血虚则魂失养，故交睫若魔^③。此乃肝胆虚怯，故负恐维多^④。此非火补，不克奏功；而草木之品，不堪任重，当以酒化鹿角胶，空腹服之可愈。盖鹿角胶大补精血，血旺则神自安矣。

【注释】

① 交睫：眼睑上下睫毛相合，意入睡。

② 肝藏魂：《素问·宣明五气篇》：“肝藏魂”。“魂”属于精神活动，肝气疏泄条达而情志正常，叫做藏魂。“肝藏魂”体现了精神活动和内在脏器的联系。

③ 魇：指恶梦。

④ 负恐维多：指夜间多做争斗失败、恐惧之梦。

⑤ 火补：光绪本作“大补”，此处“火补”为误。

神气不宁

人有每卧则魂^①飞扬，觉身在床而魂离体矣。惊悸多魇，通夕不寐，人皆以为心病也，谁知是肝经受邪乎？盖肝气一虚，邪气袭之；肝藏魂，肝受邪，魂无依，是以魂飞扬而若离体也。法用珍珠母为君，龙齿佐之。珍珠母入肝为第一，龙齿与肝同类，龙齿虎睛^②，今人例以为镇心之药，诎知龙齿安魂，虎睛定魄^③。东方苍龙^④，木也，属肝而藏魂；西方白虎^⑤，金也，属肺而藏魄。龙能变化，故魂游而不定；虎能专静，故魄止而有守。是以治魄不宁宜虎睛，治魂飞扬宜龙齿，药^⑥各有当也。

【注释】

① 魂：为五脏精气化生的精神情感活动，为肝所藏。

② 虎睛：具有镇心安神、明目祛翳的功效，也可治疗癫狂、小儿惊厥等症。《千金方》有虎睛汤、虎睛丸等。

③ 魄：属精神活动，与本能的感觉和支配动作有关，为五脏精气所化生，为肺所藏。

④ 东方苍龙：为东方七宿的总称，表示方位。根据五行学说，东方，属木，在人体相应为肝。

⑤ 西方白虎：为西方七宿的总称，表示方位。根据五行学说，西方属金，在人体相应为肺。

⑥ 药：光绪本缺“药”字。

腰腿肩臂手足疼痛门

满身皆痛

手足心腹一身皆痛，将治手乎？治足乎？治肝为主，盖肝气一舒，诸痛自愈。不可头痛救头、足痛救足也。

方用：柴胡、甘草、陈皮、梔子各一钱，白芍、苡仁、茯苓各五钱，当归、苍术各二钱，水煎服。此逍遥散之变化也，舒肝而又去湿去火，治一经而诸经无不愈也。

腰 痛

痛而不能俯者，湿气也。

方用：柴胡、泽泻、猪苓、白芥子各一钱，防己二钱，白术、甘草各五钱，肉桂三分，山药三钱，水煎服。此方妙在入肾去湿，不是入肾而补水。初痛者，一、二剂可奏功，日久必多服为妙。

腰 痛

痛而不能直者，风寒也。

方用逍遥散加防己一钱，一剂可愈。若日久者，当加杜仲一两，白术二钱，酒煎服。十剂而愈。

又方：杜仲一两（盐炒），破故纸五钱（盐炒），熟地、白术各三两，核桃仁二钱，蜜丸。每日空心白水送下五钱。服完可愈，如未全愈，再服一料，必愈。

腰 痛

凡痛而不止者，肾经之病，乃脾湿之故。

方用：白术四两，苡仁三两，芡实二两，水六碗，煎一碗，一气^①饮之。此方治梦遗^②之病亦神效。

【注释】

① 一气：一口气，意一次。

② 梦遗：病症名，又名梦失精，指因梦交而精液遗泄的病症。主要由“心肾不交”、“相火盛”、“肾气不固”等引起，也有由于湿热下注而引起的。

腰腿筋骨痛

方用养血汤：当归、生地、肉桂、牛膝、杜仲、破故纸、茯苓、防风各一钱，川芎五分，甘草三分，核桃两个，山萸、土茯苓各二钱，水酒煎服。

腰痛足亦痛

方用：黄芪半斤，防风、茯苓各五钱，苡仁五两，杜仲一两，肉桂一钱，车前子三钱，水十碗，煎二碗，入酒，以醉为主，醒即愈。

腰足痛，明系是肾虚而气衰，更加之湿，自必作楚。妙在不补肾而单益气，盖气足则血生，血生则邪退；又助之苡仁、茯苓、车前之类去湿，湿去而血活矣。况又有杜仲之健肾、肉桂之温肾、防风之荡风^①乎！

【注释】

① 荡风：指清除风邪。

腿 痛

身不离床褥，伛偻^①之状可掬^②，乃寒湿之气侵也。

方用：白术五钱，芡实二钱，肉桂一钱，茯苓、萆薢各一两，杜仲三钱，苡仁二两，水煎，日日服之，不必改方，久之自奏大功。

【注释】

① 伛偻：身体弯曲。

② 掬：用两手捧起。

两臂肩膊痛

此手经之病，肝气之郁也。

方用：当归、白芍各三两，柴胡、陈皮各五钱，羌活、秦艽、白芥子、半夏各三钱，附子一钱，水六碗，煎三沸，取汁一碗，入黄酒服之，一醉而愈。

此方妙在用白芍为君，以平肝木，不来侮胃；而羌活、柴胡又去风，直走手经之上；秦艽亦是风药；而兼附子攻邪，邪自退出；半夏、陈皮、白芥子为祛痰圣药，风邪去而痰不留；更得附子无经不达，而其痛如失也。

手足痛

手足，肝之分野^①，而人乃为脾经之热，不知散肝木之郁结，而手足之痛自去。

方用逍遥散加梔子三钱，半夏二钱，白芥子一钱，水煎服。二剂，其痛如失。

盖肝木作祟，脾不当其锋，气散于四肢，结而不伸，所以作楚，今平其肝气，则脾气自舒矣。

【注释】

① 分野：分布的范围。

胸背、手足、颈项、腰膝痛

筋骨牵引，坐卧不得，时时走易不定^①，此是痰涎伏在心膈上下。或令人头痛，夜间喉中如锯声，口流涎唾，手足重，

腿冷，治法用控涎丹^②，不足十剂，其病如失矣^③。

【注释】

① 走易不定：游走变换无定所。比喻经常变化，不固定。

② 控涎丹：《三因极一病证方论》方。其组成为：甘遂、大戟、白芥子各等分，糊丸，梧桐子大。每服五至十丸，姜汤送服。功能祛痰逐饮。

③ 前人在这写有说明：“控涎丹方药未录^④，此条仍从^⑤原本存之。”

④ 录：光绪本作“注”。

⑤ 从：光绪本作“照”。

背骨痛

此证乃肾水衰耗，不能上润于脑，则河车之路乾涩而难行，故作痛也。

方用：黄芪、熟地各一两，山萸四钱，白术、防风各五钱，五味子一钱，茯苓三钱，附子一分，麦冬二钱，水煎服。

此方补气补水，去湿去风，润筋滋骨，何痛之不愈哉？

腰痛兼头痛

上下相殊也，如何治之乎？治腰乎？治头乎？谁知是肾气不通乎。盖肾气上通于脑^①，而脑气下达于肾，上下虽殊，而气实相通。法^②当用温补之药，以火^③益其肾中之阴，则上下之气通矣。

方用：熟地一两，杜仲、麦冬各五钱，五味子二钱，水煎服。一剂即愈。

方内熟地、杜仲，肾中药也，腰痛是其专功。今并头而亦愈者何也？盖此头痛，是肾气不上达之故，用补肾之味，则肾气旺而上通于脑，故腰不痛而头亦不痛矣。

【注释】

① 肾气上通于脑：《素问·逆调论》曰：“肾不生则髓不能满。”髓为

肾之精气所化生，脑为髓海，故脑的生长、发育和功能活动，均与肾气的盛衰有关。

② 法：光绪本无“法”字。

③ 火：光绪本作“大”，疑“火”为误。

心腹痛门

心痛辨

心痛之证有二，一则寒气侵心而痛，一则火气焚心而痛。寒气侵心者，手足反温；火气焚心者，手足反冷，以此辨之最得。

热 痛

方用：黑栀三钱，白术五钱，甘草、半夏、柴胡各一钱，水煎服。心不可使痛，或寒或火，皆冲心包耳。

寒 痛

方用：良姜、白术、草乌、贯仲各三钱，肉桂、甘草各一钱，水煎服。

久病心痛

心乃神明^①之君，一毫邪气不可干犯，犯则立死。经年累月而痛者，邪气犯心包络也。但邪有寒热之辨，如恶寒见水如仇，火熨之则快，此寒邪也。

方用：苍术二钱，白术五钱，当归一两，肉桂、良姜各一钱，水煎服。

【注释】

① 神明：即“神”的概念。“神”是神志、知觉、运动等生命活动现象的主宰，它有物质基础，由先天之精生成，由后天饮食所化生的精气来充养，才能维持和发挥它的功能。它在人体位居首要地位。前人把大脑、中枢神经的部分功能和心联系起来，故又有“心藏神”的说法。

久病心痛

如见水喜悦，手按之而转痛者，热气犯心包络也。

方用：白芍一两，黑梔、当归、生地各三钱，甘草一钱，陈皮八分，水煎服。

寒热二证，皆责之于肝也。肝属木，心属火，木衰不能生火，则包络寒，补肝而邪自退。若包络之热，由于肝经之热，泻肝而火自消也。

腹 痛

痛不可忍，按之愈痛，口渴饮以凉水，则痛少止，少顷依然大痛。此火结在大小肠也，若不急治，一时气绝。

方用定痛如神汤：黑梔、苍术各三钱，甘草、厚朴各一钱，茯苓一两，白芍五钱，水煎服。

此方舒肝经之气，利膀胱之水，泻水逐瘀。再加大黄一钱，水煎服勿迟。

腹 痛

肠中有痞块，一时发作，而痛不可手按者。

方用：白术二两，枳实一两，马粪^①五钱（炒焦），好酒煎服。

【注释】

① 马粪：微温、无毒，具有止血、止痛等功效，可治吐血、下血，鼻

衄、妇人崩中、久痢赤白，卒中恶死、绞肠痧痛等症。但现在很少用。

冷气心腹痛

方用火龙丹：硫黄一两（醋制），胡椒一钱，白矾四钱，醋打荞面为丸，如桐子大。每服二十五丸，米汤下。

胃气痛

人病不能饮食，或食而不化，作痛作满，或兼吐泻，此肝木克脾土也。

方用：白芍、当归、柴胡、茯苓各二钱，白术三钱，甘草、白芥子各一钱，水煎服。有火加梔子二钱；无火加肉桂一钱；有食加山楂三钱；伤面食加枳壳一钱，麦芽一钱；有痰加半夏一钱。有火能散，有寒能驱，此右病而左治^①之也^②。

【注释】

① 右病而左治：右肋下疼痛而从肝治疗。左肋属肝经分野，故“左治”即指治肝。

② 前人对心腹痛加有批语：“心腹痛共有九种，其实皆心包络、胃脘、膈中及腹痛，无真心痛也。虫痛、注痛、气痛、血痛、悸痛、食痛、饮痛、冷痛、热痛，证各有辨，其用药也大有不同。如虫痛则唇上有疮，痛时作时休，可与乌梅丸；注痛^③则兼头痛，或抽搐，或妄语，可与苏合香丸；气痛^④则或上或下，或前或后，有肝，有胃，有肺，可与左金丸、平胃散之属；血痛^⑤则有痞块，可与桃仁汤、失笑散；悸痛^⑥则按之不拒，可与理中汤、妙香散；食痛^⑦则拒按发热，可与承气汤、槟榔丸；饮痛^⑧则吐清水，肋下有水声，可与二陈汤，甚者十枣汤；冷痛、热痛则此二方可用。先生此书因穷乡僻壤而设，执此可以应急，且免误于庸医，故去烦就简也。”此处指出了傅山治疗各种腹痛都是认真按照辨证施治的原则来进行治疗的。

③ 注痛：病证名，又名注心痛，症见卒尔心痛，面色青黯，或昏愤谵语，或脉乍大乍小等症。治宜通阳行气，活血化瘀。《医学三字经》对本

病的治疗主张用苏合香丸、丹参饮，针刺、水针疗法等。

④ 气痛：因气滞不通引起的疼痛。常见于胸腹腰胁等处。

⑤ 血痛：因气滞血瘀引起的疼痛。多痛处固定，触痛拒按，或经久不愈。

⑥ 悸痛：又名悸心痛。症见心痛而悸，痛有休止，喜按，得食减缓，饮则更痛，脉虚弱等。

⑦ 食痛：多因伤于饮食，食积作痛。症见心胸胀闷作痛，噯腐吞酸，恶食腹痛，脉滑实。

⑧ 饮痛：多因水饮停积所致。症见胃脘痛，恶心烦闷呕水，或胁下有水声，脉弦滑等。

麻木门

手麻木

此乃气虚而寒湿中之，如其不治，三年后必中大风^①。

方用：白术、黄芪各五钱，陈皮、桂枝各五分，甘草一两，水煎服^②。

【注释】

① 大风：指中风重症。

② 前人对这一篇加有批语：“手足麻木为中风之候，左右偏枯皆先由手足大指不用起。盖手太阴肺经行于手大指，肺藏气而右降，气分虚则病偏于右。足厥阴肝经行于足大指，肝藏血而左升，血分虚则病偏于左。故手足麻木必补气血，且验中风之候于未来也。”这里指出手足麻木是中风的一种证候，并指出了治疗手足麻木必须补气血的道理。

手 麻

十指皆麻，面目失色，此亦气虚也。治当补中益气汤加木香、麦冬、香附、羌活、乌药、防风，三剂可愈。

手足麻木

四物汤加人参、白术、茯苓、陈皮、半夏、桂枝、柴胡、羌活、防风、秦艽、牛膝、炙草、姜、枣引煎，服四剂愈。

木^①

凡木是湿痰^②死血^③也。用四物汤加陈皮、半夏、茯苓、桃仁、红花、白芥子、甘草、竹沥、姜汁，水煎服。

【注释】

① 木：即麻木。

② 湿痰：痰证的一种。多由脾失健运，湿蕴酿痰所致。症见痰多稀白，或痰黄滑而易出。

③ 死血：指瘀血。

腿麻木

方用导气散：黄芪二钱，甘草一钱五分，青皮一钱，升麻、柴胡、归尾、泽泻各五分，五味子三十粒，陈皮八分，红花少许，水煎，温服甚效。

两手麻木，困倦嗜卧

此乃热伤元气也。

方用益气汤：人参、甘草各一钱，黄芪二钱，炙草五分，五味子三十粒，柴胡、白芍各七分，姜三片，枣二枚，水煎热服。

浑身麻木

凡人身体麻木不仁^①，两目羞明^②怕日，眼涩难开，视物昏花，睛痛。

方用神效黄芪汤：黄芪、白芍各一钱，陈皮五分，人参八分，炙草四分，蔓荆子二分，如有热加黄柏三分，水煎服。

【注释】

① 麻木不仁：麻，非痛非痒，肌肉内如有虫行，按之不止；木，不痛不痒，按之不知，如木厚之感；不仁，皮肤知觉迟钝。意为肌肉皮肤发麻发木，知觉迟钝。

② 羞明：怕见强烈光线。

麻木痛

风寒湿三气，合而成疾，客于皮肤肌肉之间，或痛或麻木。

方用：牛膝胶^①二两，南星五钱，姜汁半碗，共熬膏摊贴，再以热鞋底熨之，加羌活、乳香、没药更妙。

【注释】

① 牛膝胶：为中药牛膝熬膏后入药。

足弱^①

此证不能步履^②，人以为肾水之虚，谁知由于气虚不能运动乎。

方用补中益气汤加人参、牛膝各三钱，金石斛五钱，黄芪一两，水煎服。

【注释】

① 足弱：指两脚无力的病症。

② 步履：行走踩踏。履，践踏。

筋缩^①

凡人一身筋脉，不可有病，病则筋缩而身痛，脉涩而体重矣。然筋之舒在于血和，而脉之平在于气足。故治筋必须先治血，而治脉必须补气。人若筋急拳缩，伛偻而不能直立者，皆

筋病也。

方用：当归一两，白芍、苡仁、生地、元参各五钱，柴胡一钱，水煎服。

此方妙在用柴胡一味入于补药中。盖血亏则筋病，用补药以治筋宜矣，何又用柴胡？夫肝为筋之主，筋乃肝之余，气不顺，筋自缩，急令用柴胡以舒散之，郁气既除，而又济之以大剂补血，则筋得其养矣。

【注释】

① 筋缩：指肢体筋脉收缩抽急，不能舒转自如的病证。

胁 痛 门

两胁有块

左胁有块作痛，是死血也；右胁有块作痛，是食积也。遍身作痛，筋骨尤甚，不能伸屈，口渴目赤，头眩痰壅，胸不利^①，小便短赤，夜间殊甚，又遍身作痒如虫行，人以为风也，谁知是肾气虚而热也。法用六味地黄汤加梔子、柴胡，是乃正治也。三剂见效。

【注释】

① 胸不利：胸闷不舒服。

左胁痛

左胁痛，肝经受邪也。

方用：黄连（吴萸炒）二钱，柴胡、当归、青皮、桃仁（研）各一钱，川芎八分，红花五钱，水煎，食远服^①。有痰加陈皮、半夏。

【注释】

① 食远服：饭后较长时间再服药。

右胁痛

此是邪入肺经也。

方用：片姜黄、枳壳各二钱，桂心二分，吴萸、陈皮、半夏各五分，水煎服。

左右胁俱痛

方用：柴胡、青皮、香附、龙胆草、当归各一钱，川芎、枳壳各八分，甘草三分，砂仁、木香各五分，姜水煎服。

两胁走注^①

两胁走注，痛而有声音，痰也。

方用二陈汤去甘草，加枳壳、砂仁、木香、川芎、青皮、苍术、香附、茴香，水煎服。

【注释】

① 两胁走注：指两胁间游走疼痛的病症。走，移动。注，流入。

胁痛身热

此劳也。用补中益气汤加川芎、白芍、青皮、砂仁、枳壳、茴香，去黄芪，水煎服^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“每咯血之人，胁胀痛。而咯，是经血瘀滞胁下也。两方用时加桃仁七枚、黑荆芥八分尤效。”

胁 痛

此乃肝痛也，故治胁痛，必须平肝；平肝必须补肾；肾水

足而后肝气有养，不治胁痛而胁痛自平也。

方用肝肾兼资汤：熟地、当归各一两，白芍二两，黑梔一钱，山萸五钱，白芥子、甘草各三钱，水煎服。

胁痛咳嗽

咳嗽气急、脉滑数者，痰结痛也。瓜蒌仁、枳壳、青皮、茴香、白芥子，水煎服。

浊 淋 门

二浊^①五淋^②辨

浊淋二证，俱小便赤也。浊多虚，淋多实，淋痛、浊不痛为异耳。浊淋俱属热证，惟其不痛，大约属湿痰下陷及脱精^③所致；惟其有痛，大约纵淫^④欲火动，强留败精^⑤而然，不可混治。

【注释】

① 二浊：指尿浊、精浊二症。尿浊者，小便混浊，白如泔浆，排尿无痛；精浊者，尿道日常滴出白色浊物，小便涩痛，但尿液并不混浊。

② 五淋：是指石淋、气淋、膏淋、劳淋、血淋的合称。其症共见小便频数、短涩、淋漓刺痛、欲出未尽、少腹拘急等。

③ 脱精：精关不固，精液渗入小便而下。

④ 纵淫：放纵淫欲，指性生活过度。

⑤ 败精：坏死的精液。

淋 证

方用五淋散：淡竹叶、赤茯苓、芥穗、灯心各一钱，车前子五钱，水煎服。

浊 证

方用清心莲子饮：石莲子、人参各二钱五分，炙草、赤茯苓各二钱，麦冬、黄芪、地骨皮、车前子各一钱五分，甘草五分，水煎服。

肾 病 门

阳强不倒^①

此虚火炎上而肺气不能下行故耳。若用黄柏、知母煎饮之，立时消散，然自倒之后，终年不能振起，亦非善治之法也。

方用：元参、麦冬各三两，肉桂三分，水煎服。

此方妙在用元参以泻肾中之火，肉桂入其宅，麦冬助肺金之气，清肃下行，以生肾水，水足则火自息矣，不求倒而自倒矣。

【注释】

① 阳强不倒：指阴茎坚硬勃起、久久不痿的病症，是一种阴虚阳亢、命火妄动之象。多因性欲过度、肾气受伤所致。

阳痿不举^①

此证仍平日过于琢削^②，日泄其肾中之水，而肾中之火亦因之而消亡。盖水去而火亦去，必然之理，有如一家人口，厨下无水，何以为炊？必有水而后取柴炭以煮饭，不则空铛^③也。

方用：熟地一两，山萸四钱，远志、巴戟、肉苁蓉、杜仲各一钱，肉桂、茯神各三钱，人参三钱，白术五钱，水煎服。

【注释】

① 阳痿不举：又称“阳事不举”，指阴茎不举的病症。多因性欲过度

或误犯手淫，损伤精气，命门火衰；或思虑过度，损伤心脾；或恐惧过度，损伤肾气引起。

② 琢削：比喻性生活过度。

③ 铛：平底锅。

尿血又便血

便血出于后阴^①，尿血出于前阴^②，最难调治，然总之出血于下也。

方用：生地一两，地榆三钱，水煎服。二证俱愈。

盖大小便各有经络，而其证皆因膀胱之热也。生地、地榆，俱能清膀胱之热，一方而两治之也，盖分之中有合。

【注释】

① 后阴：即肛门部。

② 前阴：又称“下阴”。指男、女外生殖器及尿道的总称。

疝气

方用去铃丸：大茴香、姜汁各一斤，将姜汁入茴香内，浸一宿，入青盐^①二两，同炒红为末，酒丸桐子大，每服三十丸，温酒或米汤送下。

【注释】

① 青盐：又名戎盐，为产于内陆的矿物盐。味咸、微甘、性寒。功能补肾、清热、凉血。可治目赤肿痛、吐血、衄血及尿血等。

肾子^①痛方

泽泻、陈皮、赤苓各一钱，丹皮、小茴香、枳实各三钱^②，吴萸、苍术各五分，山楂、苏梗各四分，姜水煎服。

又方：酒炒大茴香、酒炒小茴香、赤石脂（煅）、广木香各等分，乌梅肉捣烂为丸，如桐子大，空心每服十五丸，葱酒

送下立效。

【注释】

① 肾子：即睾丸。

② 钱：光绪本作“分”。

偏 坠^①

方用：小茴香、猪苓等分，微炒为末，空心盐水冲服。热盐熨，亦甚效。

【注释】

① 偏坠：指单侧睾丸肿大、疼痛下坠的病症。

杂 方 门

病在上而求诸下

头痛，目痛，耳红，腮肿，一切上焦等证，除清凉发散正治外，人即束手无策，而不知更有三法，如大便结、脉沉实者，用酒蒸大黄三钱微下之，名“釜底抽薪”^①之法；如大便泻、脉沉、足冷者，宜六味地黄汤加牛膝、车前子、肉桂，足冷甚者，加熟附子，是冷极于下，而迫其火之上升也，此名导龙入海^②之法；大便如常、脉无力者，用牛膝、车前引下之^③，此名引火归源^④之法也。

【注释】

① 釜底抽薪：从锅底下抽掉柴火。比喻从根本上解决问题。釜，锅底。薪，柴。

② 导龙入海：这里是指于补阴药中少佐桂、附，使虚火敛藏的治法。龙，比喻肾火。海，比喻肾水。

③ 引下之：导引药性下行。

④ 引火归源：是治疗肾火上升的方法。肾火上升，表现为上热下寒、面色浮红、头晕耳鸣、口舌糜烂、两足发冷、舌质红、脉虚。可用肉桂、附子之类以引火下行，使肾火不再上行，上热下寒的证候也可消除。

病在下而求诸上

凡治下焦病，用本药不愈者，须从上治之。如足痛、足肿、无力虚软、膝疮红肿，用木瓜、苡仁、牛膝、防己、黄柏、苍术之品不效者，定是中气下陷，湿热下流，用补中益气汤升提之；如足软不能行而能食，名曰痿证^①，宜清肺热；如治泄泻，用实脾利水之剂不效者，亦用补中益气去当归，加炮姜、苍术，脉迟加肉苡、故纸；如尿血用凉血利水药不效，宜清心莲子饮；若清心不止，再加升、柴；如治便血，用止涩之药不效，或兼泄泻，须察其脉。如右关微，或数大无力，是脾虚不摄血，宜六君子加炮姜；若右关沉紧，是饮食伤脾，不能摄血，加沉香二分；右寸洪数，是实热在肺，宜清肺，麦冬、花粉、元参、枯芩、桔梗、五味子、枳壳等味。

【注释】

① 痿证：是肢体痿弱废用的一类病症，可见肢体筋脉弛缓、软弱无力，渐至肌肉萎缩而不能随意运动。

疮 毒^①

方用如神汤：银花、当归、蒲公英各一两，荆芥、连翘各一钱，甘草三钱，水煎服。

【注释】

① 疮毒：又名疮疡，是外科临床常见的皮肤肿疡一类的病症，如痈疽、疔疮、疖肿等。多由毒邪内侵，邪热灼血，以致气血壅滞而成。

头面上疮

方用：银花二两，当归一两，川芎、甘草各五钱，桔梗、

蒲公英各三钱，黄芩一钱，水煎服。二剂全消。头疮不可用升提之药，最宜用降火之品，切记之。

身上手足之疮疽^①

方用：银花、甘草、蒲公英各三钱，当归一两，牛蒡子二钱，花粉五钱，芙蓉叶七片（无叶用根），水煎服。

【注释】

① 疮疽：病证名，是外科临床常见的多发病。发于肌肉筋骨表面的疮肿。疮面深而恶者为疽。

统治诸疮

方用：花粉、甘草、银花、蒲公英，水煎服。二剂痊愈。此方消毒大有奇功，诸痈^①诸疽，不论部位，皆治之。

【注释】

① 痈：病名。凡疮面浅而大者为痈。多因气血受毒邪所困而壅塞不通所形成的。

黄水疮^①

方用：雄黄、防风煎汤，洗之即愈。

【注释】

① 黄水疮：即脓疱疮，患者初起皮肤先起红斑，继之成粟米样水疱，基底红晕，随即为脓疱，痒痛，搔破后黄水淋漓，久则结痂而愈。多发于小儿。

手汗^①

方用：黄芪、干葛各一两，荆芥、防风各三钱，水煎一盆，热熏温洗，三次愈。

【注释】

① 手汗：指手掌心潮湿多汗的症状，多为脾胃湿热引起。

饮砒毒

用生甘^①草三两，加羊血半碗，和匀饮之，立吐而愈。若不吐，速用大黄二两，甘草五钱，白矾一两，当归三两，水煎数碗饮之。立时大泻，即生。

【注释】

① 甘：光绪本无“甘”字。

补 肾

方用：大盐青菽萆^①七寸，煮核桃。

【注释】

① 大盐青菽萆：药味不详。

嚏喷法

用生半夏为末，水丸绿豆大，入鼻孔，必嚏喷不已，用水饮之立止。通治中风不语，及中恶中鬼^①俱妙。

【注释】

① 中恶中鬼：古人所说的中邪恶、鬼祟所引起的疾病，实际是感受外邪引起的突然昏仆、晕厥、不省人事等一类病症。

破伤风^①

方用：蝉退去净头足，为末五钱，用好酒一碗，煎滚入末，调匀服之，立生。

又方：生^②麻油、头发、马尾^③、罗底^④、羊粪各等分，共为末，黄酒冲服。

【注释】

① 破伤风：指因皮肤破伤处受邪（破伤风杆菌）而表现为抽风等症的一种危重疾病。

② 生：光绪本作“升”，疑误。

③ 马尾：马的尾巴毛。有镇惊、止痉、止血、去毒等功效。

④ 罗底：药味功用不详。

疯狗咬伤^①

用手指甲^②焙黄为末，滚黄酒冲服，发汗即愈，忌房事百日。

【注释】

① 疯狗咬伤：指被患狂犬病的狗咬伤，则患者可得狂犬病，证候危险，常致死亡。

② 手指甲：味甘、咸，性平，无毒。可治破伤风、尿血、目翳等症。此外，有催生、下胞衣等功效。

小 儿 科

色

小儿鼻之上、眼之中色红者，心热也；红筋横直，现于山根^①，皆心热也；色紫者，心热之甚而肺亦热也；色青者，肝有风也；青筋横直现者，肝热也；直者，风下^②行；横者，风下行也；色黑者，风甚而肾中有寒也；色白者，肺中有痰；黄者，脾胃虚而作泻。一观其色而疾可知矣。

【注释】

① 山根：（王宫）又称“王宫”、“下极”、“王极”等。指左右目内眦的中间，为小儿望诊的一个部位。

② 下：光绪本作“上”。此处疑为误。

脉

大人看脉于寸、关、尺，小儿不然，但看其数不数^①而

已。数甚则热，不数则寒也；数之中浮者，风也；沉者，寒也；缓者，湿也；涩者，邪也；滑者，痰也；有止歇^②者，痛也；如此而已，余不必过谈也。

【注释】

① 数：脉搏急速，一呼一吸间，小儿脉搏跳动超过六次以上称“数脉”。

② 止歇：脉搏跳动节律不齐，时有停歇。

三 关^①

小儿虎口^②，风、气、命三关，紫属热，红属寒，青属惊风，白属疳。风关轻；气为重；若至命关，则难治也^③。

【注释】

① 三关：即依据小儿食指上的指纹形色来判断病情，指小儿指纹诊法。食指近虎口处的第一节为风关，第二节为气关，第三节为命关。

② 虎口：手部的第一、二掌关节部的前方分歧部。

③ 前人对这一篇加有批语：“小儿科古无专方，自唐·孙真人《千金方》，乃以妇、婴为重，而小儿之方备。后此妄作幼科各目，动曰惊风，于是误于祛风克伐之药者半，误于推拿针灸者半。先生出处与孙真人千古一辙，女科即备，小儿科即此。数方意简言赅，足以保赤，惟急、慢惊风方一条，愚无取焉。”这里指出治疗小儿疾病应该平稳，不要乱用克伐的药物和不当的治疗方法。

不食乳^①

小儿不食乳，心热也。葱煎乳汁，令小儿服之亦妙，不若用黄连三分，煎汤一分，灌数次即食矣。神效。

【注释】

① 不食乳：这是指婴儿出生十二小时后不因口腔疾患而不能吮乳的病症。

脐不干^①

用车前子炒焦为细末，敷之即干。

【注释】

① 脐不干：又称“脐湿”，指小儿脐带肿湿、经久不愈的病症。

山 根

山根之上，有青筋直现者，乃肝热也。

方用：柴胡、半夏各三分，白芍、茯苓各一钱，当归、白术各五分，山楂三个，甘草一分，水煎服。

有青筋横现者，亦肝热也。直者风上行，横者风下行。用前方加柴胡五分，麦芽一钱，干姜一分，水煎服。

有红筋直现者，心热也。亦用前方加黄连一分，麦冬五分，去半夏，加桑白皮、天花粉各二分，水煎服。

有红筋斜现者，亦心热也。亦用前方加黄连二分。热积于胸中，不可用半夏，用桑白皮、花粉可也。

有黄筋现于山根者，不论横直，总是脾胃之证，或吐或泻，腹痛或不思食。

方用：白术、茯苓各五分，陈皮、人参、麦芽各二分，神曲、甘草各一分，淡竹叶七分，水煎服。有痰加半夏一分，白芥子二分；如口渴有热者，加麦冬三分，黄芩一分；有寒加干姜一分；吐加白蔻一粒；泻加猪苓五分；腹痛按之大叫者，食也，加大黄三分，枳实一分；按之不呼号者，寒也，加干姜三分；如身发热者，不可用此方。

发 热

不拘早晚发热，俱用万全汤，神效。

柴胡、白术、黄芩、神曲各三分，白芍、麦冬各一钱，当归五分，茯苓三分，甘草、苏叶各一分，山楂三个，水煎服。

冬加麻黄一分，夏加石膏三分，春加青蒿三分，秋加桔梗三分，有食加枳壳三分，有痰加白芥子三分，吐加白蔻一粒，泻加猪苓一钱。小儿诸证，不过如此，不可作惊风治之。如果有惊风，加人参五分，其效如神。

凡潮热^①、积热、疟热，乃脾积寒热，俱用姜、梨引。柴胡、人参、黄芩、前胡、秦艽、甘草、青蒿各一分，童便浸晒干生地一寸，薄荷二叶或生梨、生藕一片，水煎服，甚效。

【注释】

① 潮热：发热如潮水一样有定时，每天到一定时候体温就升高（一般多在下午出现）。

感冒风寒

方用：柴胡五分，白术、白芍各一钱，茯苓、炙草、半夏各三分，陈皮二分，当归八分，水煎服。

惊 风

世人动曰惊风，谁知小儿惊则有之，而风则无。小儿纯阳之体^①，不当有风，而状有风者，盖小儿阳旺内热，内热则生风，是非外来之风，乃内出之风也。内风作外风治，是速死也。

方用清水散风汤：白术、栀子各三分，茯苓二钱，陈皮、甘草、半夏各一分，白芍一钱，柴胡五分，水煎服。

此方健脾平肝之圣药，肝平则火散，脾健则风止^②，断不可以风药表散之也。

【注释】

① 纯阳之体：小儿出生以后，每时每刻都在不断地生长发育，故古

人称为“纯阳之体”。所谓纯阳是指小儿生机旺盛而言，如果把纯阳理解为“独阳无阴”或“阳气极盛”，而在临床上遇到寒证时，不敢用一点温热的药，那就不对了。

② 肝平则火散，健脾则风止：肝气畅达，则火邪消散；脾土健运则肝风熄止。

惊 风

凡惊风皆由于气虚。

方用压风汤：人参、白术、神曲各五分，甘草、半夏、丹砂各三分，茯神一钱，砂仁一粒，陈皮一分，水煎服。

此方治慢脾风^①加黄芪。

【注释】

① 慢脾风：“脾”，光绪本作“惊”。考虑此处应当为慢惊风。慢惊风是儿科常见病症，以慢性发作、面色淡白或青、神倦嗜睡、缓缓抽搐、时作时止、腹部凹陷、呼吸微缓等为主症。发病原因，或因呕吐泄泻后引起，或因急惊风转变而成。

痢 疾

方用：当归、白芍各一钱，黄连二分，枳壳、槟榔各五分，甘草三分，水煎温服。红痢^①倍黄连，白痢^②加泽泻三分，腹痛倍甘草加白芍，小便赤加木通三分，下如豆汁^③加白术一钱，伤食加山楂、麦芽各三分，气虚加人参三分。

【注释】

① 红痢：又称“赤痢”或“血痢”。是痢疾证候类型之一。指湿热毒邪盛于血分，伤及肠络，下痢纯血。

② 白痢：湿热毒邪滞于气分，下痢白色，如鼻涕样的粘液，或如鱼脑者，叫“白痢”。也有因寒湿凝滞，脾阳受伤而下痢白色，质稀气味腥的，这是属于寒痢。

③ 下如豆汁：指泻下粪便呈豆汁色，即红褐色。

泄 瀉

身热如火，口渴舌燥，喜冷饮而不喜热汤。

方用泻火止泻汤：车前子二钱，茯苓、白芍、麦芽各一钱，黄连、猪苓各三分，泽泻五分，枳壳二分，水煎服。

寒 瀉

此证必腹痛而喜手按摩，口不渴而舌滑，喜热饮而不喜冷水也。

方用散寒止泻汤：人参、白术各一钱，茯苓二钱，肉桂、干姜各二分，甘草一分，砂仁一粒，神曲五分，水煎服。

吐

此证虽胃气之弱，亦脾气之虚。小儿恣意饱食，不能消化，久之上冲于胃口而吐也。

方用止吐速效汤：人参、白术各一钱，砂仁一粒，茯苓二钱，陈皮二分，麦芽五分，半夏、干姜各一分，山楂三个，水煎服。

咳 嗽

方用：苏叶五分，桔梗、甘草各一钱，水煎热服。有痰加白芥子五分便是。

疳 证^①

此脾热而因乎心热也，遂至口中流涎^②。若不平其心火，则脾火更旺，湿热上蒸而口涎不能止。

方用：芦荟、桑白皮各一钱，黄连、薄荷、半夏各三分，

茯苓二钱，甘草一分，水煎服。此心脾两清之圣药也，引火下行而疳自去矣。

【注释】

① 疳证：又称“疳积”，是儿科病证，以面黄肌瘦、肚腹膨胀，营养障碍、伴慢性消化不良为特征。

② 流涎：唾液流出不止。涎，唾液。

口疳^①流水口烂神方

黄柏二钱，人参一钱，共为细末，敷口内，一日三次即愈。此方用黄柏去火，人参健脾，大人用之亦效。

【注释】

① 口疳：指小儿疳积泄泻，未愈或初愈，口腔发生溃疡，是由于湿热蒸灼津液所致。

疳证泻痢眼障^①神方

石决明一两（醋煨），芦荟、川芎、白蒺藜、胡黄连、五灵脂、细辛、谷精草各五钱，甘草三钱，菊花四钱，猪肝去筋，捣烂为丸如桐子^②大，每服二十五丸，不拘时，米汤送下。

【注释】

① 眼障：指眼球生翳的病证。

② 桐子：光绪本作“米”。

疰 疾

方用：柴胡六分，白术、茯苓、归身各一钱，白芍一钱五分，半夏、青皮、厚朴各五分，水煎成，露一宿^①，再温与服。热多者，加人参、黄芪各五分；寒多者，加干姜三分；痰多者，加白芥子一钱；夜热加何首乌、熟地各二钱，日发热不

用加；腹痛加檳榔三分。

【注释】

① 露一宿：放到露天处一个晚上。

便 虫

方用：榧子五个（去壳），甘草三分，米饭为丸。服二次，则虫化为水矣。

积 虫

方用：使^①君子（去壳、炒）、榧子各十个（去壳），檳榔、甘草各一钱，米饭为丸，如桐子大。每服十丸，二日虫出，五日痊愈。

【注释】

① 使：光绪本作“史”。

痘证回毒^①或疗肿^②方

银花五钱，人参二钱，甘草、元参各一钱，水煎服。

【注释】

① 痘证回毒：指痘疮（天花）出齐后开始收靥之际，尚有未清除的余毒。

② 疗肿：病名。多因饮食不节，外感风邪火毒而发。发病较急，初起如粟，坚硬根深，继则发红发肿，疼痛剧烈，待脓溃疗根出，则肿消痛止而痊愈。

痘疹坏证^①已黑

痘疮^②坏证已黑者，人将弃之^③，药下喉即活。

方用：人参三钱，陈皮、荆芥各一钱，蝉退五分，元参、当归各二钱，水煎服。

此乃元气虚而火不能发也，故用人参以补元气；元参去浮游之火；陈皮去痰开胃，则参无碍而相得益彰；用荆芥以发之，又能引火以归经；当归生新去旧，消瘀血；蝉退解毒除风。世人何知此妙法。初起时不可服，必坏证乃可服。

【注释】

- ① 坏症：指天花出现险恶的症状。
- ② 痘疮：古病名。以皮疹形态而命名，即现在所称的天花病。
- ③ 弃之：放弃，丢弃。这里指失去救治信心。

急慢风

急、慢惊风，三、六、九日^①一切风俱治。

陈胆星、雄黄、朱砂、人参、茯苓、天竺黄、钩藤、牛黄、麝香、川郁金、柴胡、青皮、甘草，为细末，煎膏为丸如豌豆大，真金^②一张为衣，阴干勿泄气，薄荷汤磨服。

【注释】

① 三、六、九日：意思是说在三、六、九日内，即短时间内，指在病的初期。

② 真金：即金箔，味辛性平，具有镇惊、安魂魄的功效。可用于治疗癫痫、小儿惊风及骨蒸劳热、肺损吐血等症。

治火丹神方

丝瓜子、元参各一两，柴胡、升麻各一钱，当归五钱，水煎服。

又方：升麻、青蒿、黄芪各三钱，元参一两，干葛三两，水煎服。此二方详火证，小儿用之亦效，故又出之。

此方妙在用青蒿，肝胃之火俱平，又佐以群药重剂，而火安有不减者乎？

傅山以行书题联，造语、用典别具风格，

写景寓意不同一般。

園忘城藿隨點復
予來切赴謝玄虛

傅山

園 (pǔ) 藿 (rǔ)：園：

繁茂。如：園草（茂盛之草）藿：草木果实累累貌，或作草木丛生貌。

萝（形声。从艸，罗声。本义：植物名。指某些蔓生植物，即“莠”）又如：女萝；藤萝；莠萝；萝藦（女萝和瓜类）。

玄虚：玄，有人解为玄武，北方之神；为斗、牛、女、虚、危、室、壁，七宿之总称，并奉为大帝；引《楚辞·九怀·思忠》“玄武步兮水母”句，释为水神，此指晋水水神。若作此解，虚 (xū) 或可作为：墟的古字；作住所、处所解：《汉书》“郑国，今河南之新郑，本高辛氏火正祝融之虚也。”“事业功赴”句：事至佚而功。——《荀子·王霸》。

傳書主女科

女科上卷

带下

白带下

夫带下俱是湿症。而以“带”名者，因带脉不能约束而有此病，故以名之。盖带脉通于任、督，任、督病而带脉始病。带脉者，所以约束胞胎之系也。带脉无力，则难以提系，必然胎胞不固，故曰带弱则胎易坠，带伤则胎不牢。然而带脉之伤，非独跌闪挫气已也，或行房而放纵，或饮酒而颠狂，虽无疼痛之苦，而有暗耗之害，则气不能化经水，而反变为带病矣。故病带者，惟尼僧、寡妇、出嫁之女多有之，而在室女则少也。况加以脾气之虚，肝气之郁，湿气之侵，热气之逼，安得不成带下之病哉！故妇人有终年累月下流白物，如涕如唾，不能禁止，甚则臭秽者，所谓白带也。夫白带乃湿盛而火衰，肝郁而气弱，则脾土受伤，湿土之气下陷，是以脾精不守，不能化荣血以为经水，反变成白滑之物，由阴门直下，欲自禁而不可得也。治法宜大补肝胃之气，稍佐以舒肝之品，使风木不闭塞于地中，则地气自升腾于天上，脾气健而湿气消，自无白带之患矣。方用完带汤。

白术一两，土炒 山药一两，炒 人参二钱 白芍五钱，酒炒 车前子三钱，酒炒 苍术三钱，制 甘草一钱 陈皮五分 黑芥穗五分 柴胡六分

水煎服。二剂轻，四剂止，六剂则白带全愈。此方脾、胃、肝三经同治之法，寓补于散之中，寄消于升之内，开提肝木之气，则肝血不燥，何至下克脾土；补益脾土之元，则脾气不湿，何难分消水气。至于补脾而兼以补胃者，由里以及表也。脾非胃气之强，则脾之弱不能旺，是补胃正所以补脾耳^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“妇科一门最属难治，不难于用方，难于辨症也。五带症辨之极明，用方极善。倘用之不效者，必其人经水不调，须于调经种子二门参酌治之，无不见效。即如白带症，倘服药不效，其人必经水过期，少腹急迫，宜服宽带汤，余宜类参。”

青带下

妇人有带下面色青者，甚则绿如绿豆汁，稠粘不断，其气腥臭，所谓青带也。夫青带乃肝经之湿热。肝属木，木色属青，带下流如绿豆汁，明明是肝木之病矣。但肝木最喜水润，湿亦水之积，似湿非肝木之所恶，何以竟成青带之症？不知水为肝木之所喜，而湿实肝木之所恶，以湿为土之气故也。以所恶者合之所喜必有违者矣。肝之性既违，则肝之气必逆。气欲上升，而湿欲下降，两相牵掣，以停住于中焦^①之间，而走于带脉，遂从阴器而出。其色青绿者，正以其乘肝木之气化也。逆轻者，热必轻而色青；逆重者，热必重而色绿。似乎治青易而治绿难，然而均无所难也。解肝木之木，利膀胱之水，则青绿之带病均去矣。方用加减逍遥散。

茯苓五钱 白芍酒炒，五钱 甘草生用，五钱 柴胡一钱 茵陈三钱 陈皮一钱 梔子三钱，炒

水煎服。二剂而色淡，四剂而青绿之带绝，不必过剂矣。

夫逍遥散之立法也，乃解肝郁之药耳，何以治青带若斯其神与？盖湿热留于肝经，因肝气之郁也，郁则必逆，逍遥散最能解肝之郁与逆。郁逆之气既解，则湿热难留，而又益之以茵陈之利湿，栀子之清热，肝气得清，而青绿之带又何自来！此方之所以奇而效捷也。倘仅以利湿清热治青带，而置肝气于不同，安有止带之日哉！”^②

【注释】

① 中焦：中医名词，“三焦”之一，指胃的内腔。

② 前人对这一篇加有批语：“脾土喜燥而恶湿，土病湿则木必乘之。木又为湿土之气所侮，故肝亦病。逍遥散减去当归，妙极！”

黄带下

妇人有带下而色黄者，宛如黄茶浓汁，其气腥秽，所谓黄带是也。夫黄带乃任脉之湿热也。任脉本不能容水，湿气安得而入而化为黄带乎？不知带脉横生，通于任脉，任脉直上走于唇齿，唇齿之间，原有不断之泉下贯于任脉以化精，使任脉无热气之绕，则口中之津液尽化为精，以入于肾矣。惟有热邪存于下焦^①之间，则津液不能化精，而反化湿也。夫湿者，土之气，实水之侵；热者，火之气，实木之生。水色本黑，火色本红，今湿与热合，欲化红而不能，欲返黑而不得，煎熬成汁，因变为黄色矣。此乃不从水火之化，而从湿化也。所以世之人有以黄带为脾之湿热，单去治脾而不得痊者，是不知真水、真火^②合成丹邪、元邪^③，绕于任脉、胞胎之间，而化此黔^④色也。单治脾何能痊乎！法宜补任脉之虚，而清肾火之炎，则庶几矣。方用易黄汤。

山药一两，炒 芡实一两，炒 黄柏二钱，盐水炒 车前子一钱，酒炒 白果十枚，碎

水煎。连服四剂，无不全愈。此不特治黄带方也，凡有带病者，均可治之，而治带之黄者，功更奇也。盖山药、芡实专补任脉之虚，又能利水，加白果引入任脉之中，更为便捷，所以奏功之速也。至于用黄柏清肾中之火也，肾与任脉相通以相济，解肾中之火，即解任脉之热矣^⑤。

【注释】

① 下焦：中医名词，“三焦”之一，指脐以下部位，包括肾、膀胱、小肠、大肠。从病理生理的角度，还包括部位较高的肝，故下焦往往肝、肾并提。

② 真水：指肾阴。真火：指肾阳。

③ 前人对此有一段批注：“丹邪、元邪四字未晰。拟易以‘真水、真火为湿热之气所侵，绕于行脉’云云，较无语病，然原书究不可轻改，姑仍之。”

④ 黔：音 jīn，黄色。

⑤ 前人对这一篇加有三段批语：

“凡带症多系脾湿。初病无热但补脾土兼理冲任之气其病自愈，若湿久生热必得清肾火而湿始有去路。”

“山药、芡实尤能清热生津。”

“方用黄柏、车前子妙。”

黑带下

妇人有带下而色黑者，甚则如黑豆汁，其气亦腥，所谓黑带也。夫黑带者，乃火热之极也。或疑火色本红，何以成黑？谓为下寒之极或有之。殊不知火极似水，乃假象也。其症必腹中疼痛，小便时如刀刺，阴门必发肿，面色必发红，日久必黄瘦，饮食必兼人，口中必热渴，饮以凉水，少觉宽快，此胃火太旺，与命门^①、膀胱、三焦^②之火合而熬煎，所以熬干而变为炭色，断是火热之极之变，面非少有寒气也。此等之症，不

至发狂者，全赖肾水与肺金无病，其生生不息之气，润心济胃以救之耳，所以但成黑带之症，是火结于下而不炎于上也。治法惟以泄火为主，火热退而湿自除矣。方用利火汤。

大黄三钱 白术五钱，土炒 茯苓三钱 车前子三钱，酒炒 王不留行三钱 黄连三钱 梔子三钱，炒 知母二钱 石膏五钱，煨 刘寄奴三钱

水煎服。一剂小便疼止而通利，二剂黑带变为白，三剂白亦少减，再三剂全愈矣。或谓此方过于迅利，殊不知火盛之时，用不得依违之法，譬如救火之焚，而少为迁缓，则火势延燃，不尽不止。今用黄连、石膏、梔子、知母一派寒凉之品，入于大黄之中，则迅速扫除。而又得王不留行与刘寄奴之利湿甚急，则湿与热俱无停住之机。佐白术以辅土，茯苓以渗湿，车前以利水，则火退水进，便成既济之卦^③矣。^④

【注释】

① 命门：有生命之门的含义，有生命的关键之意。它是人体生命的根本和维持生命的要素。有指两肾为命门。

② 三焦：分上焦、中焦和下焦。上焦一般指胸膈以上部位，包括心、肺在内；中焦指膈下、脐部的上部位，包括脾、胃等脏腑；下焦指脐以下部位，包括肾、膀胱、小肠、大肠，从生理角度上讲，还包括肝，故下焦往往肝肾并提。

③ 既济之卦：《周易》六十四卦之一，离下坎上。《周易·既济》：象曰“水在火上，既济，君子以思患而预防之”。即创造条件争取事情成功的意思。

④ 前人对这一篇加有批语：“病愈后当节饮食，戒辛热之物，调养脾土。若恃有此方，病发即服，必伤元气矣，慎之！”

赤带下

妇人有带下而色红者，似血非血，淋漓不断，所谓赤带

也。夫赤帶亦濕病，濕是土之氣，宜見黃白之色，今不見黃白而赤者，火熱故也。火色赤，故帶下亦赤耳。惟是帶脉^①系于腰脐之間，近乎至陰^②之地，有宜有火。而今見火症，豈其路通于命門，而命門之火出而燒之邪？不知帶脉通于腎，而腎氣通于肝。婦人忧思傷脾，又加郁怒傷肝，于是肝經之郁火內熾，下克脾土，脾土不能運化，致濕熱之氣蘊于帶脉之間；而肝不藏血，亦滲于帶脉之內，皆由脾氣^③受傷，運化無力，濕熱之氣，隨氣下陷，同血俱下，所以似血非血之形象，現于其色也。其實血與濕不能兩分，世人以赤帶屬之心火誤矣。治法須清肝火而扶脾氣，則庶几可愈。方用清肝止淋湯。

白芍一兩，醋炒 當歸一兩，酒洗 生地五錢，酒炒 阿膠三錢，白面炒 粉丹皮三錢 黃柏二錢 牛膝二錢 香附一錢，酒炒 紅棗十個 小黑豆一兩

水煎服。一劑少止，二劑又少止，四劑全愈，十劑不再發。此方但主補肝之血，全不利脾之濕者，以赤帶之為病，火重而濕輕也。夫火之所以旺者，由于血之衰，補血即足以制火。且火與血合而成赤帶之症，竟不能辨其是濕非濕，則濕亦盡化而為血矣，所以治血則濕亦除，又何必利濕之多事哉！此方之妙，妙在純于治血，少加清火之味，故奏功獨奇。倘一利其濕，反引火下行，轉難遽效矣。或問曰：“先生前言助其脾土之氣，今但補其肝木之血何也？”不知用芍藥以平肝，則肝氣得舒，肝氣舒自不克土，脾不受克，則脾土自旺，是平肝正所以扶脾耳，又何必加人參、白朮之品，以致累事！^④

【注釋】

① 帶脉：奇經八脉之一。起于季肋部，橫行環繞腰部一周。

② 至陰：有不同解釋，多以太陰為至陰，太陰屬脾，故至陰常作脾的代詞；也有稱“腎者為至陰”。

③ 脾气：主要指脾的运化功能。

④ 前人对这一篇加有两段批语：

“不用参、术、苓极妙。此症若误认为血漏，恐其久则成崩。用参、术、苓等药治之，多不见效，赤带反甚。若年逾四九，癸水将止，或频频见血，此崩症也，宜分别治之。”

“五带症古方极多，然有应有不应者，总属未得病原。此书揭透病原，故用无不效。”

血 崩

血崩昏暗

妇人有一时血崩，两目黑暗，昏晕在地，不省人事者，人莫不谓火盛动血也。然此火非实火，乃虚火耳。世人一见血崩，往往用止涩之品，虽亦能取效于一时，但不用补阴之药，则虚火易于冲击，恐随止随发，以致经年累月不能全愈者有之。是止崩之药，不可独用，必须用补阴之中行止崩之法。方用固本止崩汤。

大熟地一两，九蒸 白术一两，土炒焦 黄芪三钱，生用 当归五钱，酒洗 黑姜二钱 人参三钱

水煎服。一剂崩止，十剂不再发，倘畏药味之重而减半，则力薄而不能止。方妙在全不去止血而惟补血，又不止补血而更补气，非惟补气而更补火。盖血崩而至于黑暗昏晕，则血已尽去，仅存一线之气，以为护持，若不急补其气以生血，而先补其血而遗气，则有形之血，恐不能遽生，而无形之气，必且至尽散，此所以不先补血而先补气也。然单补气则血又不易生；单补血而不补火，则血又必凝滞，而不能随气而速生。况黑姜引血归经，是补中又有收敛之妙，所以同补气补血之药并

用之耳^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“若血崩数日，血下数斗，六脉俱无，鼻中微微有息，不可遽服此方，恐气将脱不能受峻补也。有力者用辽人参去芦三钱煎成，冲贯众炭末一钱服之，待气息微旺然后服此方，仍加贯众炭末一钱，无不见效；无力者用无灰黄酒冲贯众炭末三钱服之，待其气接神清始可服此方。人参以党参代之，临服亦加贯众炭末一钱冲入。”这是指出：如果血崩时间长，出血量多，出现了气虚欲脱的症状，治疗的方法应是补气固脱，先急服人参、贯众炭末，以回阳救逆。这是急则治标的果断措施。

年老血崩

妇人年老血崩者，其症亦与前血崩昏暗者同，人以为老妇之虚耳，谁知是不慎房帙之故乎！方用加减当归补血汤。

当归一两，酒洗 黄芪一两，生用 三七根末三钱 桑叶十四片

水煎服。二剂而血少止，四剂不再发。然必须断欲始除根，若再犯色欲，未有不重病者也。夫补血汤乃气血两补之神剂，三七根乃止血之圣药，加入桑叶者，所以滋肾之阴，又有收敛之妙耳。但老妇阴精既亏，用此方以止其暂时之漏，实有奇功，而不可责其永远之绩者，以补精之味尚少也。服此四剂后，再增入：

白术五钱 熟地一两 山药四钱 麦冬三钱 北五味一钱

服百剂，则崩漏之根可尽除矣。^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“亦有孀妇年老血崩者，必系气冲血室，原方加杭芍炭三钱，贯众炭三钱极效。”

少妇血崩

有少妇甫娠三月，即便血崩，而胎亦随堕，人以为挫闪受

伤而致，谁知是行房不慎之过哉！治法自当以补气为主，而少佐以补血之品，斯为得之。方用固气汤。

人参一两 白术五钱，土炒 大熟地五钱，九蒸 当归三钱，酒洗
白茯苓二钱 甘草一钱 杜仲三钱，炒黑 山萸肉二钱，蒸 远志一钱，去心 五味子十粒，炒

水煎服。一剂而血止，连服十剂全愈。此方固气而兼补血。已去之血，可以速生，将脱之血，可以尽摄。凡气虚而崩漏者，此方最可通治，非仅治小产之崩。其最妙者，不去止血，而止血之味，含于补气之中也^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“妊娠宜避房事，不避者纵幸不至崩往往堕胎，即不堕胎生子也难养，慎之！戒之！”指出妇女妊娠期要避免房事的重要性。

交感出血

妇人有一交合则流血不止者，虽不至于血崩之甚，而终年累月不得愈，未免血气两伤，久则恐有血枯经闭之忧。此等之病，成于经水正来之时交合，精冲血管也。夫精冲血管，不过一时之伤，精出宜愈，何以久而流红？不知血管最娇嫩，断不可以精伤。凡妇人受孕，必于血管已净之时，方保无虞。倘经水正旺，彼欲涌出而精射之，则欲出之血反退而缩入，既不能受精而成胎，势必至集精而化血。交感之际，淫气^①触动其旧日之精，则两相感召，旧精欲出，而血亦随之而出。治法须通其胞胎之气，引旧日之集精外出，而益之以补气补精之药，则血管之伤，可以补完矣。方用引精止血汤。

人参五钱 白术一两，土炒 茯苓三钱，去皮 熟地一两，九蒸
山萸肉五钱，蒸 黑姜一钱 黄柏五分 芥穗三钱 车前子三钱，酒炒

水煎。连服四剂愈，十剂不再发。此方用参术以补气，用地莫以补精，精气既旺，则血管流通；加入茯苓、车前以利水与窍，水利则血管亦利；又加黄柏为引，直入血管之中，而引夙精出于血管之外；芥穗引败血^②出于血管之内；黑姜以止血管之口。一方之中，实有调停曲折之妙，故能祛旧病而除陈痼。然必须慎房帏三月，破者始不至重伤，而补者始不至重损，否则不过取目前之效耳。其慎之哉！宜寡欲。

【注释】

① 淫气：淫，指过度、失去节制。淫气，指人体阳气或阴气过亢。

② 败血：瘀血的一种，指溢于经脉外，积存于组织间隙的坏死血液。

郁结血崩

妇人有怀抱甚郁，口干舌渴，呕吐吞酸，而血下崩者，人皆以火治之，时而效，时而不效，其故何也？是不识为肝气之郁结也。夫肝主藏血，气结而血亦结，何以反至崩漏？盖肝之性急，气结则其急更甚，更急则血不能藏，故崩不免也。治法宜以开郁为主，若徒开其郁，而不知平肝，则肝气大开，肝火更炽，而血亦不能止矣。方用平肝开郁止血汤。

白芍一两，醋炒 白术一两，土炒 当归一两，酒洗 丹皮三钱 三七根三钱，研末 生地三钱，酒炒 甘草二钱 黑芥穗二钱 柴胡一钱

水煎服。一剂呕吐止，二剂干渴除，四剂血崩愈。方中妙在白芍之平肝，柴胡之开郁，白术利腰脐，则血无积住之虞。荆芥通经络，则血有归还之乐；丹皮之清骨髓之热；生地复清脏腑之炎；当归、三七于补血之中，以行止血之法，自然郁结散而血崩止矣^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“此方入贯仲炭三钱更妙。”

闪跌血崩

妇人有升高坠落，或闪挫受伤，以致恶血^①下流，有如血崩之状者，若以崩治，非徒无益而又害之也。盖此症之状，必手按之而疼痛，久之则面色痿黄，形容枯槁，乃是瘀血作祟，并非血崩可比。倘不知解瘀而用补涩，则瘀血内攻，疼无止时，反致新血不得生，旧血无由化，死不能悟，岂不可伤哉！治法须行血以去瘀，活血以止疼，则血自止而愈矣。方用逐瘀止血汤。

生地一两，酒炒 大黄三钱 赤芍三钱 丹皮一钱 当归尾五钱
枳壳五钱，炒 龟版三钱，醋炙 桃仁十粒，泡炒，研

水煎服。一剂疼轻，二剂疼止，三剂血亦全止，不必再服矣。此方之妙，妙于活血之中，佐以下滞之品，故逐瘀如扫，而止血如神。或疑跌闪升坠，是由外而伤内，虽不比内伤之重，而既已血崩，则内之所伤，亦不为轻，何以只治其瘀而不顾气也？殊不知跌闪升坠，非由内伤以及外伤者可比。盖本实不拨，去其标病可耳，故曰急则治其标。^②

【注释】

① 恶血：即败血。

② 前人对这一篇加有批语：“凡跌打损伤致唾血、呕血皆宜如此治法。若血聚胃中，宜加川厚朴一钱半，姜汁炒。”

血海太热血崩

妇人有每行人道，经水即来，一如血崩，人以为胞胎有伤，触之以动其血也，谁知是子宫血海^①因太热而不固乎！夫子宫即在胞胎之下，而血海又在胞胎之上。血海者，冲脉^②也。冲脉太寒而血即亏，冲脉太热而血即沸。血崩之为病，正

冲脉之太热也。然既由冲脉之热，则应常崩而无有止时，何以行人道而始来，果与肝木无恙耶？夫脾健则能摄血，肝平则能藏血。人未入房之时，君相二火^①，寂然不动，虽冲脉独热，而血亦不至外驰。及有人道之感，则子宫大开，君相火动，以热招热，同气相求，翕然齐动，以鼓其精房、血海泛滥，有不能止遏之势，肝欲藏之而不能，脾欲摄之而不得，故经水随交感而至，若有声应之捷，则惟火之为病也。治法必须滋阴降火，以清血海而和子宫，则终身之病，可半载而除矣。然必绝欲三月而后可。方用**清海丸**。

大熟地一斤，九蒸 山萸十两，蒸 山药十两，炒 丹皮十两 北五味二两，炒 麦冬肉十两 白术一斤，土炒 白芍一斤，酒炒 龙骨二两 地骨皮十两 干桑叶一斤 元参一斤 沙参十两 石斛十两

上十四味，各为细末，合一处，炼蜜丸桐子大，早晚每服五钱，白滚水送下，半载全愈。此方补阴而无浮动之虑，缩血而无寒凉之苦，日计不足，月计有余，潜移默夺，子宫清凉，而血海自固。倘不揣其本而齐其末，徒以发灰、白矾、黄连炭、五倍子等药末，以外治其幽隐之处，则恐愈涩而愈流，终必至于败亡也。可不慎与！^④

【注释】

① 血海：指冲脉，以其为十二经脉所汇聚的地方，故名。

② 冲脉：奇经八脉之一。起于小腹内（胞中），沿着脊椎骨内部上行；同时由阴部的两侧，夹脐两旁向上，到胸部而止。

③ 君、相二火：即君火和相火。君火，指心火。因心是所谓“君主之官”，故名。相火，与君火相对而言。二火相互配合，以温养脏腑，推动功能活动。一般认为命门、肝胆、三焦均内有相火，而相火的根源主要发自命门。

④ 前人对这一篇加有批语：“凡血崩症最宜禁欲避房，无奈少年人彼此贪欢，故服药往往不效。若三月后崩止病愈，而房事仍无节制，病必复作，久则成癆，慎之！”

鬼胎

妇人鬼胎

妇人有腹似怀妊，终年不产，甚至二三年不生者，此鬼胎也。其人必面色黄瘦，肌肤消削，腹大如斗。厥所由来^②，必素与鬼交^③，或入神庙而兴云雨之思，或游山林而起交感之念^④，皆能召祟^⑤成胎。幸其人不至淫荡，见祟而有惊慌，遇合而生愧恶，则鬼祟不能久恋，一交媾即远去，然淫沃之气，已结于腹，遂成鬼胎。其先尚未觉，迨后^⑥渐渐腹大，经水不行，内外相危^⑦，一如怀胎之状，有似血臃^⑧之形，其实是鬼胎，而非臃也。治法必须以逐秽^⑨为主。然人至怀胎数年不产，即非鬼胎，亦必气血衰微。况此非真妊，则邪气必旺，正不敌邪，其虚弱之状，必有可掬^⑩，乌可^⑪纯用迅利之药，以祛荡乎！必于补中逐之为的^⑫也。方用荡鬼汤。

人参一两 当归一两 大黄一两 枳壳一钱 厚朴一钱 雷丸三钱 川牛膝三钱 红花三钱 丹皮三钱 小桃仁三十粒

水煎服。一剂腹必大鸣，可泻恶物半桶，再服一剂又泻恶物而愈矣。断不可复用三剂也。盖虽补中用逐，未免迅利，多用恐伤损元气。此方用雷丸以祛秽，又得大黄之扫除，且佐以厚朴、红花、桃仁等味，皆善行善攻之品^⑬，何邪之尚能留腹中而不尽逐下也哉^⑭？尤妙在用参、归以补气血，则邪去而正不伤。若单用雷丸、大黄以迅下之，必有气脱^⑮血崩之患矣。倘或知是鬼胎，如室女、寡妇辈，邪气虽盛，而真气未漓^⑯，可用岐天师^⑰所传红花霹雳散^⑱：红花半斤，大黄五两，雷丸三两，水煎服，亦能下胎。然未免太于迅利，过伤气血，不若

荡鬼汤之有益无损为愈也，在人临证时，斟酌而善用之耳。

【注释】

① 鬼胎：如《胎产心法》中曰：“若荣卫虚损，精神衰弱，邪思蓄注，冲任滞逆，脉道壅瘀不行，状如怀孕，故曰鬼胎。然细究其理，鬼胎者伪胎也。如人邪淫之念一起，则肝肾相火自动，有梦与鬼交者，非实有鬼神交接成胎也，即经所谓思想无穷，所愿不遂，白淫白浊流入子宫，结为鬼胎，乃本妇自己血液淫精，聚结成块，血随气结而不散，以致胸腹胀满，俨若怀孕耳，非伪胎而何？”上述对鬼胎的病因、病理、症状等分析的很详细，从现代医学角度考虑，“鬼胎”类似卵巢囊肿、子宫瘤、葡萄胎等。

② 厥所由来：其症是怎么发生的呢？

③ 素与鬼交：迷信说法平素与鬼发生性关系。

④ 入神庙而兴云雨之思，或游山林而起交感之念：指人进入神庙或深山老林中，心中发生淫邪之念。

⑤ 召祟：祟指鬼神，即招惹鬼神之意，亦为迷信说法。

⑥ 迨后：等到以后。

⑦ 内外相危：内部与外部都会受到损害。

⑧ 血臌：中医病名。此症由于瘀血留滞而成，且腹部胀大，状如怀子，傅氏以此与鬼胎辨之。

⑨ 逐秽：秽即污秽，此指瘀血秽物。

⑩ 必有可掬：指患者虚弱的体态，可以用双手捧起来。

⑪ 乌可：怎么可以呢？

⑫ 必于补中逐之为的也：必须在补益药物中再加入逐瘀之品才比较妥当。

⑬ 皆善行善攻之品：都是良好的长于行滞和长于攻下的药品。

⑭ 而不尽逐下也哉：而不完全是使用攻逐的治疗方法。

⑮ 气脱：真气耗散。

⑯ 真气未漓：真气未曾离散。

⑰ 岐天师：指岐伯，相传为古代大名医。

⑱ 霹雳散：是迅速而猛烈的攻逐之剂，因为过于伤气血，不要轻易用于临床。

室女鬼胎

女子有在家未嫁，月经忽断，腹大如妊，面色乍赤乍白，六脉乍大自小，人以为血结经闭也，谁知是灵鬼凭身^①乎！夫人之身正^②则诸邪不敢侵，其身不正，则诸邪自来犯。或精神恍惚而梦里求亲^③，或眼目昏花而对面相狎^④，或假托亲属而暗处贪欢，或明言仙人而静地取乐。其始则惊诧为奇遇而不肯告人，其后则羞赧^⑤为淫褻^⑥而不敢告人。日久年深，腹大如斗，有如怀妊之状。一身之精血仅足以供腹中之邪，则邪日旺而正日衰，势必至经闭而血枯。后虽欲导其经而邪据其腹，则经亦难通；欲生其血而邪食其精，则血实难长。医以为胎，而实非真胎；又以为瘕，而亦非瘕病。往往因循等待，非因羞愤而亡其生，即成劳瘵而终不起，至死不悟，不重可悲哉！治法似宜补正以祛邪，然邪不先祛，补正亦无益也，必须先祛邪而后扶正，斯为得之^⑦。方用荡邪散。

雷丸六钱 桃仁六十粒 当归一两 丹皮一两 甘草四钱 水煎服。一剂必下恶物半桶。

再服调正汤治之：

白术五钱 苍术五钱 茯苓三钱 陈皮一钱 薏米五钱 贝母一钱

水煎。连服四剂，则脾胃之气转^⑧，而经水渐行矣。前方荡邪，后方补正，实有次第^⑨。或疑身怀鬼胎，必大伤其血，所以经闭，今既坠其鬼胎矣，自当大补其血，乃不补血，而反补胃气何故？盖鬼胎中人，其正气大虚可知，气虚则血必不能骤生，欲补血必先补气，是补气而血自然生也，用二术以补胃阳，阳气旺则阴气难犯^⑩，尤善后之妙法也。倘重用补阴之品，则以阴招阴^⑪，吾恐鬼胎虽下而鬼气未必不再侵，故必以补阳为上策，而血自随气而生也。

【注释】

- ① 灵鬼凭身：迷信传说指神灵鬼怪靠附在人身体内。
- ② 身正：人身的正气旺盛。此指身体健康无病。
- ③ 精神恍惚而梦里求亲：精神异常而在梦中与鬼交合。
- ④ 眼目昏花而对面相狎：狎（音 xiá），眼目昏花形容似是而非的样子。比喻好像看见又好象没看见，与鬼之间过分亲热，但态度又不很庄重。
- ⑤ 羞赧：赧（音 nǎn），意思是因羞愧而脸红。
- ⑥ 淫褻：褻（音 xiè），指不正当的男女关系。
- ⑦ 斯为得之：这样才比较得当。
- ⑧ 胃之气转：胃气开始恢复。
- ⑨ 实有次第：确实要有前后次序。
- ⑩ 补胃阳，阳气旺则阴气难犯：“人以胃气为本”，若胃阳不足，则阴寒内盛，补其胃阳即可消散阴邪之气，此即“阴病治阳”之法。
- ⑪ 以阴招阴：指如果服用滋阴类药物，易与阴邪相搏而致使病情更加严重。

调 经

经水先期

妇人有先期经来者，其经甚多，人以多血热之极也，谁知是肾中水火太旺乎！夫火太旺则血热，水太旺则血多，此有余之病，非不足之症也，似宜不药有喜。但过于有余，则子宫太热，亦难受孕，更恐有烁干男精之虑，过者损之，谓非既济之道乎！然而火不可任其有余，而水断不可使之不足。治之法但少清其热，不必泄其水也，方用清经散。

丹皮三钱 地骨皮五钱 白芍三钱，酒炒 大熟地三钱，九蒸 青蒿二钱 白茯苓一钱 黄柏五分，盐水浸炒

水煎服。二剂而火自平。此方虽有清火之品，然仍是滋水

之味，火泄而水不与俱泄，损而益也。

又有先期经来只一、二点者，人以为血热之极也，谁知肾中火旺而阴水亏乎！夫同是先期之来，何以分虚实之异？盖妇人之经最难调，苟不分别细微，用药鲜克有效。先期者火气之冲，多寡者水气之验。故先期而来多者，火热而水有余也；先期而来少者，火热而水不足也。倘一见先期之来，俱以为有余之热，但泄火而不补水，或水火两泄之，有不更增其病者乎！治之法不必泄火，只专补水，水既足而火自消矣，亦既济之道也。方用两地汤。

大生地一两，酒炒 元参一两 白芍药五钱，酒炒 麦冬肉五钱
地骨皮三钱 阿胶三钱

水煎服。四剂而经调矣。此方之用地骨、生地，能清骨中之热。骨中之热，由于肾经之热，清其骨髓，则肾气自清，而又不损伤胃气，此治之巧也。况所用诸药，又纯是补水之味，水盛而火自平理也。此条与上条参观，断无误治先期之病矣^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“妇科调经尤难。盖经调则无病，不调，则百病丛生。治法宜详察其病原，细审其所以不调之故，然后用药，始能见效。此书虽有先期、后期、先后无定期之分，然需与种子、带下参看，临症时自有进见。”

经水后期

妇人有经水后期而来多者，人以为血虚之病也，谁知非血虚乎！盖后期之多少，实有不同，不可执一而论。盖后期而来少，血寒而不足；后期而来多，血寒而有余。夫经本于肾，而其流五脏六腑之血皆归之，故经来而诸经之血尽来附益，以经

水行而门启不遑迅阖，诸经之血乘其隙而皆出也，但血既出矣，则成不足。治法宜于补中温散之，不得曰后期者俱不足也。方用温经摄血汤。

大熟地一两，九蒸 白芍一两，酒炒 川芎五钱，酒洗 白术五钱，土炒 柴胡五分 五味子三分 续断一钱 肉桂五分，去粗，研

水煎服。三剂而经调矣。此方大补肝、肾、脾之精与血，加肉桂以祛其寒，柴胡以解其郁，是补中有散，而散不耗气；补中有泄，而泄不损阴，所以补之有益，而温之收功，此调经之妙药也，而摄血之仙丹也。凡经来后期者，俱可用。倘元气不足，加人参一、二钱亦可。

经水先后无定期

妇人有经来断续，或前或后无定期，人以为气血之虚也，谁知是肝气之郁结乎！夫经水出诸肾，而肝为肾之子，肝郁则肾亦郁矣；肾郁而气必不宣，前后之或断或续，正肾之或通或闭耳。或曰肝气郁而肾气不应，未必至于如此。殊不知子母关切，子病而母必有顾复之情，肝郁而肾不无缱绻之谊，肝气之或开或闭，即肾气之或去或留，相因而致，又何疑焉。治法宜舒肝之郁，即开肾之郁也，肝肾之郁既开，而经水自有一定之期矣。方用定经汤。

菟丝子一两，酒炒 白芍一两，酒炒 当归一两，酒洗 大熟地五钱，九蒸 山药五钱，炒 白茯苓三钱 芥穗二钱，炒黑 柴胡五分

水煎服。二剂而经水净，四剂而经期定矣。此方舒肝肾之气，非通经之药也；补肝肾之精，非利水之品也。肝肾之气舒而精通，肝肾之精旺而水利，不治之治，正妙于治也。^①

【注释】

① 前人对以上三篇加有一段总的批语：“以上调经三条辩论明晰，立

方微妙，但恐临时或有外感、内伤不能见效；有外感者宜加苏叶一钱，有内伤者宜加神曲二钱（炒），有因肉食积滞者再加东山楂肉二钱（炒），临症须酌用之。若肝气郁抑又当以逍遥散为主，有热加梔炭、丹皮即加味逍遥散。”指出调经时应根据临床表现酌情加减用药。如有外感加苏叶，有内伤加神曲，有伤肉食加山楂等。

经水数月一行

妇人有数月一行经者，每以为常，亦无或先或后之异，亦无或多或少之殊，人莫不以为异，而不知非异也。盖无病之人，气血两不亏损耳。然嗜欲损天之人，亦复甚多，又不可不立一疗救之方以辅之，方名助仙丹。

白茯苓五钱 陈皮五钱 白术三钱，土炒 白芍三钱，酒炒 山药三钱，炒 菟丝子二钱，酒炒 杜仲一钱，炒黑 甘草一钱

河水煎服。四剂而仍如其旧，不可再服也。此方平补之中，实有妙理。健脾益肾而不滞，解郁清痰而不泄，不损天然之气血，便是调经之大法，何得以他药以冀通经哉^①！

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“曾见妇一年一行经，身健无恙，妊娠后，反月月俱行经，或至五月、至七月经止不等，育男皆成人，咸以为异，或亦仙骨之所致乎？抑造化令人不测耶？”

年老经水复行

妇人有年五十外或六、七十岁忽然行经者，或下紫血块，或如红血淋，人或谓老妇行经，是还少之象，谁知是血崩之渐乎！夫妇人至七七之外，天癸^①已竭，又不服济阴补阳之药，如何能精满化经，一如少妇。然经不宜行而行者，乃肝不藏脾不统之故也，非精过泄而动命门之火，即气郁甚而发龙雷之炎，二火交发，而血乃奔矣，有似行经而实非经也。此等之

症，非大补肝脾之气与血，而血安能骤止。方用安老汤。

人参一两 黄芪一两，生用 大熟地一两，九蒸 白术五钱，土炒
当归五钱，酒洗 山萸五钱，蒸 阿胶一钱，蛤粉炒 黑芥穗一钱 甘
草一钱 香附五分，酒炒 木耳炭一钱

水煎服。一剂减，二剂尤减，四剂全减，十剂愈。此方补益肝脾之气，气足自能生血而摄血。尤妙大补肾水，水足而肝气自舒，肝舒而脾自得养，肝藏之而脾统之，又安有泄漏者，又何虑其血崩哉！^②

【注释】

① 天癸：在中医妇科学中，有时把“天癸”作为月经的代称。

② 前人对这一篇加有批语：“加贯仲炭一钱，研细末，以药冲服尤妙。”

经水忽来忽断时疼时止

妇人有经水忽来忽断，时疼时止，寒热往来者，人以为血之凝也，谁知是肝气不舒乎！夫肝属木而藏血，最恶风寒。妇人当行经之际，腠理^①大开，适逢风之吹寒之袭，则肝气为之闭塞，而经水之道路亦随之而俱闭，由是腠理经络，各皆不宣，而寒热之作，由是而起。其气行于阳分则生热，其气行于阴分则生寒，然此犹感之轻者也。倘外感之风寒更甚，则内应之热气益深，往往有热入血室^②，而变为如狂之症。若但往来寒热^③，是风寒未甚而热未深耳。治法宜补肝中之血，通其郁而散其风，则病随手而效，所谓治风先治血，血和风自灭，此其一也。方用加味四物汤。

大熟地一两，九蒸 白芍五钱，酒炒 当归五钱，酒洗 川芎三钱，
酒洗 白术五钱，土炒 粉丹皮三钱 元胡一钱，酒炒 甘草一钱 柴
胡一钱

水煎服。此方用四物以滋脾胃之阴血；用柴胡、白芍、丹皮以宣肝经之风郁；用甘草、白术、元胡以利腰脐而和腹疼，入于表里之间，通乎经络之内，用之得宜，自奏功如响也^④。

【注释】

① 腠理：指人体皮肤、肌肉和脏腑的纹理，是气血流通灌注之处。腠理外连皮肤，为卫气散布和汗液等渗泄的通路。

② 热入血室：指妇女在经期感受外邪，邪热与血互相搏结所出现的病症。

③ 往来寒热：恶寒和发热交替出现，定时或不定时发作的情况。

④ 前人对这一篇加有批语：“加荆芥穗（炒黑）一钱尤妙。”

经水未来腹先痛

妇人有经前腹疼数日，而后经水行者，其经来多是紫黑块，人以为寒极而然也，谁知是热极而火不化乎！夫肝属木，其中有火，舒则通畅，郁则不扬，经欲行而肝不应，则抑拂其气而疼生。然经满则不能内藏，而肝中之郁火焚烧，内逼经出，则其火亦因之而怒泄。其紫黑者，水火两战之象也；其成块者，火煎成形之状也。经失其为经者，正郁火内夺其权耳。治法似宜大泄肝中之火，然泄肝之火，而不解肝之郁，则热之标可去，而热之本未除也，其何能益？！方用宣郁通经汤。

白芍五钱，酒炒 当归五钱，酒洗 丹皮五钱 山梔子三钱，炒
白芥子二钱，炒研 柴胡一钱 香附一钱，酒炒 川郁金一钱，醋炒
黄芩一钱，酒炒 生甘草一钱

水煎。连服四剂，下月断不先腹疼而后行经矣。此之补肝之血，而解肝之郁，利肝之气，而降肝之火，所以奏功之速。

行经后少腹疼痛

妇人有少腹疼于行经之后者，人以为气血之虚也，谁知是

肾气之涸乎！夫经水者，乃天一之真水^①也，满则溢而虚则闭，亦其常耳，何以虚能作疼哉？盖肾水一虚则水不能生木，而肝木必克脾土^②，木土相争，则气必逆，故尔作疼。治法必须以舒肝气为主，则益之以补肾之味，则水足而肝气益安，肝气安而逆气自顺，又何疼痛之有哉！方用调肝汤。

山药五钱，炒 阿胶三钱，白面炒 当归三钱，酒洗 白芍三钱，酒炒 山萸肉三钱，蒸熟 巴戟一钱，盐水浸 甘草一钱

水煎服。此方平调肝气，既能转逆气，又善止郁疼。经后之症，以此方调理最佳。不特治经后腹痛之症也。^③

【注释】

① 真水：指的是肾阴，是与肾阳相对而言。肾阴指本脏的阴液（包括肾脏所藏的精），是肾阳功能活动的基础。

② 肝木、脾土：古人根据五行学说，把肝归属于“木”，因为肝主疏泄条达；把脾归属于“土”，因脾主消化饮食，把饮食的精华运输到全身，故同土的生化万物的特性相联系。

③ 前人对上述两篇加有批语：“经前经后腹痛二方极妙，不可加减。若有别症亦宜此方为主，另加药味治之。原方不可减去一味。”

经前腹痛吐血

妇人有经未行之前一二日忽然腹痛而吐血，人以为火热之极也，谁知是肝气之逆乎！夫肝之性最急，宜顺而不宜逆，顺则气安，逆则气动；血随气为行止，气安则血安，气动则血动，亦勿怪其然也。或谓经逆在肾不在肝，何以随血妄行，竟至从口上出也，是肝不藏血之故乎？抑肾不纳气而然乎？殊不知少阴之火急如奔马，得肝火直冲而上，其势最捷，反经而为血，亦至便也，正不必肝不藏血，始成吐血之症。但此等吐血与各经之吐血有不同者。盖各经之吐血，由内伤而成；经逆而吐血，乃内溢而激之使然也；其症有绝异，而其气逆则一也。

治法似宜平肝以顺气，而不必益精以补肾矣。虽然，经逆而吐血，虽不大损失血，而反复颠倒，未免太伤肾气，必须于补肾之中，用顺气之法始为得当。方用顺经汤。

当归五钱，酒洗 大熟地五钱，九蒸 白芍二钱，酒炒 丹皮五钱
白茯苓三钱 沙参三钱 黑芥穗三钱

水煎服。一剂而吐血止，二剂而经顺，十剂不再发。此方于补肾调经之中，而用引血归经之品，是和血之法，实寓顺气之法也。肝不逆而肾气自顺，肾气既顺，又何经逆之有哉^①！

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“妇人年壮吐血往往有之，不可作劳症治。若认为劳症，必至肝气愈逆，非劳反成劳矣。方加茜草一钱，怀牛膝八分尤妙。”指出壮年妇女往往发生吐血，不能当作疲劳过度的症状来治疗。而这一处方若酌量加上茜草等二味药，效果更好。

经水将来脐下先疼痛

妇人有经水将来三五日前而脐下作疼，状如刀刺者；或寒热交作，所下如黑豆汁，人莫不以为血热之极，谁知是下焦寒湿相争之故乎！夫寒湿乃邪气也。妇人有冲任之脉^①，居于下焦；冲为血海，任主胞胎，为血室，均喜正气相通，最恶邪气相犯；经水由二经而外出，而寒湿满二经而内乱，两相争而作疼痛，邪愈盛而正气日衰。寒气生浊，而下如豆汁之黑者，见北方寒水之象也。治法利其湿而温其寒，使冲任无邪气之乱，脐下自无疼痛之疾矣。方用温脐化湿汤。

白术一两，土炒 白茯苓三钱 山药五钱，炒 巴戟肉五钱，盐水浸
扁豆三钱，炒、捣 白果十枚，捣碎 建莲子三十枚，不去心

水煎服。然必须经未来前十日服之。四剂而邪气去，经水调，兼可种子。此方君^②白术以利腰脐之气；用巴戟、白果以

通任脉；扁豆、山药、莲子以卫冲脉，所以寒湿扫除而经水自调，可受妊矣。倘疑腹痛为热疾，妄用寒凉，则冲任虚冷，血海变为冰海，血室反成冰室，无论难于生育，而疼痛之止，又安有日哉！^③

【注释】

① 任脉：奇经八脉之一。起于小腹内（胞中），沿着脊椎骨内部上行；同时又出于会阴部，上至前阴，沿着腹部正中线，通过脐部，上至胸部、颈部。是阴部经脉的总纲。

② 君：即君药，指这个处方中的主药。

③ 前人对这一篇加有批语：“冲、任之气宜通不宜降，故化湿不用苍术、薏仁。余宜类推。”

经水过多

妇人有经水过多，行后复行，面色痿黄，身体倦怠，而困乏愈甚者，人以为血热有余之故，谁知是血虚而不归经乎！夫血旺始经多，血虚当经缩。今曰血虚而反经多，是何言与？殊不知血归于经，虽旺而经亦不多；血不归经，虽衰而经亦不少，世之人见经水过多，谓是血之旺也，此治之所以多错耳。倘经多果是血旺，自是健壮之体，须当一行即止，精力如常，何至一行后而再行，而困乏无力耶！惟经多是血之虚，故再行而不胜其困乏，血损精散，骨中髓空，所以不能色华于面也。治法宜大补血而引之归经，又安有行后复行之病哉！方用**加减四物汤**。

大熟地 一两，九蒸 白芍三钱，酒炒 当归五钱，酒洗 川芎二钱，酒洗 白术五钱，土炒 黑芥穗三钱 山萸三钱，蒸 续断一钱 甘草一钱

水煎服。四剂而血归经矣。十剂之后，加人参三钱，再服十剂，下月行经，适可而止矣。夫四物汤乃补血之神品，加白

术、荆芥，补中有利；加山萸、续断，止中有行；加甘草以调和诸品，使之各得其宜，所以血足而归经，归经而血自静矣^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“荆芥穗炭能引血归经。方妙极不可轻易加减。”

经前泄水

妇人有经未来之前，泄水三日，而后行经者，人以为血旺之故，谁知是脾气之虚乎！夫脾统血，脾虚则不能摄血矣；且脾属湿土，脾虚则土不实，土不实而湿更甚，所以经水将动，而脾先不固；脾经所统之血，欲流注于血海，而湿气乘之，所以先泄水而后行经也。调经之法，不在先治其水，而在先治其血；抑不在先治其血，而在先补其气。盖气旺而血自能生，抑气旺而湿自能除，且气旺而经自能调矣。方用健固汤。

人参五钱 白茯苓三钱 白术一两，土炒 巴戟五钱，盐水浸 薏苡仁三钱，炒

水煎。连服十剂，经前不泄水矣。此方补脾气以固脾血，则血摄于气之中，脾气日盛，自能运化其湿，湿既化为乌有，自然经水调和，又何至经前泄水哉！^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“与胖人不孕参看，自得此方之妙。”

经前大便下血

妇人有行经之前一日大便先出血者，人以为血崩之症，谁知是经流于大肠乎！夫大肠与行经之路，各有分别，何以能入乎其中？不知胞胎之系，上通心而下通肾，心肾不交^①，则胞

胎之血，两无所归，而心肾二经之气，不来照摄，听其自便，所以血不走小肠而走大肠也。治法若单止大肠之血，则愈止而愈多；若击动三焦之气，则更拂乱而不可止。盖经水之妄行，原因心肾之不交；今不使水火之既济，而徒治其胞胎，则胞胎之气无所归，而血安有归经之日；故必大补其心与肾，使心肾之气交，而胞胎之气自不散，则大肠之血自不妄行，而经自顺矣。方用顺经两安汤。

当归五钱，酒洗 白芍五钱，酒炒 大熟地五钱，九蒸 山萸肉二钱，蒸 人参三钱 白术五钱，土炒 麦冬五钱，去心 黑芥穗二钱 巴戟肉一钱，盐水浸 升麻四分

水煎服。二剂大肠血止，而经从前阴出矣，三剂经止，而兼可受妊矣。此方乃大补心肝肾三经之药，全不去顾胞胎，而胞胎有所归者，以心肾之气交也。盖心肾虚则其气两分；心肾足则其气两合，心与肾不离，而胞胎之气听命于二经之摄，又安有妄动之形哉！然则心肾不交，补心肾可也，又何兼补夫肝木耶？不知肝乃肾之子心之母也，补肝则肝气往来于心肾之间，自然上引心而下入于肾，下引肾而上入于心，不啻介绍之助也。此使心肾相交之一大法门，不特调经而然也，学者其深思诸。^②

【注释】

① 心肾不交：心在上焦，属火；肾在下焦，属水。心中之阳下降至肾，能温养肾阳；肾中之阴上升至心，则能涵养心阴。在正常情况下，心火和肾水就是互相升降、协调，彼此交通，保持动态平衡，这就是“心肾相交”。

② 前人对这一篇加有批语：“若大便下血过多，精神短少，人愈消瘦，必系肝气不舒，久郁伤脾，脾伤不能统血又当分别治之。方用补血汤：嫩黄芪二两（生熟各半），归身四钱（酒洗，炒黑），杭芍炭二钱，焦白术五钱（土炒），杜仲二钱（炒断丝），荆芥炭二钱，姜炭二钱，引用贯仲炭

一钱冲入服之，四剂必获愈，愈后减半再服二剂。经入大肠必当行经之际而大便下血也，初病血虽错行精神必照常，若脾不统血精神即不能照常矣，用者辨之。”

年未老经水断

经云：“女子七七而天癸绝。”有年未至七七而经水先断者，人以为血枯经闭也，谁知是心肝脾之气郁乎！使其血枯，安能久延于人世。医见其经水不行，妄谓之血枯耳，其实非血之枯，乃经之闭也。且经原非血也，乃天一之水，出自肾中，是至阴之精而有至阳之气，故其色赤红似血，而实非血，所以谓之天癸。世人以经为血，此千古之误，牢不可破，倘果是血，何不名之曰血水，而曰经水乎！经水之名者，原以水出于肾，乃癸干之化，故以名之。无如世人沿袭而不深思其旨，皆以血视之。然则经水早断，似乎肾水衰涸。吾以为心肝脾气之郁者，盖以肾水之生，原不由于心肝脾，而肾水之化，实有关于心肝脾。使水位之下无土气以承之，则水滥灭火，肾气不能化；火位之下无水气以承之，则火炎铄金，肾气无所生；木位之下无金气以承之，则木妄破土，肾气无以成。倘心肝脾有一经之郁，则其气不能入于肾中，肾之气即郁而不宣矣。况心肝脾俱郁，即肾气真足而无亏，尚有茹而难吐之势。矧肾气本虚，又何能盈满而化经水外泄耶！经曰“亢则害”，此之谓也。此经之所以闭塞有似乎血枯，而实非血枯耳。治法必须散心肝脾之郁，而大补其肾水，仍大补其心肝脾之气，则精溢而经水自通矣。方用益经汤。

大熟地一两，九蒸 白术一两，土炒 山药五钱，炒 当归五钱，酒洗 白芍三钱，酒炒 生枣仁三钱，捣碎 丹皮二钱 沙参三钱 柴胡一钱 杜仲一钱，炒黑 人参二钱

水煎。连服八剂而经通矣，服三十剂而经不再闭，兼可受孕。此方心肝脾肾四经同治药也。妙在补以通之，散以开之；倘徒补则郁不开而生火，徒散则气益衰而耗精；设或用攻坚之利，辛热之品，则非徒无益，而又害之矣。^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“善医者，只用眼前纯和之品，而大病尽除。不善医者，立异矜奇，不惟无效，反致百病丛生。凡用药杂乱，假金石为上品者，戒之戒之！”

种 子

身瘦不孕

妇人有瘦怯身躯，久不孕育，一交男子，即卧病终朝，人以为气虚之故，谁知是血虚之故乎！或谓血藏于肝，精涵于肾，交感乃泄肾之精，与血虚何与！殊不知肝气不开，则精不能泄，肾精既泄，则肝气亦不能舒。以肾为肝之母，母既泄精，不能分润以养其子，则木燥之水，而火且暗动以铄精，则肾愈虚矣。况瘦人多火，而又泄其精，则水益少，而火益炽。水虽制水，而肾精空乏，无力以济，成火在水上之卦^①，所以倦怠而卧也。此等之妇，偏易动火，然此火因贪欲而出于肝水之中，又是虚燥之火，绝非真火也。且不交合则已，交合又偏易走泄，此阴虚火旺，不能受孕，即偶尔受孕，必致逼干男子之精，随种而随消者有之。治法必须大补肾水而平肝木，水旺则火旺，血旺则火消，便成水在火上之卦^②。方用养精种玉汤。

大熟地一两，九蒸 当归五钱，酒洗 白芍五钱，酒炒 山萸肉五钱，蒸熟

水煎。服三月便可健身受孕，断可种子。此方之用，不特补血，而纯于填精，精满则子宫易于摄精，血足则子宫易于容物，皆有子之道也。惟是贪欲者多，节欲者少，往往不验。服此者果能节欲三月，心静神清，自无不孕之理。否则不过身体壮健而已，勿咎方之不灵也^③。

【注释】

① 火在水上之卦：指《易经》未济卦，表示事情不能成功。

② 水在火上之卦：指《易经》既济卦，表示事情能够成功。

③ 前人对这一篇加有批语：“服药三月后不受孕，仍照原方加杜仲三钱，炒断丝，续断二钱；白术五钱，土炒焦；云苓三钱。服数剂后必受孕。”

胸满不思食不孕

妇人有饮食少思，胸膈满闷，终日倦怠思睡，一经房事，呻吟不已，人以为是脾胃之气之虚也，谁知是肾气不足乎！夫气宜升腾，不宜消降。升腾于上焦，则脾胃易于分运；降陷于下焦，则脾胃难以运化。人乏水谷之养，则精神自尔倦怠，脾胃之气可升而不可降也明甚。然则脾胃之气，虽充于脾胃之中，实生于两肾之内。无肾中之水气，则胃之气不能腾；无肾中之火气，则脾之气不能化。惟有肾之水火二气，而脾胃之气始能升腾而不降也。然则补脾胃之气，可不急补肾中水火之气乎？治法必以补肾气为主，但补肾而不兼补脾胃之品，则肾之水火二气不能提于至阳之上也。方用并提汤。

大熟地一两，九蒸 巴戟一两，盐水浸 白术一两，土炒 人参五钱 黄芪五钱，生用 生苁肉三钱，蒸 枸杞二钱 柴胡五分

水煎。服三月而肾气大旺，再服一月未有不能受孕者。此方补气之药多于补精，似乎以补脾胃为主矣。孰知脾胃健，而生精自易，是补脾胃之气与血，正所以补肾之精与水也。又益

以补精之味，则阴气自足，阳气易升，自尔腾越于上焦矣。阳气不下陷，则无非大地阳春，随遇皆是化生之机，安有不受孕之理与^①！

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“胸满不孕，人每误为脾胃虚寒，不能进食，用扶脾消导之药，肾气愈虚，何能受孕？妙在立方不峻补肾火，所以不用桂、附等药，但专补肾气，使脾胃之气不复下陷，则带脉气充，胞胎气暖，自然受孕无难矣！”

下部冰冷不受孕

妇人有下身冰冷，非火不暖，交感之际，阴中绝无温热之气，人以为天分之薄也，谁知是胞胎寒之极乎！夫寒冰之地，不生草木；重阴之渊，不长鱼龙。今胞胎既寒，何能受孕？虽男子鼓力勇战，其精甚热，直射于子宫之内，而寒冰之气相逼，也不过茹之于暂，而不能不吐之于久也。夫犹是人也，此妇之胞胎，何以寒凉至此，岂非天分之薄乎？非也。盖胞胎居于心肾之间，上系于心，而下系于肾，胞胎之寒凉，乃心肾二火之衰微也。故治胞胎者，必须补心肾二火而后可。方用温胞饮。

白术一两，土炒 巴戟一两，盐水浸 人参三钱 杜仲三钱，炒黑
菟丝子三钱，酒浸炒 山药三钱，炒 芡实三钱，炒 肉桂二钱，去粗，
研 附子三分，制 补骨脂二钱，盐水炒

水煎。服一月而胞胎热。此方之妙，补心而即补肾，温肾而即温心。心肾之气旺，则心肾之火自生；心肾之火生，则胞胎之寒自散。原因胞胎之寒，以至茹而即吐，而今胞胎既热矣，尚有施而不受孕者乎？若改汤为丸，朝夕吞服，尤能摄精，断不至有伯道无儿^①之叹也^②。

【注释】

① 伯道无儿：晋邓攸，字伯道。先后任河东吴郡和会稽太守，官至尚书右谏射。因避石勒兵乱，带了自己的儿子和侄子逃难，路上丢掉自己的儿子，保全了侄儿。以后，他再也没有自己的儿子。见《晋书·邓攸传》。《世说新语·赏誉》：“谢太傅（安）重邓谏射，常言天地无知，使伯道无儿。”后来称别人无子，多用此语。

② 前人对这一篇加有批语：“今之种子者，多喜服热药。不知此方特为胞胎寒者设。若胞胎有热，则不宜服。审之！”

胸满少食不孕

妇人有素性恬淡，饮食少则平和，多则难受，或作呕泄，胸膈胀满，久不受孕，人以为禀赋之薄也，谁知是脾胃虚寒乎！夫脾胃之虚寒，原因心肾之虚寒耳。盖胃土非心火不能生，脾土非肾火不能化。心肾之火衰，则脾胃失生化之权，即不能消水谷以化精微矣。既不能化水谷之精微，自无津液以灌溉于胞胎之中。欲胞胎有温暖之气，以养胚胎，必不可得；总然受胎，而带脉无力，亦必堕落。此脾胃虚寒之咎，故无玉麟之毓也。治法可不急温补其脾胃乎？然脾之母，原在肾之命门；胃之母，原在心之胞络；欲温补脾胃，必须补二经之火。盖母旺子必不弱，母热子必不寒，此子病治母之义也。方用温土毓麟汤。

巴戟一两，去心，酒浸 覆盆子一两，酒浸蒸 白术五钱，土炒 人参三钱 怀山药五钱，炒 神曲一钱，炒

水煎。服一月可以种子矣。此方之妙，温补脾胃，而又兼补命门与心包络之火，药味不多，而四经并治。命门心包之火旺，则脾与胃无寒冷之虞。子母相顾，一家和合，自然饮食多而善化，气血旺而能任，带脉有力，不虞落胎，安有不玉麟之育哉！^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“少食不孕，与胸满不思饮食有间，一补肾中之气，一补命门与心包络之火。药味不多，其君臣佐使之妙，宜细参之。”

少腹急迫不孕

妇人有少腹之间，自觉有紧迫之状，急而不舒，不能生育，此人人之所不识也，谁知是带脉之拘急乎！夫带脉系于腰脐之间，宜弛而不宜急，今带脉之急者，由于腰脐之气不利也。而腰脐之气不利者，由于脾胃之气不足也。脾胃气虚，则腰脐之气闭；腰脐之气不利者，由于脾胃之气不足也。脾胃气虚，则腰脐之气闭；腰脐之气闭，则带脉拘急。遂致牵动胞胎，精即直射于胞胎，胞胎亦暂能茹纳，而力难负载，必不能免小产之虞。况人多不能节欲，安得保其不坠乎！此带脉之急，所以不能生子也。治法宜宽其带脉之急，而带脉之急不能遽宽也，宜利其腰脐之气。而腰脐之气不能遽利也，必须在补其脾胃之气与血，而腰脐可利，带脉可宽，自不难于孕育矣。方用宽带汤。

白术一两，土炒 巴戟肉五钱，酒浸 补骨脂一钱，盐水浸 人参三钱 麦冬三钱，去心 杜仲三钱，炒黑 大熟地五钱，九蒸 肉苁蓉三钱，洗净 白芍三钱，酒炒 当归二钱，酒洗 五味三分，炒 建莲子二十粒，不去心

水煎。服四剂少腹无紧迫之状，服一月即受胎。此方之妙，脾胃两补，而又利其腰脐之气，自然带脉宽舒，可以载物而胜任矣。或疑方中用五味白芍之酸收，不增带脉之急，而反得带脉之舒，殊不可解。岂知带脉之急，由于气血之虚。盖血虚则缩而不伸，气虚则挛而达。用芍药之酸，以平肝木，则肝不剋脾；用五味之酸以生肾水，则肾能益带：似相碍而实相

济也，何疑之有！^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“凡种子治法，不出带脉、胞胎二经，数言已泄造化之秘矣。”

嫉妒不孕

妇人有怀抱素恶，不能生子者，人以为天心厌之也，谁知是肝气郁结乎！夫妇人之有子也，必然心脉流利而滑，脾脉舒徐而和，肾脉旺大而鼓指，始称喜脉。未有三部脉郁，而能生子者也。若三部脉郁，肝气必因之而更郁，肝气郁，则心肾之脉必致郁之极而莫解。盖子母相依，郁必不喜，喜必不郁也。其郁而不能成胎者，以肝木不舒，必下剋脾土，而致塞脾土之气。塞则腰脐之气必不利，腰脐之气不利，必不能通任脉而达带脉，则带脉之气亦塞矣。带脉之气既塞，则胞胎之门必闭，精即到门，亦不得其门而入矣，其奈之何哉。治法必解四经之郁，以开胞胎之门，则几矣。方用开郁种玉汤。

白芍一两，酒炒 香附三钱，酒炒 当归五钱，酒洗 白术五钱，土炒 丹皮三钱，酒洗 茯苓三钱，去皮 花粉二钱

水煎。服一月则郁结之气开，郁开则无非喜气之盈腹，而嫉妒之心，也可以一易，自然两相合好，结胎于顷刻之间矣。此方之妙，解肝气之郁，宣脾气之困，而心肾之气亦因之俱舒，所以腰脐利而任带通达。不必启胞胎之门，而胞胎自启，不特治嫉妒者也。^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“方似平平无奇，然却能解妒种子，不可忽视。若怀妊仍然嫉妒，必致血郁堕胎。即幸不堕胎生子，多不能成。方如解妒饮合煎之，可保无虞，必须变其性情始效。解妒饮：黍、谷各九十粒，麦（生用）、小黑豆各四十九粒，豆（炒熟）、高粱各五十五粒。”

肥胖不孕

妇人有身体肥胖，痰涎甚多，不能受孕者，人以为气虚之故，谁知是湿盛之故乎！夫湿从下受，乃言外邪之湿也；而肥胖之湿，实非外邪，乃脾土之内病也。然脾土既病，不能分化水谷，以养四肢，宜其身軀瘦弱，何以能肥胖乎？不知湿盛者多肥胖，肥胖者多气虚，气虚者多痰涎，外似健壮，而内实虚损也。内虚则气必衰，气衰则不能行水，而湿停于肠胃之间，不能化精而化涎矣！夫脾本湿土，又因痰多，愈加其湿。脾不能受热，必津润于胞胎，日积月累，则胞胎竟变成汪洋之水窟矣。且肥胖之妇，内肉必满，遮隔子宫，不能受精，此必然之势也。况又加以水湿之盛，即男子甚健，阳精直达子宫，而其水势滔滔，泛滥可畏，亦遂化精成水矣，又何能成妊哉！治法必须以泄水化痰为主，然徒泄水化痰，而不急补脾胃之气，则阳气不旺，湿痰不去，人先病矣，乌望其茹而不吐乎？方用加味补中益气汤。

人参三钱 黄芪三钱，生用 柴胡一钱 甘草一钱 当归三钱，酒洗 白术一两，土炒 升麻四分 陈皮五分 茯苓五钱 半夏三钱，制

水煎。服八剂，痰涎尽消。再十剂，水湿利，子宫涸出，易于受精而成孕矣。其在于昔，则如望洋观海；而至于今，则是马到成功也，快哉！此方之妙，妙在提脾气而升于上，作云作雨^①，则水湿反利于下行，助胃气而消于下；为津为液，则痰涎转易于上化。不必用消化之品以损其肥，而肥自无碍；不必用浚决之味以开其窍，而窍自能通。阳气充足，自能摄精；湿邪散除，自可受种。何肥胖不孕之足虑乎？^②

【注释】

① 作云作雨：这里指行房事。战国楚襄王与宋玉游于云梦之台，望

高唐之观，其上有朝云。王问何为朝云，玉曰，昔怀王游高唐，怠而昼寝，梦见一妇人，曰：“妾巫山之女也，为高唐之客，闻君游高唐，愿为枕席。”王因幸之。妇人去而辞曰：“妾在巫山之阳，高丘之阻，旦为朝云，暮为行雨。朝朝暮暮，阳台之下。”见《文选》宋玉《高唐赋序》。故旧以云雨之事喻指男女间的事。

② 前人对这一篇加有批语：“再十剂后，方加杜仲一钱半，炒断丝，续断钱半，炒，必受孕矣。”

骨蒸夜热不孕

妇人有骨蒸夜热^①，遍体火焦，口干舌燥，咳嗽吐沫，难于生子者，人以为阴虚火动也，谁知是骨髓内热乎！夫寒阴之地，固不生物，而干旱之田，岂能长养？然而骨髓与胞胎，何相关切？而骨髓之热，即能使人不嗣，此前贤所未言者也，山一旦创言之，不几为世俗所骇乎？而要知不必骇也。此中实有理其焉。盖胞胎为五脏外之一脏耳，以其不阴不阳，所以不列于五脏之中。所谓不阴不阳者，以胞胎上系于心包，下系于命门。系心包者，通于心，心者阳也。系命门者，通过肾；肾者阴也。是阴之中有阳，阳之中有阴，所以通于变化，或生男，或生女，俱从此出。然必阴阳协和，不偏不枯，始能变化生人，否则否矣。况胞胎既通于肾，而骨髓亦肾之所化也。骨髓热由于肾之热，肾热而胞胎亦不能不热。且胞胎非骨髓之养，则婴儿无以生骨。骨髓过热，则骨中空虚，惟存火烈之气，又保能成胎？治法必须清骨中之热，然骨热由于水亏，必补肾之阴，则骨热除，珠露有滴濡之喜矣。壮水之主，以制阳光^②，此之谓也。方用清骨滋肾汤。

地骨皮一两，酒洗 丹皮五钱 沙参五钱 麦冬五钱，去心 元参五钱，酒洗 五味子五分，炒 白术三钱，土炒 石斛二钱

水煎。连服三十剂，而骨热解。再服六十剂，自受孕。此

方之妙，补肾中之精，凉骨中之热，不清胞胎，而胞胎自无太热之患。然阴虚内热之人，原易受妊，今因骨髓过热，所以受精而变燥，以致难于育子。本非胞胎之不能受精，所以稍补其肾，以杂其火之有余，而益其水之不足，便易种子耳。^③

【注释】

① 骨蒸：“骨”表示深层的意思；“蒸”是熏蒸的意思。形容阴虚潮热的热气自里透发而出，故称为骨蒸。这种热型，每兼盗汗，是肺癆病的主症之一。又称“骨蒸癆热”。

② 壮水之主，以制阳光：这是唐代王冰对于“诸寒之热者取之阴”的注语。后人简称为“壮水制阳”。是用滋阴壮水之法，以抑制阳亢火盛的意思。假如用寒凉药治疗热症而不见效或反而严重时，那么，这种热症就是阴虚阳亢的性质，属于肾阴症，应该滋肾阴（肾脏之真水）。

③ 前人对这一篇加有批语：“治骨髓热，所以不用熟地。方极善，用者万勿加減。凡峻药，病去七分即止，不必拘泥三十剂或六十剂之数。三元生人不一，余类推。”

腰酸腹胀不受孕

妇人有腰酸背楚，胸满腹胀，倦怠欲卧，百计求嗣，不能如愿，人以为腰肾之虚也，谁知是任督之困乎！夫任脉行于前，督脉行于后，然皆从带脉之上下而行也。故任脉虚则带脉坠于前，督脉虚则带脉系于后，虽胞胎受精，亦必小产。况任督之脉既虚，而疝瘕之症^①必起。疝瘕碍胞胎而外障，则胞胎缩于疝瘕之内，往往精施而不能受，虽饵以玉燕^②，亦何益哉！治法必须先去其疝瘕之病，而补其任督之脉，则提挈天地，把握阴阳，呼吸精气，包裹成形，力足以胜任而无虞矣！外无所障，内有所容，安有不能生育之理？方用升带汤。

白术一两，土炒 人参三钱 沙参五钱 肉桂一钱，去粗，研 萆
薢粉三钱 鳖甲三钱，炒 茯苓三钱 半夏一钱，制 神曲一钱，炒

水煎。连服三十剂，而任督之气旺。再服三十剂，而疝瘕之症除。此方利腰脐之气，正升补任督之气也。任督之气升，而疝瘕自有难容之势。况方中有肉桂以散寒，萆薢以祛积，鳖甲之攻坚，茯苓之利湿，有形自化于无形，满腹皆升腾之气矣，何至受精而自坠乎哉！^③

【注释】

① 疝瘕：指小腹部热痛，溺窍流出白色粘液的病症。见《素问·玉机真论》等篇，又称“瘕疝”。

② 玉燕：传说唐代张说的母亲夜里梦见玉燕飞投入怀，因此怀孕，生了张说。见五代后周王仁裕《开元天宝遗事上·梦玉燕投怀》。

③ 前人对这一篇加有批语：“此方为有疝瘕而设，故用沙参、萆薢粉、鳖甲，以破坚理气。若无疝瘕，去上三味，加杜仲（一钱半，炒黑）、泽泻（一钱半，炒）、甘枸杞（二钱）三味服之，腰酸腹胀自除矣。鳖甲破气，不可误服。惟有疝瘕与肝郁者宜之。”

便涩腹胀足浮肿不孕

妇人有小水艰涩，腹胀脚肿，不能受孕者，人以为小肠之热也，谁知是膀胱之气不化乎！夫膀胱原与胞胎相近，膀胱病而胞胎亦病矣。盖水湿之气，必走膀胱，而膀胱不能自化，必得肾气相通，始能化水，以出阴器。倘膀胱无肾气之通，则膀胱之气化不行，水湿之气，必且渗入胞胎之中，而成汪洋之势。汪洋之田，又何能生物也哉！治法必须壮肾气以分消胞胎之湿，益肾火以达化膀胱之水，使先天之本壮，则膀胱之气化，胞胎之湿除，而汪洋之田，化成两露之壤矣！水化则膀胱利，火旺则胞胎暖，安有布种而不发生者哉！方用化水种子汤。

巴戟一两，盐水浸 白术一两，土炒 茯苓五钱 人参三钱 菟丝子五钱，酒炒 芡实五钱，炒 车前二钱，酒炒 肉桂一钱，去粗研

水煎。服二剂，膀胱之气化，四剂艰涩之症除，又十剂虚胀脚肿之病形消。再服六十剂肾气大旺，胞胎温暖，易于受胎而生育矣。此方利膀胱之水，全在补肾中之气；暖胞胎之气，全在壮肾中之火。至于补肾之药，多是濡润之品，不以湿而益助其湿乎？然方中之药妙在于补肾之火，而非补肾之水。尤妙于补火而无燥烈之虞，利水而非荡涤之猛。所以膀胱气化，胞胎不湿，而发荣长养无穷与^①！

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“便涩、腹胀、足浮肿，此症极多，不惟不能受孕，抑且暂添杂症，久而不愈，甚有成劳瘵不治者。此方补水而不助湿，补火而使归原，善极，不可加减一味。若无好肉桂，以破故纸一钱（炒）代之。用核桃仁二个，连夜烧黑，去皮用仁作引。若用好肉桂，即可不用核桃引。”

女科下卷

妊 娠

妊娠恶阻

妇人怀妊之后，恶心呕吐，思酸解渴，见食憎恶，困倦欲卧，人皆曰妊娠恶阻^①也，谁知肝血太燥乎！夫妇人受妊，本于肾气之旺也，肾旺是以摄精，然肾一受精而成娠，则肾水生胎，不暇化润于五脏；而肝为肾之子^②，日食母气以舒，一日无津液之养，则肝气迫索，而肾水不能应，则肝益急。肝急则火动而逆也；肝气既逆，是以呕吐恶心之症生焉。呕吐纵不至太甚，而其伤气则一也。气既受伤，则肝血愈耗，世人用四物汤治胎前诸症者，正以其能生肝之血也。然补肝以生血，未为不佳，但生血而不知生气，则脾胃衰微，不胜频呕，犹恐气虚则血不易生也。故于平肝补血之中，加以健脾开胃之品，以生阳气，则气能生血，尤益胎气^③耳。或疑气逆而用补气之药，不益助其逆乎！不知妊娠恶阻，其逆不甚，且逆是因虚而逆，非因邪而逆也。因邪而逆者，助其气则逆增；因虚而逆者，补其气则逆转。况补气于补血之中，则阴足以制阳，又何虑其增逆乎！宜用顺肝益气汤。

人参一两 当归一两，酒洗 苏子一两，炒，研 白术三钱，土炒
茯苓二钱 熟地五钱，九蒸 白芍三钱，酒炒 麦冬三钱，去心 陈皮
三分 砂仁一粒，炒，研 神曲一钱，炒

水煎。服一剂轻，二剂平，三剂全愈。此方平肝则肝逆除，补肾则肝燥息，补气则血易生。凡胎病而少带恶阻者，俱以此方投之无不安，最有益于胎妇，其功更胜于四物焉。^④

【注释】

① 妊娠恶阻：指妊娠两个月左右，出现不同程度的反应，如胸闷不舒、恶心呕吐、恶闻食气、食入即吐、头重目眩等，是妊娠期最常见的病症。症状轻微的，属正常反应，严重的可使孕妇迅速消瘦，或诱发其它疾病。

② 肝为肾之子：按五行学说，肝属木，肾属水，水生木，所以肝为肾之子，而肾为肝之母。

③ 胎气：指胎儿在母体内所受的精气。人由胚胎以至成形，皆赖胎气而逐渐滋长。离开母体以后，生长发育的正常与否，亦与胎气禀受有关。

④ 前人对这一篇加有批语：“苏子一两，疑是一钱之误。”

妊娠浮肿

妊妇有至五个月，肢体倦怠，饮食无味，先两足肿，渐至遍身头面俱肿，人以为湿气使然也，谁知是脾肺气虚乎！夫妊娠虽有按月养胎之分，其实不可拘于月数，总以健脾补肺为大纲。盖脾统血，肺主气，胎非血不荫，非气不生，脾健而血旺而荫胎，肺清则气旺而生子。苟肺衰则气馁，气馁则不能运气于皮肤矣；脾虚则血少，血少则不能运血于肢体矣。气与血两虚，脾与肺失职，所以饮食难消，精微不化，势必至气血下陷，不能升举，而湿邪即乘其所虚之处，积而成浮肿症，非由脾肺之气血虚而然耶！治法当补其脾之血与肺之气，不必祛湿，而湿自无不去之理。方用加减补中益气汤。

人参五钱 黄芪三钱，生用 柴胡一钱 甘草一分 当归三钱，酒洗
白术五钱，土炒 茯苓一两 升麻三分 陈皮三分

水煎。服四剂即愈，十剂不再犯。夫补中益气汤之立法

也，原是升提脾肺之气，似乎益气而不补血，然而血非气不生，是补气即所以生血。观当归补血汤用黄芪为君，则较著彰明矣。况湿气乘脾肺之虚而相犯，未便大补其血，恐阴太盛而招阴也。只补气而助以利湿之品，则气升而水尤易散，血亦随之而生矣。然而何以重用茯苓而至一两，不几以利湿为君乎？嗟！嗟！湿症而不以此药为君，将以何者为君乎！况重用茯苓于补气之中，虽曰渗湿，而仍是健脾清肺之意。且凡利水之品，多是耗气之药，而茯苓与参术合，实补多于利，所以重用之以分湿邪，即以补气血耳。

妊娠少腹痛

妊娠小腹作疼，胎动不安，如有下堕之状，人只知带脉无力也，谁知是脾肾之亏乎！夫胞胎虽系于带脉，而带脉实关于脾肾。脾肾亏损，则带脉无力，胞胎即无以胜任矣。况人之脾肾亏损者，非饮食之过伤，即色欲之太甚。脾肾亏则带脉急，胞胎所以有下坠之状也。然则胞胎之系，通于心与肾，而不通于脾，补肾可也，何故补脾？然脾为后天^①，肾为先天^②，脾非先天之气不能化，肾非后天之气不能生，补肾而不补脾，则肾之精何以遽生也，是补后天之脾，正所以补先天之肾也；补先后二天之脾与肾，正所以固胞胎之气与血，脾肾可不均补乎！方用安奠二天汤。

人参一两，去芦 熟地一两，九蒸 白术一两，土炒 山药五钱，炒
炙草一钱 山萸五钱，蒸，去核 杜仲三钱，炒黑 枸杞二钱 扁豆
五钱，炒，去皮

水煎。服一剂而疼止，二剂而胎安矣。夫胎动乃脾肾双亏之症，非大用参、术、熟地补阴补阳之品，断不能挽回于顷刻。世人往往畏用参术或少用，以冀建功，所以寡效。此方正

妙在多用也^③。

【注释】

① 后天：指脾胃。人体出生后的生长、发育、生命活动所需的物质和能量，要靠脾胃之气吸收水谷精微以滋养供给，故脾胃被称为后天之本。

② 先天：人身生命、发育生殖的本源，与后天相对而言。先天之本在肾，故有肾主先天之说。

③ 前人对这一篇加有批语：“人参一两，或以党参代之。无上党参者，以嫩黄芪代之。”

妊娠口干咽痛

妊妇至三四个月，自觉口干舌燥，咽喉微痛，无津以润，以至胎动不安，甚则血流如经水，人以为火动之极也，谁知是水亏之甚乎！夫胎也者，本精与血之相结而成，逐月养胎，古人每分经络，其实均不离肾水^①之养，故肾水足而胎安，肾水亏而胎动。虽然，肾水亏又何能动胎，必肾经之火动，而胎始不安耳。然而火之有余，仍是水之不足，所以火炎而胎必动，补水则胎自安，亦既济之义也。惟是肾水不能遽生，必须滋补肺金^②，金润则能生水，而水有逢源之乐矣。水既有本，则源泉混混矣，而火又何难制乎。再少加以清热之品，则胎自无不安矣。方用润燥安胎汤。

熟地一两，九蒸 生地三钱，酒炒 山萸肉五钱，蒸 麦冬五钱，去心 五味一钱，炒 阿胶二钱，蛤粉炒 黄芩二钱，酒炒 益母二钱

水煎。服二剂而燥息，再二剂而胎安。连服十剂，而胎不再动矣。此方专填肾中之精，而兼补肺。然补肺仍是补肾之意，故肾经不干燥，则火不能灼，胎焉有不安之理乎！^③

【注释】

① 肾水：指肾脏的阴液，也称肾阴。

② 肺金：古人根据五行学说，把肺归属于金，故称肺金。

④ 前人对这一篇加有批语：“方极妙，用之立应。万不可因咽痛而加豆根、射干等药；亦不可因过润而加云苓。”

妊娠吐泻腹疼

妊妇上吐下泻，胎动欲堕，腹疼难忍，急不可缓，此脾胃虚极而然也。夫脾胃之气虚，则胞胎无力，必有崩坠之虞。况又上吐下泻，则脾与胃之气，因吐泻而愈虚，欲胞胎之无恙也得乎！然胞胎疼痛而究不至下坠者，何也？全赖肾气^①之固也。胞胎系于肾而连于心，肾气固则交于心，其气通于胞胎，此胞胎之所以欲坠而不得也。且肾气能固，则阴火必来生脾；心气^②能通，则心火必来援胃，脾胃虽虚而未绝，则胞胎虽动而不堕，可不急救其脾胃乎！然脾胃当将绝而未绝之时，只救脾胃而难遽生，更宜补其心肾之火^③，使之生土，则两相接续，胎自固而安矣。方用援土固胎汤。

人参一两 白术一两，土炒 山药一两，炒 肉桂二钱，去粗，研制附子五分 续断三钱 杜仲三钱，炒黑 山萸一两，蒸，去核 枸杞三钱 菟丝子三钱，酒炒 砂仁三粒，砂，研 炙草一钱

水煎。服一剂而泄止，二剂而诸病尽愈矣。此方救脾胃之土十之八，救心肾之火十之二也。救火轻于救土者，岂以土欲绝而火未甚衰乎？非也。盖土崩非重剂不能援，火衰虽小剂而可助，热药多用，必有太燥之虞，不比温甘之品也。况胎动系土衰而非火弱，何用太热。妊娠忌桂附，是恐伤胎，岂可多用。小热之品，计之以钱，大热之品，计之以分者，不过用以引火，而非用以壮火也。其深思哉！

【注释】

① 肾气：肾精化生之气，指肾脏的功能活动，如生长、发育及性机能的活动。

② 心气：广义泛指心的功能活动，狭义指心脏推动血液循环的功能。

③ 肾火：肾是阴脏，内藏水火（即真阴、真阳），水火必须保持相对平衡。

妊娠子悬胁疼

妊妇有怀抱忧郁，以致胎动不安，两胁闷而疼痛，如弓上弦，人止知是子悬^①之病也，谁知是肝气^②不通乎！夫养胎半系于肾水，然非肝血^③相助，则肾水实有独力难支之势。故保胎必滋肾水，而肝血断不可不顾，使肝气不郁，则肝之气不闭，则肝之血必旺，自然灌溉胞胎，合肾水而并协养胎之力。今肝气因忧郁而闭塞，则胎无血荫，肾难独任，而胎安得不上升以觅食，此乃郁气使然也。莫认为子之欲自悬，而妄用泄子之品，则得矣。治法宜开肝气之郁结，补肝血之燥干，则子悬自定矣。方用解郁汤。

人参一钱 白术五钱，土炒 白茯苓三钱 当归一两，酒洗 白芍一两，酒炒 枳壳五分，炒 砂仁三粒，炒，研 山梔子三钱，炒 薄荷二钱

水煎。服一剂而闷痛除，二剂而子悬定，至三剂而全安。去梔子，再多服数剂不复发。此乃平肝解郁之圣药，郁开则木不克土，肝平则火不妄动。方中又有健脾开胃之品，自然水精四布，而肝与肾有润泽之机，则胞胎自无干燥之患，又何虑上悬之不愈哉！^④

【注释】

① 子悬：指孕后出现胸膈胀满、痞闷不舒、甚者喘急烦躁不安者，多因平素肾阴不足，肝失所养，孕后阴亏于下，气浮于上，冲逆心胸所致。又称为胎气上逼或胎上逼心。

② 肝气：这里指肝脏的精气。

③ 肝血：指肝脏所藏的血。肝血与肝阴不能截然分开。临床上讲到

与肝血有关的一些病症，常和血虚、失血的情况相联系。

④ 前人对这一篇加有批语：“方加薏仁三四钱尤妙。”

妊娠跌损

妊妇有失足跌损，致伤胎元，腹中疼痛，势如将堕者，人只知是外伤之为病也，谁知有内伤之故乎！凡人内无他症，胎元坚固，即或跌扑闪挫，依然无恙。惟内之气血素亏，故略有闪挫，胎便不安。若止作闪挫外伤治，断难奏功，且恐有因治而反堕者，可不慎与！必须大补气血，而少加以行瘀之品，则瘀散胎安矣。但大补气血之中，又宜补血之品多于补气之药，则无不得之。方用救损安胎汤。

当归一两，酒洗 白芍三钱，酒炒 生地一两，酒炒 白术五钱，土炒 炙草一钱 人参一钱 苏木三钱，捣碎 乳香一钱，去油 没药一钱，去油

水煎。服一剂而疼痛止，二剂而势不下坠矣，不必三剂也。此方之妙，妙在既能去瘀而不伤胎，又能补气补血，而不凝滞，固无通利之害，亦痊跌闪之伤，有益无损，大建奇功，即此方与。然不特治怀孕之闪挫也，即无娠闪挫，亦可用之。^①

【注释】

① 前人对这一篇加有这样的批语：“即用寻常白术，土炒焦最妙，以其能理血行气也。于白术味过甘，不能理气行血，用者知之。”因此对土炒白术这一项切不可疏忽。

妊娠小便下血病名胎漏

妊妇有胎不动腹不疼，而小便中时常有血流出者，人以为血虚胎漏也，谁知气虚不能摄血乎！夫血只能荫胎，而胎中之荫血，必赖气以卫之，气虚下陷，则荫胎之血亦随气而陷矣。

然则气虚下陷，而血未尝虚，似不应与气同陷也。不知气乃血之卫，血赖气以固，气虚则血无凭依，无凭依必燥急，燥急必生邪热；血寒则静，血热则动，动则外出而莫能遏，又安得不下流乎！倘气不虚而血热，则必大崩，而不止些微之漏矣。治法宜补其气之不足，而泄其火之有余，则血不必止而自无不止矣。方用助气补漏汤。

人参一两 白芍五钱，酒炒 黄芩三钱，酒炒黑 生地三钱，酒炒黑 益母草一钱 续断二钱 甘草一钱

水煎。服一剂而血止，二剂再不漏矣。此方用人参以补阳气，用黄芩以泄阴火。火泄则血不热而无欲动之机，气旺则血有依而无可漏之窍，气血俱旺而和协，自然归经而各安其所矣，又安有漏泄之患哉！^①

【注释】

① 前人对这一段加有批语：“补血不用当归妙，以当归之香燥也。”这可与原文所说“用人参以补阳气”的指导思想互相发明，由此我们可以进一步体会傅青主处方的中肯，思考的缜密。

妊娠子鸣

妊妇怀胎至七八个月，忽然儿啼腹中，腰间隐隐作痛，人以为胎热之过也，谁知是气虚之故乎！夫儿之在胞胎也，全凭母气以化成，母呼儿亦呼，母吸儿也吸，未尝有一刻之间断。至七八个月则母气必虚矣。儿不能随母之气以为呼吸，必有迫不及待之势，母子原相依为命，子失母之气，则拂子之意，而啼于腹中，似可异而究不必异。病名子鸣，气虚甚也。治宜大补其气，使母之气与子气和合，则子之意安，而啼亦息矣。方用扶气止啼汤。

人参一两 黄芪一两，生用 麦冬一两，去心 当归五钱，酒洗

橘红五分 甘草一钱 花粉一钱

水煎。服一剂而啼即止，二剂不再啼。此方用人参、黄芪、麦冬以补肺气，使肺气旺，则胞胎之气亦旺，胞胎之气旺，则胞中之子气有不随母之气以为呼吸者，未之有也^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“黄芪用嫩黄芪，不可用箭芪，箭芪系北口外苜蓿根。”

妊娠腰腹疼渴汗燥狂

妇人怀妊有口渴汗出，大饮冷水，而烦躁发狂，腰腹疼痛，以致胎欲堕者，人莫不谓火盛之极也，抑知是何经之火盛乎？此乃胃火炎炽，熬煎胞胎之水，以致胞胎之水涸，胎失所养，故动而不安耳。夫胃为水谷之海，多气多血之经，所以养五脏六腑者，盖万物皆生于土，土气厚而物始生，土气薄而物必死。然土气之所以能厚者，全赖火气之来生也；胃之能化水谷者，亦赖火气之能化也。今胃中有火，宜乎生土，何以火盛而反致害乎？不知无火难以生土，而火多又能烁水，虽土中有火土不死，然亦必有水方不燥；使胃火太旺，必致烁干肾水，土中无水，则自润不足，又何以分润胞胎；土烁之极，火热炎蒸，犯心越神^①，儿胎受逼，安得不下坠乎！经所谓“二阳^②之病发心脾”者，正此义也。治法必须泄火滋水，使水气得旺，则火气自平，火平则汗、狂、燥、渴自除矣。方用**息焚安胎汤**。

生地一两，酒炒 青蒿五钱 白术五钱，土炒 茯苓三钱 人参三钱 知母二钱 花粉二钱

水煎。服一剂而狂少平，二剂而狂大定，三剂而火尽解，胎亦安矣。此方药料颇重，恐人虑不胜，而不敢全用，又不得

不再为囑之。怀胎而火胜若此，非大剂何以能燭，火不息则狂不止，而胎能安耶！况药料虽多，均是滋水之味，益而无损，勿过虑也。

【注释】

① 神：神气，中医有“心藏神”的说法。

② 二阳：指阳明经（脉）。

妊娠中恶

妇人怀子在身，痰多吐涎，偶遇鬼神祟恶，忽然腹中疼痛，胎向上顶。人疑为“子悬”之病也，谁知是中恶而胎不安乎！大凡不正之气^②，最易伤胎，故有孕之妇，断不宜入庙烧香，与避静阴寒之地，如古洞幽岩^③皆不可登。盖邪祟多在神宇潜踪，幽阴岩洞^④亦其往来游戏之所，触之最易相犯，不可不深戒也。况孕妇又多痰涎^⑤，眼目易眩；目一眩，如有妄见^⑥，此招祟之因痰而起也。人云：“怪病每起于痰”其信然与^⑦！治法似宜以治痰为主，然治痰必至耗气，气虚而痰难消化，胎必动摇。必须补气以生血，补血以活痰，再加以清痰之品，则气血不亏，痰亦易化矣。方用消恶安胎汤：

当归酒洗 白芍酒洗，各一两 白术土炒 茯苓各五钱 人参花粉各三钱 甘草 苏叶 陈香研末，各一钱 陈皮五分

此方大补气血。辅正邪自除之义也。

【注释】

① 中恶：古人迷信，谓中邪恶鬼祟之意。

② 不正之气：指疫疠邪气，如《证治准绳》中曰：“中恶之证，因冒不正之气”。

③ 古洞幽岩：指隐约不显的高山古洞。

④ 神宇潜踪，幽阴岩洞：指隐藏在深处的神庙，隐约不显而又阴森的高山古洞。

⑤ 妇人又多痰涎：指妇人素患痰饮，怀孕之后，由于胎体逐渐增大，影响气机升降失常，痰饮积聚而发病。

⑥ 如有妄见：即指幻视。

⑦ 其信然与：如此说法是能够使人相信的。

妊娠多怒堕胎

妇人有怀妊之后，未至成形，或已成形，其胎必堕，人皆曰气血衰微，不能固胎也，谁知是性急怒多，肝火大动而不静乎！夫肝本藏血，肝怒则不藏，不藏则血难固。盖肝虽属木，而木中实寄龙雷之火^①，所谓相火^②是也。相火宜静不宜动：静则安，动则炽。况木中之火，又易动而难静。人生无日无动之时，即无日非动火之时。大怒则火益动矣，火动则不可止遏，则火势飞扬，不能生气养胎，而反食气伤精矣；精伤则胎无所养，势必下坠而不已。经所谓“少火^③生气，壮火^④食气”，正此义也。治法宜平其肝中之火，利其腰脐之气，使气生夫血而血清其火，则庶几矣。方用利气泄火汤。

人参三钱 白术一两，土炒 甘草一钱 熟地五钱，九蒸 当归三钱，酒洗 白芍五钱，酒炒 芡实三钱，炒 黄芩二钱，酒炒

水煎。服六十剂而胎不坠矣。此方名虽利气而实补气也。然补气而不加以泄火之品，则气旺而火不能平，必反害其气也。故加黄芩于补气之中以泄火；又有熟地、归、芍以滋肝而壮水之主，则血不燥而气得和，怒气息而火自平，不必利气而气无不利，即无往而不利矣。

【注释】

① 龙雷之火：指肾火、肝火。

② 相火：中医名词。和“君火”（心火）相对而言，一般指肝、肾的相火。

③ 壮火：是一种亢奋的病理之火，能损耗正气。

④ 少火：是一种正常的具有生气的火，是维持人体正常生理活动所必须的。

⑤ 前人对这一篇加有批语：“性急怒多而不用疏肝药者，以其有胎娠故也。经云：胎病则母病，胎安则母病自愈。所以妊娠一门总以补气、养血、安胎为主，则万病自除矣。”指出了傅青主治疗妊娠一门各种疾病的共同指导思想和用药原则。

小 产

行房不慎小产

妊妇因行房致小产血崩不止，人以为火动之极也，谁知是气脱之故乎！血崩本于气虚，火盛本于水亏，肾水既亏，则气之生源涸矣；气源既涸，而气有不脱者乎？此火动是标，而气脱是本也。经云“治病必求其本”，本固而标自立矣。若只以止血为主，而不急固其气，则气散不能速回，而血何由止！不大补其精，则水涸不能遽长，而火且益炽，不揣其本，而齐其末，山未见有能济者也。方用固气填精汤。

人参一两 黄芪一两，生用 白术五钱，土炒 大熟地一两，九蒸
当归五钱，酒洗 三七三钱，研末冲 芥穗二钱，炒黑

水煎。服一剂而血止，二剂而身安，四剂则全愈。此方之妙，妙在不去清火，而惟补气补精，其奏功独神者，以诸药温润能除大热也。盖热是虚，故补气自能摄血，补精自能止血，意在本也。^①

【注释】

① 这一篇有前人所加的批语：“小产血崩多由行房所致。若年逾四十，参芪宜倍用，熟地宜减半用，以其气虚火衰也，否则每令气脱不救。凡有妊娠者，须忍欲谨避房事，万勿自蹈危途，慎之！”

跌闪小产

妊妇有跌扑闪挫，遂致小产，血流紫块，昏晕欲绝者，人皆曰瘀血作祟也，谁知是血室^①损伤乎！夫血室与胞胎相连，如唇齿之相依。胞胎有伤，则血室亦损，唇亡齿寒，理有必然也。然胞胎伤损而流血者，其伤浅；血室伤损而流血者，其伤深。伤之浅者，疼在腹；伤之深者，晕在心^②。同一跌扑损伤，而未小产与已小产，治各不同。未小产而胎不安者，宜顾其胎，而不可轻去其血^③；已小产而血大崩，宜散其瘀，而不可重伤其气。盖胎已堕血既脱，而血室空虚，惟气存耳。倘或再伤其气，安保无气脱之忧乎！经云：“血为营，气为卫。”^④使卫有不固，则营无依而安矣。故必补气以生血，新血生而瘀血自散矣。方用理气散瘀汤。

人参一两 黄芪一两，生用 当归五钱，酒洗 茯苓三钱 红花一钱 丹皮三钱 姜炭五钱

水煎。服一剂而流血止，二剂而昏晕除，三剂而全安矣。此方用人参、黄芪以补气，气旺则血可摄也；用当归、丹皮以生血，血生则瘀难留也。用红花、黑姜以活血，血活则晕可除也。用茯苓以利水，水利则血易归经也。

【注释】

① 血室：指子宫。

② 晕在心：按中医说法，“心藏神”，神经系统头晕等疾病与心脏担负供血等功能正常与否有关。

③ 血：此处血指瘀血。

④ 血为营，气为卫：营指营气，是血中之气，卫指卫气，起卫外、固表作用。

⑤ 前人对这一篇加有批语：“胎未堕宜用杜仲（炒炭）一钱，续断（炒黑）一钱；若胎已堕服原方。血崩不止，加贯众炭三钱；若血闭心晕，加

元胡炭一钱。”

大便干结小产

妊妇有口渴烦躁，舌上生疮，两唇肿裂，大便干结，数日不得通，以致腹痛小产者，人皆曰大肠之火热也，谁知是血热烁胎乎！夫血所以养胎也，温和则胎受其益，太热则胎受其损。如其热久烁之，则儿在胞胎之中，若有探汤之苦，难以存活，则必外越下奔，以避炎气之逼迫，欲其胎之不坠也得乎！然则血荫乎胎，则血必虚耗。血者阴也，虚则阳亢，亢则害矣。且血乃阴水所化，血日荫胎，取给刻不容缓而火炽，阴水不能速生以化血，所以阴虚火动。阴中无非火气，血中亦无非火气矣，两火相合，焚逼儿胎，此胎之所以下坠也。治法宜清胞中之火，补肾中之精，则可已矣。或疑儿已下坠，何故再服其胞？血不荫胎，何必大补其水？殊不知火动之极，以致胎坠，则胞中纯是一团火气，此火乃虚火也。实火可泄，而虚火宜于补中清之，则虚火易散，而真火可生。倘一味清凉以降火，全不顾胞胎之虚实，势必至寒气逼人，胃中生气萧索矣。胃乃二阳，资养五脏者也。胃阳不生，何以化精微以生阴水乎！有不变为劳瘵^①者几希矣。方用**加减四物汤**。

熟地五钱，九蒸 白芍三钱，生用 当归一两，酒洗 川芎一钱
山梔子一钱，炒 山萸二钱，蒸，去核 山药三钱，炒 丹皮三钱，炒
水煎，服四五剂而愈矣^②。

【注释】

① 劳瘵：病症名，病情缓慢，而互相传染，也即肺结核病。

② 前人对这一篇加有批语：“此方加条芩二钱尤妙。”

畏寒腹痛小产

妊妇有畏寒腹痛，因而堕胎者，人只知下部太寒也，谁知

是气虚不能摄胎乎！夫人生于火^①，亦养于火，非气不充，气旺则火旺，气衰则火衰。人之所以坐胎者，受父母先天之真火^②也。先天之真火，即先天之真气以成之，故胎成于气，亦摄于气，气旺则胎牢，气衰则胎堕，胎日加长，而气日加衰，安得不堕哉！况又遇寒气外侵，则内之火气更微，火气微则长养无资，此胎之不能不堕也。使当其腹痛之时，即用人参、干姜之类，补气祛寒，则可以疼止而胎安。无如人拘于妊娠之药禁而不敢用，因致堕胎，而仅存几微之气，不急救气，尚有何法？方用**黄芪补气汤**。

黄芪二两，生用 肉桂五分，去粗皮，研 当归一两，酒洗

水煎。服五剂愈矣。倘认定是寒，大用辛热，全不补气与血，恐过于燥热，反致亡阳而变危矣。

【注释】

① 火：指命门之火，也就是人体内生理性的火（生命之火）；是由阳气所化。

② 真火：实指肾阳。

大怒小产

妊妇有大怒之后，忽然腹痛吐血，因而堕胎；及堕胎之后，腹痛仍未止者，人以为肝之怒气未退也，谁知是血不归经而然乎！夫肝所以藏血者也。大怒则血不能藏，宜失血而不当堕胎，何为失血而胎亦随堕乎？不知肝性最急，血门不闭，其血直捣于胞胎，胞胎之系，通于心肾之间，肝血来冲，必断绝心肾之路；胎因心肾之路断，胞胎失水火之养，所以堕也。胎既堕矣，而腹痛如故者，盖因心肾未接，欲续无计，彼此痛伤肝气，欲归于心而心不受，欲归于肾而肾不纳，故血犹未静而疼无已也。治法宜引肝之血，仍入于肝，而腹痛自己矣。然徒

引肝之血而不平肝之气，则气逆而不易转，即血逆而不易归也。方用引气归血汤。

白芍五钱，酒炒 当归五钱，酒洗 白术三钱，土炒 甘草一钱
黑芥穗三钱 丹皮三钱 姜炭五分 香附五分，酒炒 麦冬三钱，去心
郁金一钱，醋炒

水煎服。此方名为引气，其实仍是引血也，引血亦所以引气，气归于肝之中，血亦归于肝之内，气血两归，而腹疼自止矣。

难 产

血虚难产

妊娠有腹疼数日，不能生产，人皆曰气虚力弱，不能送子出产门^①，谁知是血虚胶滞，胞中无血，儿难转身乎！夫胎之成，成于肾脏之精；而胎之养，养于五脏六腑之血，故血旺则子易生，血衰则子难产。所以临产之前，宜用补血之药；补血而血不能遽生，必更兼补气以生之，然不可纯补其气也，恐阳过于旺，而血仍不足，偏胜之害，必有升而无降，亦难产之渐也。防微杜渐，其惟气血兼补乎。使气血并旺，则气能推送，而血足以济之，是汪洋之中自不难转身也，又何有胶滞之患乎！方用送子丹。

生黄芪一两 当归一两，酒洗 麦冬一两，去心 熟地五钱，九蒸
川芎三钱

水煎。服二剂而生矣，且无横生倒产之患。此补血补气之药也，二者相较，补血之味，多于补气之品。盖补气止用黄芪一味，其余无非补血之品，血旺气得所养，气生血得所依，胞

胎润泽，自然易产；譬如舟遇水浅之处，虽大用人力，终难推行，忽逢春水泛滥，舟自跃跃欲行，再得顺风以送之，有不扬帆而迅行者乎！

【注释】

① 产门：指妇女的阴道外口，又称为“阴户”。

交骨不开难产

妊妇有儿到产门，竟不能下，此危急存亡之时也，人以为胞胎先破，水干不能滑利也，谁知是交骨^①不开之故乎！盖产门之上，原有骨二块，两相斗合，外曰交骨。未产之前，其骨自合，若天衣之无缝；临产之际，其骨自开，如开门之见山。妇人儿门之肉，原自斜生，皮亦横生，实可宽可窄可大可小者也。苟非交骨连络，则儿门必然大开，可以手入探取胞胎矣。此交骨为儿门之下关，实妇人锁钥之键。此骨不闭，则肠可直下；此骨不开，则儿难降生。然而交骨之能开能合者，气血主之也。血旺而气衰，则儿虽向下而儿门不开；气旺而血衰，则儿门可开而儿难向下，是气所以开交骨，血所以转儿身也。欲生产之顺利，非大补气血不可。然交骨之闭甚易，而交骨之开甚难。临产交骨不开者，多由于产前贪欲，泄精太甚，精泄则气血失生化之本，而大亏矣。气血亏则无以运润于儿门，而交骨粘滞不开矣。故欲交骨之开，必须于补气补血之中，而加开骨之品，两相合治，自无不开之患，不必催生，而儿自迅下，母子俱无恙矣。方用降子汤。

当归一两 人参五钱 川芎五钱 红花一钱 川牛膝三钱 柞木枝一两

水煎服。一剂儿门必响亮一声，交骨开解，而儿乃降生矣。此方用人参以补气，芎归以补血，红花以活血，牛膝以降

下，柞木枝以开关解骨，君臣相佐，同心协力，所以取效如神，在用开于补之中也。然单用柞木枝亦能开骨，但不补气与血，恐开而难合，未免有下部中风之患，不若此方之能开能合之为神妙也。至于儿未临门^②之时万不可先用柞木以开其门；然用降子汤亦正无妨，以其能补气血耳。若欲单用柞木，必须候到门而后可。

【注释】

① 交骨：即耻骨。交骨不开，是因为古人认为孕妇未产之前交骨闭合，临产时交骨才分开。

② 门：这个“门”指产门，即阴道外口。下面的“门”则指儿门，即子宫外口。

脚手先下难产

妊妇生产之际，有脚先下而儿不得下者，有手先下而儿不得下者，人以为横生倒产，至危之症也，谁知是气血两虚之故乎！夫儿在胞胎之中，儿身正坐，男面向后，女面向前，及至生时，头必旋转而向下生。^①此天地造化之奇，非人力所能勉强者。虽然，先天与后天，原并行而不悖，天机之动，必得人力以济之。所谓人力者，非产母用力之谓也，谓产母之气与血耳。产母之气血足，则胎必顺，产母之气血亏，则胎必逆；顺则易生，逆则难产。气血既亏，母身必弱，子在胞中，亦必弱；胎弱无力，欲转头向下而不能，此胎之所以有脚手先下者也。当时之时，急用针刺儿之手足，则儿必痛而缩入。急用转天汤以救顺之。

人参二两 当归二两，酒洗 川芎一两 川牛膝三钱 升麻四分
附子一分，制

水煎服。一剂而儿转身矣，再二剂自然顺生。此方之妙，

用人参以补气之亏；用芎归以补血之亏，人人皆知其义。若用升麻又用牛膝、附子，恐人未识其妙也。盖儿已身斜，非用提掣则头不易转，然转其身非用下行则身不易降。升麻、牛膝并用，而又用附子者，欲其无经不达，使气血迅速以催生也。^②

【注释】

① 这段话是古人的认识，并不科学。

② 前人对这一篇加有批语：“若服三剂后，以针刺儿手足仍不转身，以针刺产妇合骨穴，儿即下。万不可用手探取，以致子母俱危，戒之！”

气逆难产

妇人有生产数日而胎不下者，服催生之药，皆不见效，人以为交骨之难开也，谁知是气逆不行而然乎！夫交骨不开，固是难产，然儿头到产门而不能下者，方是交骨不开之故，自当用开骨之剂。若儿头尚未到产门，乃气逆不行，儿身难转，非交骨不开之故也。若开其交骨，则儿门大开，儿头未转而向下，必致变症非常，是儿门万万不可轻开也。大凡生产之时，切忌坐草太早。若儿未转头，原难骤生，乃早于坐草，产妇见儿许久不下，未免心怀恐惧，恐则神怯，怯则气下而不能升，气既不升，则上焦^①闭塞，而气乃逆矣；上气既逆，而上焦必胀满，而气益难行，气阻滞于上下之间，不利气而徒催生，则气愈逆而胎愈闭矣。治法但利其气，儿自转身而下矣。方用舒气散。

人参一两 当归一两，酒洗 川芎五钱 白芍五钱，酒炒 紫苏梗三钱 牛膝二钱 陈皮一钱 柴胡八分 葱白七寸

水煎服。一剂而逆气转，儿即下矣。此方利气而实补气。盖气逆由于气虚，气虚易于恐惧，补其气而恐惧自定，恐惧定而气逆者将莫知其何以定也，何必开交骨之多事乎哉^②！

【注释】

① 上焦：中医称三焦之一，指舌根至胃的上口。

② 前人对这一篇加有批语：“凡临产三日前，必先腹痛一小次，名曰‘试痛’，此时万勿坐草临盆，但将包儿诸物预备现成。……用力太早，必致难产，百变丛生，戒之慎之。”

子死产门难产

妇人有生产三四日，儿已到产门，交骨不开，儿不得下，子死而母未亡者，服开骨之药不验，当有死亡之危。今幸而不死者，正因其子死而胞胎下坠，子母离开，母气已收，未至同子气俱绝也。治但救其母，而不必顾其子矣。然死子在产门，塞其下口，有致母死之患，宜用推送之法，补血以生水，补气以生血，使气血两旺，死子可出而存母命也。倘徒用降子之剂以坠之，则死子未必下，而母气先脱矣，非救援之善者也。山亲见此等之症，常用救母丹活人颇多。故志之。

人参一两 当归二两，酒洗 川芎一两 益母草一两 赤石脂一钱 芥穗三钱，炒黑

水煎服。一剂而死子下矣。此方用芎、归以补血，人参以补气，气旺血旺，则上能升而下能降，气能推而血能送。况益母又善下死胎，石脂能下瘀血，自然一涌而出，无少阻滞矣^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“方妙，不可加减。”

子死腹中难产

妇人有生产六七日，胞衣已破，而子不见下，人以为难产之故也，谁知是子已死于腹中乎！夫儿死于儿门之边易辨，而死于腹中难识。盖儿已到产门之边，未死者头必能伸能缩，已死者必然不动，即以手推之，亦必不动如故。若系未死，用手

少拔其儿之发，儿必退入，故曰易辨。若儿死在腹中，何从而知之？然实有可辨而知之者。凡子死腹中，而母可救者，产母之面，必无煤黑之气，是子死而母无死气也；子死腹中而母难救，产母之面，必有烟熏之气，是子死而母亦无生机也。以此辨死生，断断不爽也。既知儿死腹中，不能用药以降之，危道也；若用霸道以泄之，亦危道也。盖生产至六七日，其母之气必甚困乏，乌能胜霸道之治，如用霸道以强逐其死子，恐死子下而母亦立亡矣。必须仍补其母，使母之气血旺，而死子自下也。方用疗儿散。

人参一两 当归二两，酒洗 川牛膝五钱 乳香二钱，去油 鬼臼三钱，研，水飞

水煎。服一剂死子下而母生矣。凡儿之降生，必先转其头；原因其母气血之虚，以致儿不能转头以向下，世人用催生之药，以耗儿之气血，则儿之气不能通达，反致闭闷而死于腹中，此实庸医杀之也。所以难产之疾，断断不可用催生之药，只宜补气补血，以壮其母，而全活婴儿之命正无穷也。此方救儿死之母，仍大补气血，所以救其本也，谁知救本即所以催生哉！^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“下死胎不用厚朴妙。曾有产妇面黑舌青，用补气、养血、活血之药而子母复得皆全者，亦万中之一幸也。”

正 产

正产胞衣不下

产妇有儿已下地，而胞衣留滞于腹中，二、三日不下，心

烦意躁，时欲昏晕，人以为胞衣之蒂未断也，谁知是血少干枯，粘连于腹中乎！世人见胞衣不下，未免心怀疑惧，恐其冲之于心，而有死亡之兆。然而胞衣究何能上冲于心也。但胞衣不下，瘀血未免难行，恐有血晕之虞耳。治法仍宜大补其气血。使生血以送胞衣，则胞衣自然润滑，润滑则易下，生气以助生血，则血生自然迅速，尤易催堕也。方用送胞汤。

当归二两，酒洗 川芎五钱 益母草一两 乳香一两，不去油 没药一两，不去油 芥穗三钱，炒黑 麝香五厘，研，另冲

水煎服，立下。此方以芎、归补其气血，以荆芥引血归经，用益母、乳香等药，逐瘀而下胞衣，新血既生，则旧血难存，气旺上升，而瘀浊自降，尚有留滞之苦哉！夫胞衣是包儿之一物，非依于子，即依于母，子生而不随子俱下，以子之不可依也，故留滞于腹，若有回顺其母之心，母胞虽已生子，而其蒂间之气，原未遽绝，所以留连欲脱而未脱，往往有存腹六七日不下，而竟不腐烂者，正以其尚有生气也。可见胞衣留腹，不能杀人，补之而自降耳。或谓胞衣既有生气，补气补血，则胞衣亦宜坚牢，何以补之而反降也？不知子未下，补则益于子；子已下，补则益于母。益子而胞衣之气连，益母而胞衣之气脱。此胞胎之气关，通则两合，闭则两开矣。故大补气血而胞衣反降也。

有妇人子下地五、六日，而胞衣留于腹中，百计治之，竟不能下，而又绝无昏晕烦躁之状，人以为瘀血之粘连也，谁知是气虚不能推送乎！夫瘀血在腹，断无不作祟之理，有则必然发晕，今安然无恙，是血已净矣。血净宜清气升而浊气降。今胞衣不下，是清气下降而难升，遂至浊气上浮而难降。然浊气上升，又必有烦躁之病，今亦安然者，是清浊之气两不能升也。在则补其气不无浊气之上升乎？不知清升而浊降者，一定

之理，未有清升而浊亦升者也。苟能于补气之中，仍分其清浊之气，则升清正所以降浊也。方用补中益气汤。

人参三钱 生黄芪一两 柴胡三分 炙草一分 当归五钱 白术五钱，土炒 升麻三分 陈皮二分 莱菔子五分，炒，研

水煎服。一剂而胞衣自下矣。夫补中益气汤乃提气之药也，并非推送之剂，何以能降胞衣如此之速也？然而浊气之不降者，由于清气之不升也；提其气则清升而浊降，浊气降则腹中所存之物，既无不随浊气而尽降，正不必再用推送之法也。况又加莱菔子数分，能理浊气，不至两相扞格，所以奏功之奇也。^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“方极效。”

正产气虚血晕

妇人甫产儿后，忽然眼目昏花，呕恶欲吐，中心无主，或神魂外越，恍若天上行云，人以为恶血冲心之患也，谁知是气虚欲脱而然乎！盖新产之妇，血必尽倾，血室空虚，止存几微之气；倘其人阳气素虚，不能生血，心中之血，前已荫胎，胎堕而心中之血亦随胎而俱堕，心无血养，所赖者几微之气以固之耳。今气又虚而欲脱，所剩残血，欲奔回救主，而血非正血^①，不能归经，内庭变乱，而成血晕之症矣。治法必须大补气血，断不可单治血晕也；或疑血晕是热血上冲，而更补其血，不愈助其上冲之势乎？不知新血不生，旧血不散，补血以生新血，正活血以逐旧血也。然血乃有形之物，难以速生，气乃无形之物，易于迅发，补气以生血，尤易于补血以生血耳。方用补气解晕汤。

人参一两 生黄芪一两 当归一两，不酒洗 黑芥穗三钱 姜炭一钱

水煎服。一剂而晕止，二剂而心定，三剂而血生，四剂而血旺，再不晕矣。此乃解晕之圣药，用参、芪以补气，使气壮而生血也；用当归以补血，使血旺而养气也，气血两旺，而心自定矣；用荆芥炭引血归经，用姜炭以行瘀引阳，瘀血去而正血归，不必解晕而晕自解矣。一方之中，药止五味，而其奏功之奇而大如此，其神矣乎。^②

【注释】

① 这里说“非正血”，下面说“旧血”，都是属于不科学的说法。

② 前人对这一篇加有批语：“原方极效，不可加减。”

正产血晕不语

产妇有子方下地，即昏晕不语，此气血两脱也，本在不救；然救之得法，亦有能生者。山得歧天师秘诀，何敢隐而不宣乎？当斯之时，急用银针刺其眉心，得血出则语矣。然后以人参一两煎汤灌之，无不生者；即用黄芪二两，当归一两，名当归补血汤，煎汤一碗灌之亦得生。万不可于二方之中，轻加附子。盖附子无经不达，反引气血之药，走而不守，不能专注于胞胎，不若人参、归、芪直救其气血之绝，聚而不散也。盖产妇昏晕，全是血室空虚，无以养心，以致昏晕。舌为心之苗，心既无主，而舌又安能出声耶？夫眉心之穴，上通于脑，下通于舌，而其系则连于心，刺其眉心，则脑与舌俱通，而心之清气上升，则瘀血自然下降矣，然后以参、芪、当归之能补气生血者，煎汤灌之，则气与血接续，又何至于死亡乎！虽单用参、芪、当归亦有能生者，然终不若先刺眉心之为更妙。世人但知灸眉心之法，不知刺更胜于灸，盖灸法缓而刺法急，缓则难于救绝，急则易于回生。所谓“急则治其标，缓则治其本”者，此也。

正产败血攻心晕狂

妇人有产后二、三日，发热，恶露不行，败血攻心，狂言呼叫，甚欲奔走，拿捉不定，人以为邪热在胃之过，谁知是血虚心不得养而然乎！夫产后之血，尽随胞胎而外越，则血室空虚，脏腑皆无血养，只有心中之血，尚存几微，以护心君。而脏腑失其所养，皆欲取给于心；心包为心君之宰相，拦绝各脏腑之气，不许入心，始得心神安静，是护心者全借心包之力也。使心包亦虚，不能障心，而各脏腑之气遂直入于心，以分取乎心血，心包情急，既不能内顾其君，又不能外御乎众，于是大声疾呼，而其迹象反近于狂悖，有无可如何之势，故病状似热而实非热也。治法须大补心中之血，使各脏腑分取以自养，不得再扰乎心，则心藏泰然，而心包亦安矣。方用安心汤。

当归二两 川芎一两 生地五钱，炒 丹皮五钱，炒 生蒲黄二钱 干荷叶一片，引

水煎服。一剂而狂定，恶露亦下矣。此方用芎、归以养血，何以又用生地、丹皮之凉血，似非产后所宜？不知恶露所以奔心，原因虚热相犯，于补中凉之，而凉不为害，况益之以荷叶，七窍相通，引邪外出，不惟内不害心，且佐蒲黄以分解乎恶露出。但只可暂用以定狂，不可多用以取咎也。谨之慎之。^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“服药后狂定，宜服加味生化汤：当归（酒洗）一两一钱，川芎三钱，桃仁（研）钱半，荆芥穗（炒炭）一钱，丹皮钱半，服四剂妙。”

正产肠下

产妇肠下^①，亦危症也，人以为儿门不关之故，谁知是气

虚下陷而不能收乎！夫气虚下陷，自宜用升提之药，以提其气。然新产之妇，恐有瘀血在腹，一旦提气，并瘀血升腾于上，则冲心之患，又恐变出非常，是气不可竟提也。气既不可竟提，而气又下陷，将用何法以治之哉？盖气之下陷者，因气之虚也，但补其气，则气旺而肠自升举矣。惟是补气之药少，则气力薄而难以上升，必须以多为贵，则阳旺力强，断不能降而不升矣。方用**补气升肠饮**。

人参一两，去芦 生黄芪一两 当归一两，酒洗 白术五钱，土炒
川芎三钱，酒洗 升麻一分

水煎服。一剂而肠升矣。此方纯于补气，全不去升肠，即如用升麻一分，亦不过引气而升耳。盖升麻之为用，少则气升，多则血升也，不可不知。又方用草麻仁四十九粒捣涂顶心以提之，肠升即刻洗去，时久则恐吐血，此亦升肠之一法也。^②

【注释】

① 肠下：中医又称子宫为产肠。肠下指产后子宫脱垂。

② 前人对这一篇加有批语：“生产有子未下，肠先下者，名盘肠生，勿遽服此方。急取一净盆，用开水洗热，将肠置于盆内，静待，勿惧。子下后，肠即徐徐收回。若时久，盆与肠俱冷，不能速收。急用开水一盆待温，以人得手为度，将温水倾于置肠盆内，肠热气充，即可收起矣。若子先下，急服此方。少迟，恐气脱不救。”这是古代治疗子宫脱垂的方法。

产 后

产后少腹疼

妇人产后少腹疼痛，甚则结成一块，按之愈疼，人以为儿枕之疼也，谁知是瘀血作祟乎！夫儿枕者，前人谓儿头枕之物也。儿枕之不疼，岂儿生不枕而反疼，是非儿枕可知矣。既非

儿枕，何故作疼？乃是瘀血未散，结作成团而作疼耳。凡此等症，多是壮健之妇血有余，而非血不足也。似乎可用破血之药；然血活则瘀自除，血结则瘀作祟，若不补血而反败血，虽瘀血可消，毕竟耗损难免，不若于补血之中，以行逐瘀之法，则气血不耗，而瘀亦尽消矣。方用散结定疼汤。

当归一两，酒洗 川芎五钱，酒洗 丹皮二钱，炒 益母草三钱 黑芥穗二钱 乳香一钱，去油 山楂十粒，炒黑 桃仁七粒，泡去皮尖，炒，研

水煎。服一剂而疼止而愈，不必再剂也。此方逐瘀于补血之中，消块于生血之内，妙在不专攻疼痛，而疼痛止。彼世人一见儿枕之疼，动用元胡、苏木、蒲黄、灵脂之类以化块，又何足论哉！

妇人产后少腹疼痛，按之即止，人亦以为儿枕之疼也，谁知是血虚而然乎！夫产后亡血过多，血室空虚，原能腹痛，十妇九然。但疼有虚实之分，不可不辨：如燥糠触体光景，是虚疼而非实疼也。大凡虚疼宜补，而产后之虚疼，尤宜补焉。惟是血虚之疼，必须用补血之药，而补血之味，多是润滑之品，恐与大肠不无相碍；然产后血虚，肠多干燥，润滑正相宜也，何碍之有。方用肠宁汤。

当归一两，酒洗 熟地一两，九蒸 人参三钱 麦冬三钱，去心 阿胶三钱，蛤粉炒 山药三钱，炒 续断二钱 甘草一钱 肉桂二分，去粗，研

水煎服。一剂而疼轻，二剂而疼止，多服更宜。此方补气补血之药也；然补气而无太郁之忧，补血而无太滞之患，气血既生，不必止疼而疼自止矣。^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“前后二方妙，不必加减。”

产后气喘

妇人产后气喘，最是大危之症，苟不急治，立刻死亡，人只知是气血之虚也，谁知是气血两脱乎！夫既气血两脱人将立死，何又能作喘？然此血将脱，而气犹未脱也。血将脱而气欲绝也，而反上喘，如人救溺，援之而力不胜，又不肯自安于不救，乃召号同志以救助，故呼声而喘作，其症虽危，而可救处正在能作喘也。盖肺主气，喘则肺气似盛而实衰，当是之时，血将脱而万难骤生，望肺气之相救甚急；而肺因血失，止存几微之气，自顾尚且不暇，又何能提挈乎血，气不与血俱脱者几希矣，是救血必须补气也。方用救脱活母汤。

人参二两 当归一两，酒洗 熟地一两，九蒸 枸杞子五钱 山萸五钱，蒸，去核 麦冬一两，去心 阿胶二钱，蛤粉炒 肉桂一钱，去粗，研 黑芥穗二钱

水煎服。一剂而喘轻，二剂而喘减，三剂而喘定，四剂而全愈矣。此方用人参以接续元阳，然徒补其气而不补其血，则阳燥而狂，虽回生于一时，亦旋得旋失之道；即补血而不补其肝肾之精，则本原不固，阳气又安得而续乎！所以又用熟地、山萸、枸杞之类，以大补其肝肾之精，而后大益其肺气，则肺气健旺，升提有力矣。特虑新产之后，用补阴之药，腻滞不行，又加肉桂以补命门之火，使火气有根，助人参以生气，且能运化地黄之类，以化精生血。若过于助阳，万一血随阳动瘀而上行，亦非保全之策，更加荆芥以引血归经，则肺气安而喘速定，治几其神乎！^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“方妙，不可加减。”

产后恶寒身颤

妇人产后恶寒恶心，身体颤，发热作渴，人以为产后伤寒也，谁知是气血两虚，正不敌邪而然乎！大凡人之气不虚，则邪断难入。产妇失血既多，则气必大虚，气虚则皮毛无卫，邪原易入，正不必户外之风来袭体也，即一举一动，风即可乘虚而入之。然产后之妇，风易入而亦易出。凡有外邪之感，俱不必祛风，况产妇之恶寒者，寒由内生也。发热者，热由内弱也；身颤者，颤由气虚也。治其内寒，而外寒自散；治其内弱，而外热自解；壮其元阳，而身颤自除。方用十全大补汤。

人参三钱 白术三钱，土炒 茯苓三钱，去皮 甘草一钱，炙 川芎一钱，酒洗 当归三钱，酒洗 熟地五钱，九蒸 白芍二钱，酒炒 黄芪一两，生用 肉桂一钱，去粗，研

水煎服。一剂两诸病悉愈。此方但补气与血之虚，而不去散风与邪之实，正以正足而邪自除也，况原无邪气乎！所以奏功之捷也^①。

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“宜连服数剂，不可只服一剂。”

产后恶心呕吐

妇人产后恶心欲呕，时而作吐，人皆曰胃气之寒也，谁知是肾气之寒乎！夫胃为肾之关，胃之气寒，则胃气不能行于肾之中；肾之气寒，则肾气亦不能行于胃之内，是肾与胃不可分而两之也。惟是产后失血过多，必致肾水干涸，肾水涸应肾火上炎，当不至胃有寒冷之虞，何故肾寒而胃亦寒乎？盖新产之余，水乃遽然涸去，虚火尚不能生，火既不生，而寒之象自现。治法宜补其肾中之火，然火无水济，则火在水上，未必不

成火动阴虚之症，必须于水中补火，肾中温胃，而后肾无太热之患，胃有既济之欢也。方用温肾止呕汤。

熟地五钱，九蒸 巴戟一两，盐水浸 人参三钱 白术一两，土炒
山萸五钱，蒸，去核 炮姜一钱 茯苓二钱，去皮 橘红五分，姜汁洗
白蔻一粒，研

水煎服。一剂而呕吐止，二剂而不再发，四剂而全愈矣。此方补肾之药，多于治胃之品，然后治肾仍是治胃也。所以肾气升腾，而胃寒自解，不必用大热之剂，温胃而祛寒也。^①

【注释】

① 前人对这一篇加有批语：“服此方必待恶露尽后。若初产一、二日之内恶心呕吐，乃恶露上冲，宜服加味生化汤：全当归一两（酒洗），川芎二钱，炮姜一钱，东楂炭二钱，桃仁一钱（研，用无灰黄酒一钟，水三钟同煎）。”

产后血崩

少妇产后半月，血崩昏晕，目见鬼神，人皆曰恶血冲心也，谁知是不慎房帟之过乎！夫产后业逾半月，虽不比初产之二、三日，而气血初生，尚未全复，即血路已净，而胞胎之损伤未痊，断不可轻于一试，以重伤其门户^①。气血初复，不知慎养，致血崩昏晕，目见鬼神，是心肾两伤，不特胞胎门户已也。精泄而神亦随之欲脱，舍大补其气与血，别无良法也。方用救败求生汤。

人参二两 当归二两，酒洗 白术二两，土炒 九蒸熟地一两
山萸五钱，蒸 山药五钱，炒 枣仁五钱，生用 附子一分或一钱，自制

水煎服。一剂而神定，二剂而晕止，三剂而血亦止矣。倘一服见效，连服三、四剂，减去一半，再服十剂，可庆更生。此方补气以回元阳于无何有之乡，阳回而气回，自可摄血以归

神，生精而续命矣。^②

【注释】

① 门户：这里指生殖器官。

② 前人对这一篇加有批语：“亦有中气素虚，产后顷刻血崩不止，气亦随之而脱。此至危之证，十常不救者八、九，惟用独参汤尚可救活一、二。辽人参去芦五钱，打碎，急煎，迟则气脱不及待矣。煎成徐徐灌之，待气回再煎一服灌之。其余治法参看血崩门。但产后不可用杭芍炭以及诸凉药。然此证皆系临产一、二日前入房所致，戒之！”

产后手伤胞胎淋漓不止

妇人有生产之时，被稳婆手入产门，损伤胞胎，因而淋漓不止，欲少忍须臾而不能，人谓胞破不能再补也，孰知不然。夫破伤皮肤，尚可完补，岂破在腹内者，独不可治疗？或谓破在外可用药外治，以生皮肤；破在内，虽有灵膏，无可救补，然破之在内者，外治虽无可施力，安必内治不可奏功乎！试思疮伤之毒，大有缺陷，尚可服药以生肌肉，此不过收生不谨，小有所损，并无恶毒，何难补其缺陷也。方用完胞饮。

人参一两 白术十两，土炒 茯苓三钱，去皮 生黄芪五钱 当归一两，酒炒 川芎五钱 白芨末一钱 红花一钱 益母草三钱 桃仁十粒，泡炒，研

用猪羊胞一个，先煎汤，后煎药，饥服十剂全愈。夫胞损宜用补胞之药，何以反用补气血之药也？盖生产本不可手探试，而稳婆竟以手探，胞胎以致伤损，则难产必矣。难产者，因气血之虚也。产后大伤气血，是虚而又虚矣，因虚而损，复因损而更虚，若不补其气与血，而胞胎之破，何以奏功乎！今之大补其气血者，不啻饥而与之食，渴而与之饮也，则精神大长，气血再造，则胞胎何难以补完乎，所以旬日之内便成功也。

产后四肢浮肿

产后四肢浮肿，寒热往来^①，气喘咳嗽，胸膈不利，口吐酸水，两胁疼痛，人皆曰败血流于经络，渗于四肢，以致气逆^②也，谁知是肝肾两虚，阴不得出之阳乎！夫产后之妇，气血大亏，自然肾水不足，肾水沸腾；然水不足则不能养肝，而肝木大燥，木中乏津，木燥火发，肾火有党，子母^③两焚，火焰直冲，则上克肺金，金受火刑，力难制肝，而咳嗽喘满之病生焉；肝火既旺而下克脾土，土受木刑，力难制水，而四肢浮肿之病出焉。然而肝木之火旺，乃假象而非真旺也。假旺之气，若盛而实不足，故时而热时而寒，往来无定，乃随气之盛衰以为寒热，而寒非真寒，热亦非真热，是以气逆于胸膈之间而不舒耳。两胁者，肝之部位也。酸者，肝之气味也，吐酸胁疼痛，皆肝虚而肾不能荣之象也。治法宜补血以养肝，补精以生血，精血足而气自顺，而寒热咳嗽浮肿之病悉退矣。方用转气汤。

人参三钱 茯苓三钱，去皮 白术三钱，土炒 当归五钱，酒洗
白芍五钱，酒炒 熟地一两，九蒸 山萸三钱，蒸 山药五钱，炒 芡实三钱，炒 柴胡五分 故纸一钱，盐水炒

水煎服。三剂效，十剂痊。此方皆是补血补精之品，何以名为转气耶？不知气逆由于气虚，乃是肝肾之气虚也。补肝肾之精血，即所以补肝肾之气也。盖虚则逆，旺则顺，是补即转也；气转而各症尽愈，阴出之阳，则阴阳无扞格之虞矣^④。

【注释】

① 寒热往来：恶寒和发热交替出现，定时或不定时发作的情况。

② 气逆：指气上逆而不顺。

③ 子母：指肾（火）和肝（木），木生火，故称母子。

④ 前人对这一篇加有批语：“方妙不可加减。白芍宜炒炭用。”

产后肝痿

妇人产后阴户中垂下一物，其形如帕，或有角、或二歧，人以为产颓^①也，谁知是肝痿^②之故乎！夫产后何以成肝痿也？盖因产前劳役过伤，又触动怪怒，以致肝不藏血，血亡过多，故肝之脂膜^③随血崩坠，其形似子宫，而实非子宫也。若是子宫之下坠，状如茄子，只到产门，而不能越出于产门之外。惟肝之脂膜往往出产门外者，至六、七寸许，且有粘席干落一片，如手掌大者，如是子宫坠落，人立死矣，又安得而复生乎！治法宜大补其气与血，而少加升提之品，则肝气旺而易生，肝血旺而易养，肝得生养之力，而脂膜自收。方用收膜汤。

生黄芪一两 人参五钱 白术五钱，土炒 当归三钱，酒洗 升麻一钱 白芍五钱，酒炒焦

水煎服。一剂即收矣。或疑产后禁用白芍，恐伐生气之源，何以频用之而奏功也？是未读仲景之书者，嗟乎！白芍之在产后不可频用者，恐其收敛乎瘀也；而谓伐生气之源，则误矣。况病之在肝者，尤不可以不用；且用之于大补气血之中，在芍药亦忘其为酸收矣，又何能少有作祟者乎！矧脂膜下坠，正借酸收之力，助升麻以提升气血，所以奏功之捷也。^④

【注释】

① 产颓：指产后生殖系统收缩乏力所致的疾病。

② 肝痿：又称筋痿（肝主一身之筋膜）。痿症的一种，由于肝热而阴血不足，筋膜干枯所致。

③ 脂膜：筋膜。

④ 前人对这一篇加有批语：“收肝膜全赖白芍之功，不可用炭。”

产后气血两虚乳汁不下

妇人产后绝无点滴之乳，人以为乳管之闭也，谁知是气与血之两涸乎！夫乳乃气血之所化而成也，无血固不能生乳汁，无气亦不能生乳汁；然二者之中，血之化乳，又不若气之所化为尤速。新产之妇，血已大亏，血本自顾不暇，又何能以化乳？乳全赖气之力，以行血而化之也。今产后数日，而乳不下，点滴之汁，其血少气衰可知。气旺则乳汁旺，气衰则乳汁衰，气涸则乳汁亦涸，必然之势也。世人不知大补气血之妙，而一味通乳，岂知无气则乳无以化，无血则乳无以生，不几向饥人而乞食，贫人而索血乎！治法宜补气以生血，而乳汁自下，不必利窍以通乳也。方名通乳丹。

人参一两 生黄芪一两 当归二两，酒洗 麦冬五钱，去心 木通三分 桔梗三分 七孔猪蹄二个，去爪壳

水煎服。二剂而乳如泉涌矣。此方专补气血以生乳汁，正以乳生于气血也。产后气血涸而无乳，非乳管之闭而无乳者可比。不去通乳而名通乳丹，亦因服之乳通而名之；今不通乳而乳生，即名生乳丹亦可。

产后郁结乳汁不通

少壮之妇，于生产之后，或闻丈夫之嫌，或听翁姑之谗，遂致两乳胀满疼痛，乳汁不通，人以为阳明之火热也，谁知是肝气之郁结乎！夫阳明属胃，乃多气多血之府也。乳汁之化，原属阳明，然阳明属土，壮妇产后，虽云亡血，而阳明之气，实未尽衰，必得肝木之气以相通，始能化成乳汁，未可全责之阳明也。盖乳汁不化，全在气而不在血。今产后数日，宜其有乳，而两乳胀满作痛，是欲化乳而不可得，非气郁而何？明明

是羞愤成郁，土木^①相结，又安能化乳而成汁也。治法宜大舒其肝木之气，而阳明之气血自通，而乳亦通矣，不必专去通乳也。方名通肝生乳汤。

白芍五钱，醋炒 当归五钱，酒洗 白术五钱，土炒 熟地三分
甘草三分 麦冬五钱，去心 通草一钱 柴胡一钱 远志一钱

水煎服。一剂即通，不必再服也。^②

【注释】

① 土木相结：脾属土，胃与脾相表里，同属于土；肝属木。胃气和肝气都不通畅，故称为“土木相结”。

② 前人对这一篇加有批语：“麦冬用小米炒，不惟不寒胃，且得米味一直引入胃中，而化乳愈速。”

[G e n e r a l I n f o r m a t i o n]

书名= 傅青主男女科

作者= (明) 傅山著

页数= 1 7 7

S S 号= 1 1 8 1 5 2 3 3

出版日期= 2 0 0 6 . 7